

昭和63年度

No. **34** 部 報



北大馬術部

北大馬術部讃歌

作詩 三浦清一郎
作曲 滝沢南海雄

はるきたれば だいちひかーる
しろがねのえんざん ゆめほうほうたり
たからかにいま そいななけわれ
らしゅんめのほまーれあり
ほまーれあり ほく だい ほく だい お
おわがほこう われらしゅんめの
ほまーれあり

北大馬術部讃歌

- 一、春来たれば、大地光る
銀の遠山 夢茫々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり
- 二、時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり
- 三、雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
深然と 進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり
- 北大！ 北大 おゝ我が母校
われら駿馬のほまれあり



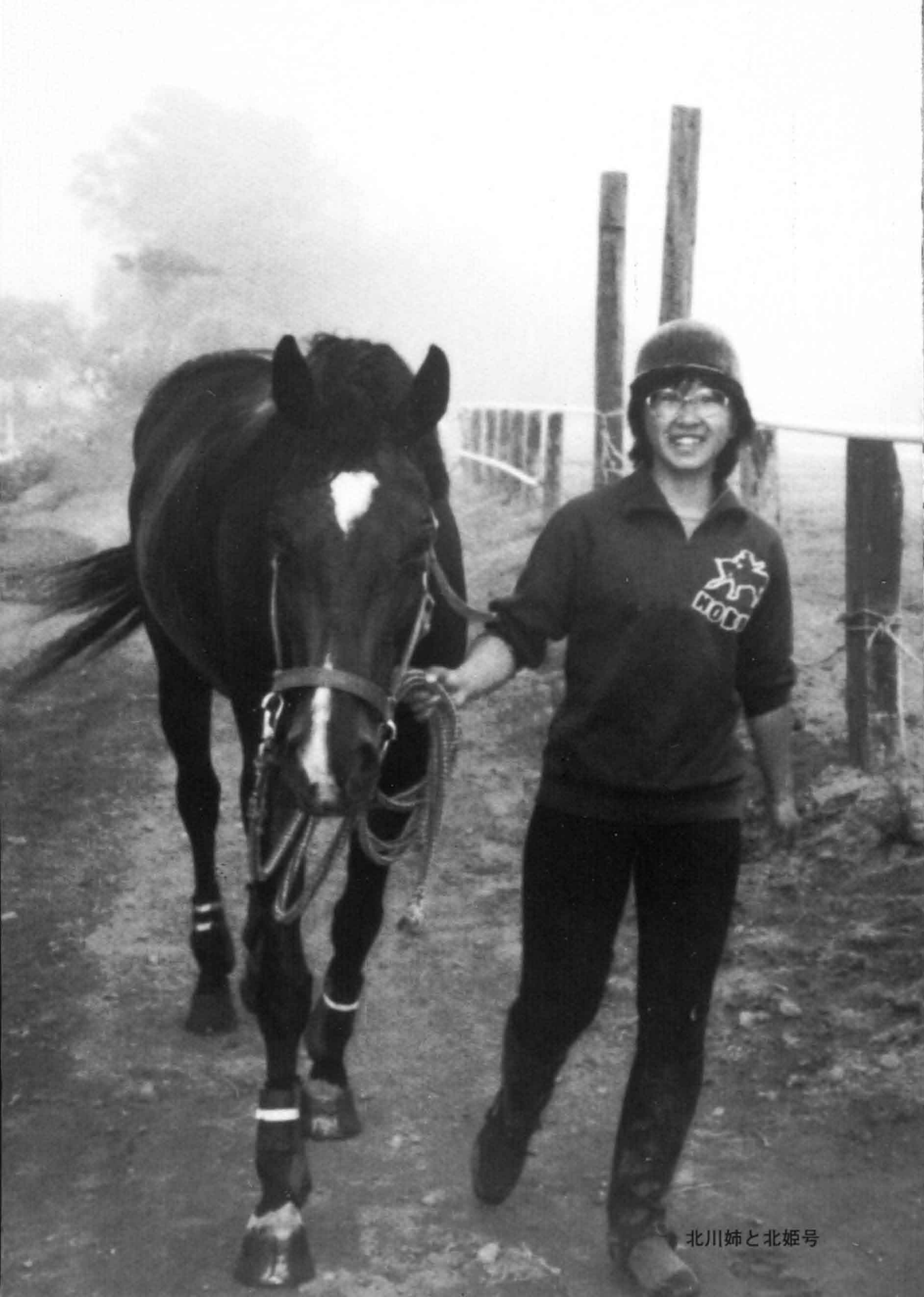
大歳兄と北凜号



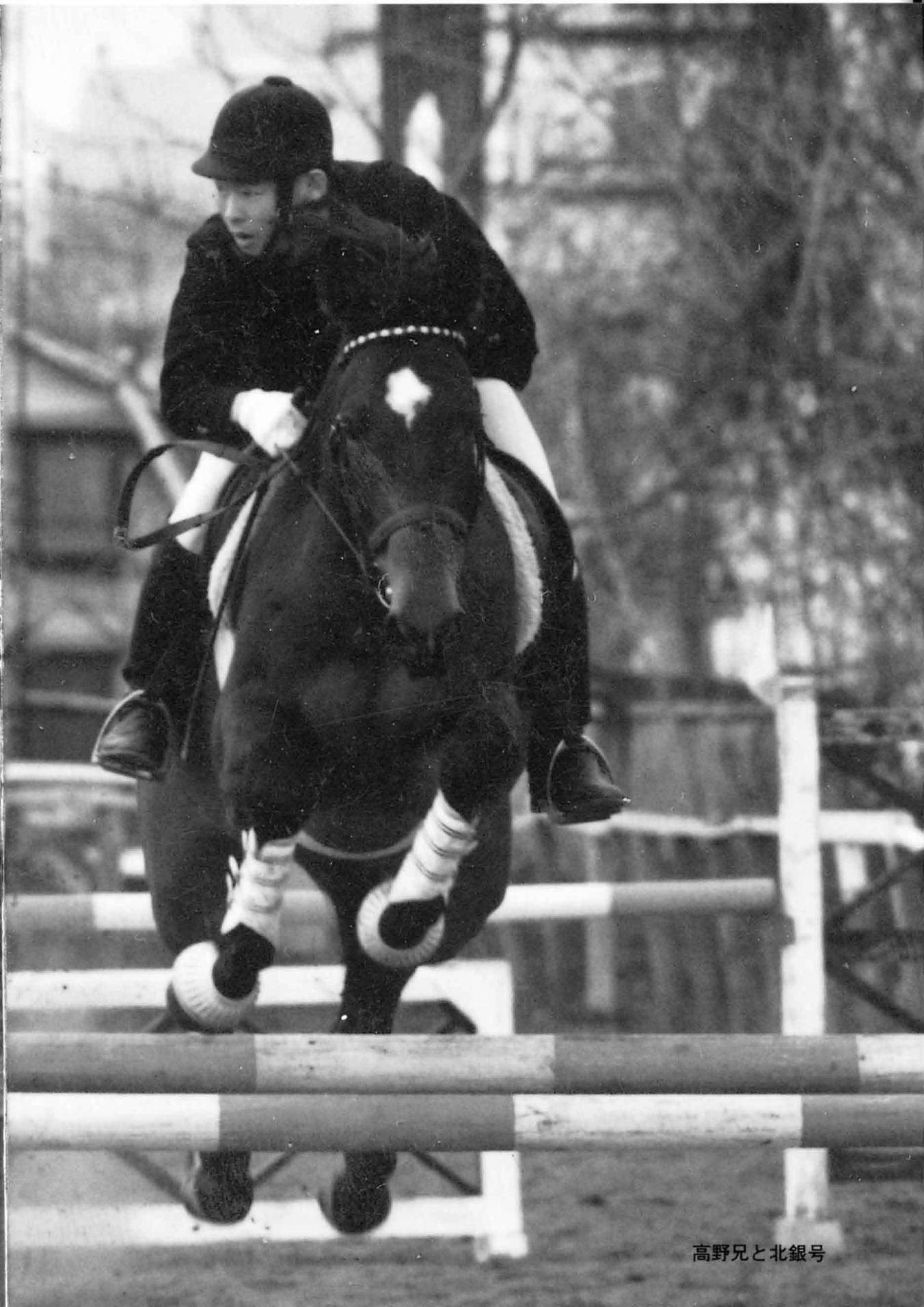
加藤姉と北玲号



金田兄と北楡号



北川姉と北姫号





中野兄と北星子号



ドンホッパー号



全日本学生馬術大会

目

次

巻頭言	齋藤 善一	1
無意味にガンバと云う勿水	岡田 光夫	2
続机上馬術	半沢 道郎	3
前主将から	中野 兼一	7
現在のクラブ状況		8
会計報告		11
行事報告		12
戦績報告		14
全日学特集		23
調教報告		
北皇子号	中野 兼一	29
ノエル号	前田 武己	31
北銀号	高野 薫	33
北玲号	加藤ゆうこ	37
北凜号	大歳 正明	44
北駿号	長屋 清隆	47
北瑛号	半沢 道郎	54
北楡号	金田 克己	57
新馬紹介		
北罌号	岡田 光夫	62
北峰号		63
グレン・エトワール号		64
パシオン M号	加藤ゆうこ	65
明日楡号		67
ドン・ホッパー特集		68
北大水産学部活動報告	北川 知子	77
東京OB会	名越 正泰	78
卒部にあたって		80
自己紹介、他己紹介		85
北海道大学馬術部名簿		102

巻 頭 言

部 長 斎 藤 善 一

感激と、いささかの緊張をもって部長の大任を引き受けましたが、御蔭様で大きな事故もなく1シーズンを過ごしました。競馬場の御好意と部員諸君の努力により、馬場には十分な砂が入り、坪は更新され見違えるように立派になりました。さらに、各競技会でも優秀な成績をあげてくれたので一安心しております。部長の仕事に或程度馴れてきた頃にヘマをし易いものと思っけて気を付けております。

今年の特筆すべきことは、全日本学生総合競技会において団体3位になったことでしょう。半沢先生や岡田監督の御盡力、後援会、先輩諸兄姉の御支援助、部員全体の協力一致、選手諸君の日頃の精進が実を結び、こんなに嬉しいことはありません。3位に甘んじることなく、2位、優勝を目指して頑張るように、とハッパをかけることは忘れておりませんが、優秀な馬を揃えた私大チームを相手にしてよくやったと感心しております。一本勝負の試合で、3名の選手が揃って好成績をあげることの難しさは申すまでもありません。小生は、東京まで出向いておりながら選手諸君の応援も出来ず、晴れの表彰式を見ることも出来なかったのは残念であり、申し訳なく思っています。たまたま、障碍飛越競技の表彰式に居合わせたのですが、表彰される学生、付添者の行儀の悪さに驚きました。派手な馬服をきせその上に騎乗し、馬場の中を走りまわっておりましたが、某大学の選手達は保護帽を放り上げました。自分を守ってくれる大切な競技用品であるのに、また、騎乗中は無帽は許されないのに、何ということかと思いました。いろいろと新しい習慣や、イキな感情の表現法が定着していることを知りましたが、その意味をよく考えて取り入れるべきかと思ひます。さらに、会長が賞状を読み上げておられる時に、その前でニヤニヤしながら応援者と目で合図をかわしている選手もおりました。成績はよくても表彰に値しないというべきでしょう。我が北大馬術部には、そのような無作法な部員はおりませんが、念の為に述べました。馬場馬術の課目の中で、最初でしかも印象深い課目は停止敬礼ですが、表彰式においてもキチンとした立居振る舞い、正しい姿勢、心のこもった敬礼は大切であると思ひます。

全日学の折に全国馬術部長会議があり、小生も新任挨拶のつもりで参加してきました。そこで、来年はネーションズカップという学生の国際貸与馬競技がわが国で開催されることを知り、貸与馬競技の重要性を憶い起こしました。「千鞍一修業」というのは、千回騎乗して一人前という事であると聞きましたが、千頭の馬にのってのはじめて馬が判るという意味にも考えられます。学生馬術のあり方として、もう少し貸与馬競技を重視してもよいと思ひます。一部には、貸与馬競技は馬術に非ずという極端な意見もあると聞きますが、貸与馬競技の試乗期間を非常に長くした程度の自馬が多いことを考えると、云い過ぎでしょう。学生時代は、いろいろとやって見る時代です。そういう意味からも、自馬競技と貸与馬競技を程よく調和させることが肝要と考えておりますが、部員諸君の意見を知りたいところです。

無事平穏に見えても次々と問題が出てくるものです。北18条通りの拡張問題もいずれ再燃することでしょう。多くの方々の御協力を得て有利に対処していきたいと願っております。よろしくお願ひ致します。

無意味にガンバという勿水

岡田 光夫

先日ラジオを聞いていたらスポーツ解説の時間だったのかアイスホッケーの話が耳に入ってきた。私も肉弾相うつアイスホッケーは好きでよくテレビを見る事がある。反則を犯して退場を命ぜられた選手が力なくリンクサイドに作られた控所に入って行くと無責任に「ああ、留置所に入れられた」「ああ、釈放された」などと云いながら眺めている。ところが、その時のスポーツ解説は野球の事であったが、「昨日見たアイスホッケーの試合で、選手が閉じ込められるゲートの開け閉めをやっていた係員は実に見事な行動をとっていた。その開け閉めが実に適切な時期に正しく行われていて、試合の進行にどれ程役立ったろう、見ても気持ちよかった。きっと補欠の選手かも知れないが、彼の頭の中には試合の推移がよく入っていて自分も試合に臨んでいる様な気持ちでゲートの開け閉めをやっていたのだろう。きっと試合に出てもそれなりの活躍の出来る選手にちがいありませんね。」とべたぼめにほめていた。それから話は野球の話に移って行ったが、成程縁の下の力持ちの様な係員の行動一つにしても見る人は見ているのだなあと感じ入った次第である。

我々馬術の試合にも多くの縁の下の力持ちの仕事の人達が多い。出入り口の開け閉め、障害の復旧、スタートの旗ふりといろいろある。その人達がそれなりに全力を尽くして試合の進行に協力している。気持ちのよいスターターの旗のふり方で競技に真剣味を持たすこともあるし、適切な入退場が試合を本当に流れる様に進行させることもある。さてこの様な役目を仰せつかった人以外はどうかろう。よく、試合を見て来ただけでも上達するものだと言われる。それは自分も試合の流れの中に浸り切り、時に人の失敗を見て自分ならああする、いやこうの方がよかったと考えながら見ていて、それを自分のものにする人達だけが試合に出なくても、馬の世話をやいてきただけの人であっても帰ってきて実践して、はじめて上達したと言われるのではなかろうか。それが残念ながら大多数の人は、表題のように無意味に「ガンバ」「ガンバ」とまるで芝居の掛け声の様に大声をあげているだけに過ぎないと言つて過言であるまい。何も今更お説教がましく言うわけではないけれども、昨今の競技は非常にむずかしくなってきた。障害物もポリウムのあるものが増えたしコースの取り方で間歩があわなくなったり巾障害で歩度をのばさせておいて高い垂直障害が出てきたり、コースビルダーの苦心のコースともいうものが大きな評価を受ける様になってきた。従つて昔の様な定形的なコースというものはなくなり人馬は常に新しい試練にさらされるといってよいだろう。今年京都の国体で成年自馬障害飛越に出場した選手が、試合が終わつて「いやあ恐かつた」と思わずもらしたのを聞いた。

これからは人馬共に試合に馴れなければ勝てなくなつてきた。試合に出るチャンスの少ない我々北海道勢としては真剣に馬上の人になつたつもりで試合を食い入るようを見て、コースの取り方、歩度の配合、歩巾の調節など勉強して欲しい。上の空でただ「ガンバ」「ガンバ」とおざなりにお題目を唱える様にどなるのだけはやめたいものである。もう一度云わせてもらえば「部員の少ない年には真剣味にあふれ、今年のように好成績をおさめることができるが、部員が多いと真剣味に欠けるのかよい成績を取ることが難しい」様である。今年国体の年でもある、皆でガンバロウではないか。

続 机 上 馬 術

第6代部長 半澤道郎

部報第32号誌上に「机上馬術」と題して馬術関係図書、文献の読み方について拙文を載せて頂いた。文献には事項の表示に言語を文字として意志を伝達していることは当然である。該当する事項を正確に伝達する言語は普遍妥当性がなければ通用しないであろうし、それを表現する文字は十分に選択して決めなければならないものと考えられる。従来（時には古来）使われてきた言語、文字を変更すること、また新しい言語を造り、それを表現する文字を選ぶ場合には、慎重な研究をもってする必要がある。事項、内容が同じでも、国により、地区による地理的、歴史的条件によって、それを表現する言語が異なり文字が違ふ。

日本語で表現し、日本語で書き表わす場合でさえ非常に難しいのは、専門語（特定の分野または内容に関する専門的な言葉、文字）が不統一であるためで、外国語を翻訳して日本語で表現する場合にはなお一層の困難がある。自己流に読んで、どうにか理解することは出来ても、文字にして人様に読んで頂くこととなると慎重な態度で臨まなければならない。

馬事馬術に関係のある者の中で以前から用語の統一をはかろうという議があるが実現していない。折角苦心して外国語を翻訳しても不適切な用語が使われていれば信頼を失うことになる。

わが国は古来から馬、馬事、馬術に関する文献、書物が多く出版されている。昭和15年10月1日、社団法人日本乗馬協会編輯発行の「日本馬術史」（全4巻、第1巻1007頁、第2巻950頁、第3巻941頁、第4巻824頁の大冊）の第4巻には、図版（190頁）、馬術関係年表（287頁）、馬術用語解説（目次16頁、解説125頁）、名馬集（目次共30頁）、馬術参考書目（目次30頁、参考書目176頁）が収録されていて、馬術参考書目には約1500余の誌名が挙げられていて、古来使われてきた言語及びその意味内容を知るために誠に重要である。

旧日本陸軍で教育用に使用した「馬術教範」には洋式馬術が取り入れられ、その用語も翻訳されたものが使われていると思われる。私の手元に太秦先生から頂いた「馬術教範」（大正10年5月、兵用図書株式会社発行）と「馬術教範草案」（大正12年5月、武揚堂書店発行）、「馬術教範」（昭和14年2月、日本兵書出版株式会社発行）及び終戦後軍隊が無くなってから日本馬術連盟で「基本馬術」という小誌を出版（後藤斯馬太氏執筆？、手持ちのものは昭和42年3月発行の第12版）同じく日本馬術連盟から、昭和49年7月に出版された「馬術教範」がある。

日本馬術連盟からはF. E. I. の諸規程（英・仏二か国語）の日本語版を改訂の都度出している。日本馬術連盟から「乗馬の手引（馬とのふれあい）」昭和52年、編集担当者（佐藤卯朔氏）、「乗馬の手引きその一」を9人の編集委員でBritish Horse Society and The Pony Club の The Manual of Horsemanshipを参考にして（騎乗—基本的乗馬技能）を出版したが、その2は未だ出ていない。編集委員の一人佐藤卯朔氏が、この The Manual of Horsemanshipの8th edition(1983)を大変苦心をされて翻訳され、「乗馬教本」の書名で日馬連から昭和60年3月30日第1版が出版された。用語の訳に

注意を拂われ、英語を付記してあって懇切な教本であります。その他、同じThe British Horse Society出版のThe Instructors' Handbook(1971)を新庄武彦氏が翻訳されて「教官の手引」と題し、British Horse Society Equitation -Training of Rider and Horse to Advanced Levels-を馬事公苑の和田雅男、新庄武彦、千葉幹夫の諸氏と日本馬術連盟の佐藤卯朔氏の共同作業で翻訳、編集されたものが「馬術基本書(上級人馬への訓練調教)」と題して何れも同じ昭和60年3月30日、第1版を日馬連で発行しています。また昭和62年3月30日付で日馬連からLeonie M. Marshal著'Dressage terms(1979)を沢田孝明氏訳、千葉幹夫氏監修で「馬場馬術用語集」としてMary Rose著'The horsemaster's Notebook'(Revised edition 1977)を千葉幹夫氏訳で「厩舎管理士手帖」として出版されています。なお少し古いですが昭和51年11月に Uroula Bruns 著' Voltigieren-leicht gemacht'を中島又男、同尚江夫人の翻訳で「やさしく学べる軽乗」が美しい101枚の写真入りで出版されています。この他に昭和4年7月に春陽堂発行で遊佐幸平氏訳註の「フェリス氏の馬術」(原著名不詳)、遊佐氏訳のジュソナム著「馬場馬の調教」、南大路謙一氏が訳されたものに Wilhelm Müsseler著Reitlehr「乗馬教本」(昭和49年発行)、Marten von Barnekow著'Die Ausbildung des Springpferdes'(1950)「障害飛越馬の調教」(昭和34年発行)、L. Seyfert著'Praktische Reiten. Ein Lehrbuch für die Ausbildung des Reiter und Pferd für die Anforderungen des modernen Turniersports'(1955)「実用馬術-近代馬術競技の要求に対する人馬訓練の指南書」(昭和57年)等がある。その他 Captain Federico Caprilli 著'The Caprilli Papers-Principles of Outdoor Equitation'を岩坪 徹氏が「カプリリ-論文集-野外馬術の原則」として昭和51年に、General Decarpantry 著'Equitation Aedemique'を遊佐幸平、城戸後三、永持源次、千葉幹夫氏等の翻訳になる「エキタシオン、アカデミック」が昭和53年7月に日本中央競馬会から発行された。Mary Gordon Watson 著'Riding'(1982)を千葉幹夫氏監訳で「Riding-乗馬-ビギナーからインストラクターまで」と題して昭和59年に竹田恒和氏訳、川口宏一氏監修で「障害馬術」昭和60年にベースボールマガジン社から発行されている。

私は10年ほど前にZdzislaw Baranowski 著の'The International Horseman's Dictionary[Lexique International du Cavalier, Internationales Pferd-Lexikon]'を購入して日本語訳を付けることを試してみた。この辞書は約2300語の馬と馬術に関する名詞、動詞などの言語を、英語、仏語、独語の三か国語に対訳したもので、附図を三か国語刷のアルファベット順の索引とで176頁、それに写真12頁が付けられたもので、初版は1955年ロンドンのMuseum Press Limitedから出版され、1975年にPitman Publishing系から、英、米、オーストラリア、カナダ、ケニア、南東諸国から付図、索引共176頁で、写真がっていない代わりに、34冊の参考著書目録が付けられている縮刷本が出ている。原著にはこの辞書にさらにポーランド語、ポルトガル語、スペイン語の対訳を加える予定である旨が巻末に記されているが、実際に出版されたか否かは未確認である。英、仏、独の対訳の語の選択は原著者のBaranowskiの責任に委ねるとして、それに日本語訳を付けるとなると、三か国別に、種々な辞書、百科辞典、既に翻訳されて日本語版のある上記の図書などを参考にして調べると、全く同一のもの、類似のもの、微妙にnuanceの異なるもの、全く違うもの等があって何れを適訳とするかに迷う有様である。既に日本語に訳されているものでも、訳者、著者によりまちまちである。

この辞書の日本語訳は昭和39年(1964)に東京オリンピックが開催されることが決まり、諸準

備のため、急遽英語だけをぬいて日本語に訳したもののCopyが日馬連に残されていた。何方が訳されたかは不明であるが、十分合議検討されたものではないように思われる。

昭和17年11月科学書院発行の四篠隆徳編者「独和馬事小辞典」、それをCopyしたものの巻末に小津茂郎氏の「馬に関する英和対訳」（出所不明）があり、昭和53年12月に日本中央競馬会「競馬英語辞典」（非売品）、馬事馬術関係外国図書に載せられているGlossary、馬事に関するEncyclopedia類を参考にして訳を付けて見たが、三か国語に該当する日本語を選定することは難しく、関心をもたれる方々の意見を入れて普遍妥当性のものを選定する必要がある。千葉幹夫氏に検討して頂き、特に仏語の適訳を選んで頂くように原稿を送ったりして時間がかかっている中に、オーストラリアの娘さんで1ヶ月谷川牧場で実習をしていて、偶々札幌に来た時に見せたところローマ字を付けないと外国人の役に立たないと言われた。尤ものことで、それには一層適訳を慎重に選ぶ必要を感じさせられた。

馬術関係の用語を統一しようという話は以前から関係者の間に出ていたが、なかなか実現に至らないでいる。幸に昭和62年6月に日本馬場術連盟内に新庄武彦常任理事のお世話で「馬術関係外国図書翻訳同好会」が発足し、現在9名の会員が居る。会報1、2号に夫々所蔵の書籍名や翻訳された図書名が発表されたが、未だ全体的に研究討議するに至っていない。

先日突然一年間英国に留学して来られた石黒健吉氏（同上の会員）から電話があり、新庄氏からの連絡で石黒さんもBaranowskiの辞書を訳され、ほとんど完了されたとのことで、共著にでもして早く出版してはと云われたので、早速私の原稿をお手元にお送りした。両方を突き合わせて適訳を選び、更に同好会の会員その他諸氏の意見を取り入れて、馬術関係の方々の参考になるようなものになれば幸運であると考えている。[上記同好会会員名は申し込み順に、熊谷圭、大立目信六、新庄武彦、沢田孝明、千葉幹夫、石黒健吉、和田雅雄、半澤、竹田恒和の諸氏である。]

最近、日馬連の資格認定本部委員会（大坂穎三委員長）で馬術運動の号令のかけ方と文字の統一について審議され、去る1月25日の日馬連の第7回理事会で承認したものが、1月27日付馬第41号を以て公表された。協力方が要請されたが用語の統一に向かって誠に結構なことである。

馬術用語で最も基本的な「乗馬」という語を採って見ても非常に不明瞭である。使われている所と文脈を考えなければ意味が通じない。名詞として乗用に供する馬を云い、動詞としては単に馬の背に乗ることと、馬に乗って運動することとの区別が無い。英語では単に馬の背に跨ることをto mount(mounting)であり馬に乗って動くことはto ride(riding)であり、riding club と云うがmounting club とは云わない。（然し英語でmount も乗用馬を意味する場合があります婦人用乗馬をlady's mountという。）有形の物件に接頭語として、例えば乗馬家、乗馬服の如く、無形のものには乗馬術、乗馬感覚、乗馬歴、乗馬思想等多用される。仏語でもto mountに相当するのはse mettre en selle, monter en selle, 又は、enforcher le cheval であり、ridingに相当するものは、equitation である。独語で単に乗るのは、aufsitzen(zu Pferde sfeigen, sich aufsetzen) であり、ridingは、Reiten、動詞は reiten で乗用馬はReitpferd である。単に馬に乗る号令に「乗馬」というのはあまりいい語ではない。

馬から降りることを「下馬」といい「降馬」とは云わない。英語ではto dismount であり仏語では、mettre pied a terre, 又はdescendre と云い、独語では、absitzen(von ein Pferder, zu に対し、vom

Pferde steigenとも云う。下馬には下等な馬の意があり、これに対して、下馬－中馬－上馬（じょうば又はじょうめ）と云い、上馬は良い馬のことで、単に馬の背に乗ることを「上馬」と云うほうが、良い馬にも通じて号令も「上馬」「下馬」とした方が良さそうに思う。馬に乗って動く方は上馬でなく乗馬が良い。下馬はげめとは云わないようである。降は乗の対語だから単に降りると乗の意味と釣り合わない。馬の運動を加味して「落馬」では号令にならない。独語ではden Reiter absetzen は馬が騎手を振り落とすことと辞典にある。sitzenとsetzen, ab とzuなどこれもなかなか難しい。

乗馬だけでもこういう次第であるから、正確に物事を表現する用語の選択、決定は従来の常用語や歴史、時代、地域などを考慮すれば一層困難で、ある程度の独断専行も場合によっては必要と思う。

太田装蹄所

☎782-6084

札幌市東区伏古10条1丁目15番5号

前 主 将 か ら

中 野 兼 一

このクラブに一番足りないものは、何であるかを考えた時、真っ先に考えたのは、「馬術がスポーツである。」ということの自覚の無さであった。このことは、体力面だけに限らず、技術面においてもしかりと思った。北大体育会という組織の中であって我が馬術部は特殊競技という名のもとにふり分けられているが、我々からしてみれば何が特殊であるのかと怒りたい気持ちではある。しかし、体育会の中における存在というものが、他のクラブとは異質であるということはやはり否めないことだろう。

また逆に、特殊なスポーツであるが故に、この馬術というものに興味を抱く人も多い。「一体、どんなことをやっているのだろうか？」と。しかし、実際に、クラブに入ってやっていることは、下級生のうちでは、どうしてもスポーツをやっている気がしないというのが本音だと自分は思う。体を動かすことより、頭を使うことや、酒を飲むこと、馬の世話をすることの方が時間的にも断然多い。だからいくらこの自分が「馬術はスポーツである」ということをこの場で叫んだとしても、本当にそう思ってくれている人の数はどのくらいいるだろう。

このクラブの一つの宿命の中に『いつの時代も、馬術というものに対する部員の考え方、とらえ方には、様々な議論があり、そしてその繰り返して存続している』ということがあると思う。「馬をペットと思う部員」「馬術は自己啓発の手段だと思部員」「馬には乗りたいが、作業や酒はやりたくないという部員」しかし、絶対に、誰がよくて誰が悪いなどという問題はないはずである。いや、あつては困ると思う。これから先、自分が何を言いたいのか、伝えたいのかは、自分と酒を飲んでいる人には何となくでもいいからわかってきてくれると思う。もう、これ以上は酒を飲まないと言口には出ない。とにかく、下級生の時、上級生から感じとった喜怒哀楽の感情を大切に、みんなには頑張ってもらいたい。「怒りたい時は怒れ」「泣きたい時は泣け」馬を通じて、感受性の豊かな人間になれた時、本当は馬術がスポーツであることをわかってもらえると思う。クラブの流れを速くするも遅くするも、君達の力にかかっているのだ。最後まで、流されるのではなく、流すのだという気構えを忘れずに。また「きよた」でSSを飲みながら話そうな

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎726-1526

現在のクラブ状況

—— 主将から ——

仲村 秀喜

全日本学生馬術大会総合第3位という成績が目前にある。関東の有力私立大学と互角に勝負ができることが実証された。前回、障害飛越競技で団体2位になった昭和52年以来、11年振りの快挙である。三たび黄金時代を築くことができるか。これから何をしていけばよいのか。現状を紹介すると共に、現在の考え方を述べてみたい。伝統とは素晴らしいものである。しかし、時代は流れ、人間も変化していく。伝統とは、同時に変えていかねばならないのである。

○馬匹について

13年の長きにわたって大活躍をしたドン・ホッパーがついに離厩し、1つの時代が幕を降ろした。ドンのような万能選手のみで、部の運営はできなくなり、各馬の位置づけを次のようにした。

一昨年、昨年に続き、全日学に出場する馬匹として、北皇子(14)、北銀(10)、北玲(9)の3頭。この3頭に続く最短距離として、ノエル(15)。同時に、初出場を目指す北凛(8)、北駿(7)。新馬として翌年、翌々年を目指し調教を行う、北楡(7)、北照(6)、パシオン・M(9)。未完の大器として、グレンエトワール(4)。調教レベルの向上と共に、下級生の練習を主体にする北瑛(10)、北峰(5)、明日楡(12)。

練習馬 —— 調教を上げるより、下級生の練習を主とする馬を置くことには、問題が多い。部員数が減少したり、財政状況が悪化した際、最初に離厩の対象となるのは彼らとなるからである。しかし、1年半でチーフになるべく人作りを行うためには、ある程度の練習時間は必要である。昨年度、予想外の部員の増加から、北星乗馬クラブの御好意で、カシワクレバー、ノースファイターという2頭をお借りして急場をしのいだ経緯がある。毎年、馬の離厩先に頭を痛めている事実から考えると、非常によい形にはちがいないが、自分達の馬を自分達の責任で養っていくのが、北大馬術部の誇りであり、責任でもあると思う。部の財政面の苦しさは相変わらずであるが、現状と、将来のエース馬を育てること —— その人材と馬匹が存在するのは今という時期しかない —— を考える時、このような布陣が最良なものではないかと思う。

○部員について

現在、3年目4名、2年目9名、1年目15名、の計28名で活動を行っている。当然のことながら上級生が全員全日学に出場できる訳ではないし、上級生の数だけ馬が必要な訳でもない。全日学を目指す者、馬が好き者、手入れが好き者、1日中部室にいる者、授業にも熱心な者、生活のためバイトを続けなければならない者……いろいろな人間がいていいはずである。いつの頃からか、学業を捨て生活のためのバイトをする必要もない人間のみしか、残れない雰囲気が出てきていた。確かに、部員全員が、完璧な庶務員タイプであれば、どんなに素晴らしいかわからない。しかし、我々は曲がりなりにも学業を本業とする国立大学生である。両立はしなければならない。さらに、人数の多いメリットはは

かりしれない。アルバイトや作業の分担量の少なさ。人数パワー。何よりも、20年近く生きてきて、大学にはいる頭脳を持った人間なのである。必ず適役がありクラブが必要としているのは確かなのである。我々が目標としている全日学のために、一人でも多くの人間が一丸となって、クラブを盛り上げて行くことは、どんなに素晴らしいことかわからない。ただ、この時、頑張っている人間、技術的に優秀な人間は、それなりに評価されねばならない。何年目であろうと、チーフになってよいはずである。底辺は広く、頂点はより高いクラブを目標としているのである。

—— 主務から ——

石川 信行

昨年の九月より、金田兄より引き継いだ石川です。引き継いでからは現状を把握しようといろいろやっていますが、前職が作業という不慣れさと、生来の怠惰から、各方面で事務が滞る場面もあり、OB諸氏や、仲村を始めとする現役部員に多大な迷惑をかけてしまいました。

しかし、時がたつにつれ、膨大な事務量も徐々に整理ができてきましたので、バイトの人割等を中心とする内務面の補助の伊藤弟、提出書類や保険等の外務面での補助の岩田妹、後援会担当の堀崎弟、さらに一年目の速水弟らを中心にシーズンを乗り切って行きたいと思います。それでは四ヶ月間、主務の仕事をやって出てきている問題点を具体的に書いて行きたいと思います。

○バイトについて

ここ何年か特に問題になっている点で、いろいろ、議論もされてきましたが、部員増による自然増収、個人負担の軽減ははっきりとでてきており、夏の中央競馬、冬の朝日新聞、通年の乗馬厩（競馬場）等々、予算計画をしっかりとたてるバイトを中心にしその他のバイトは基本的には受けないようにしていくつもりです。

○学生部との関係

先代の金田兄がかなり力をいれていた分野で、僕の代ではさらに関係を改善していくべく頑張りたいと思います。

現在、実際に援助されているのは年一回の砂、シーズン中の石炭、日常の備品、またその他に年度当初に申請したもので許可されたもの（先年度はヘルメット5個）が援助されます。また冬季間は小型の除雪機を借りて馬場の除雪に利用していますが、広い馬場は除雪しきれず、冬の終わりに業者に頼んで（約十万円）やってもらっているのが現状で、この点をどうにかならないのかと相談したのですが、予算の都合、さらに助成係としては外系クラブの冬季間の活動に関しては積極的な助成はしないという方針のため、現段階ではここに援助を求めるのは難しいかと思います。また土地が国有財産であるため建造物に関しても態度が厳しく、競馬場から戴いたプレハブも学生部より厳重な注意を受けてしまい、斎藤部長には大変御迷惑をかけてしまいました。今後は十分に連絡を取り合って、今回のような些細な行き違いをなくし、うまく利用していきたいと思います。

○対外関係について

学生だけで馬術を運営していくというのは大変困難なことでもさまざまな方面から応援してもらってやっているのが現実です。具体的には馬不足の問題が深刻化した際に北星乗馬クラブのほうから練習馬を貸してもらったりしたこと、碧雲馬場を利用しての経路回りなど大変便宜をはかってもらいました。特に今年は競馬場の芝馬場改装に伴い、高級クッション砂、馬場埒、プレハブ等を戴き、馬場に関しては内容・外見共に格段のものとなりました。この際には井上課長を始めとする競馬場の方々、さらにはOBの方々のただならぬ尽力がありました。この場をかりてお礼申し上げます。

以上、気付いた点を列挙していきましがまだまだ気が回らない点が多いのでよろしく御指導願えればと思っています。

—— 馬匹から ——

湯 浅 真 美

現在部馬は13頭。特に目立った故障馬はいないが馬体管理に注意を要する馬が何頭かいる。北玲、北皇子、ノエル、北駿などである。これらの馬は日々の運動の組み立てや量、試合前の調整がかなり難しい。特に北皇子の前肢腱鞘炎、北玲の右腰の痛みからくる右後肢の跛行は少し無理をするとしばらく休ませねばならなくなったりするので騎手は細心の注意を払って騎乗している。

部員全員が全馬の健康状態その他をきちんと理解していなければ、北大の馬術部のように世話をする人間がころころ変わるところで行き届いた馬体管理ができるはずがない。馬の健康状態、心理状態がよくなければ試合でいい成績はおさめられないということをしっかり頭にいれて、部員全員で全馬の管理をしていかねばならないと思っている。

馬術用品専門店

ジャパンゲランプリ

東京都世田谷区桜3丁目2-13

TEL (03) 426-9985

会計報告 昭和63年1月～12月

収 入

		年 小 計	計
部	費	410,000	410,000
アル バイ ト	札幌競馬場	1,429,884	3,476,684
	朝日新聞社	614,000	
	その他	1,432,800	
補 助	学馬連より飼育補助	846,000	1,551,990
	輸送補助	341,490	
	後援会	250,000	
	その他	114,500	
企 画	半沢杯	77,653	315,773
	教養祭	184,980	
	その他	53,140	
そ の 他	道馬連強化費	170,851	315,773
	全日学優秀馬	232,420	
	寄付	71,642	
	その他	919,687	
滞納金		1,924,275	1,924,275
合 計			9,073,322

支 出

		年 計
飼	料	1,991,430
蹄	鉄	1,403,000
薬 品		264,561
輸 送 費	ガソリン	141,817
	遠征・馬運車代	434,402
	車両維持費	760,500
作 業 ・ 施 設		182,776
馬 具 ・ 備 品		88,850
文 化		67,090
乗馬登録料・連盟会費等		389,600
部 報		250,000
電 話 料 金		126,660
事 務 費		131,449
雑 費		60,146
た て か え		2,003,672
合 計		7,295,953

平成元年 1月31日

会 計 前 田 武 己

昭和63年度 行事報告

○4月

2、3日 第27回七大戦（於東大）

3日 対東北大学定期戦（於北大）

12～17日 馬術講習会世界が大きく見えました。

○5月

5日 第16回半沢杯記念馬術大会（於北大）
使役に追われながらも、初めてみる試合に感激でした。

11～20日 新歓合宿名言“ノエルの曳き馬にいました”“罰当、1週間だ”

15日 若葉コンパ その晩、部屋は死人の山と化したのだった。

21、22日 国体馬術競技強化指定馬選考会
（於浦河）

28日 新歓コンパ エッ、二次会は着替えて行くの？

29日 ノースファイター、カシワクレバー入厩

31日～3日 教養祭 ちゅ～かれたぁ～。

○6月

3日 三大学定期戦（於北大）

17日 北熊号入厩 来た時は、ないてばかりいました。

18、19日 第23回北海道自馬場術大会
（於北星R. C.）

○7月

16、17日 第13回馬術連盟公認北海道地区大会（於畜大）夏なのにとっても寒かった。

22日 お返しコンパ シンデレラ、スケバン刑事 e t c. 華々しく1年目デビューみんなの意外な一面を知りました。“チッチッチッドカーン”“エッ、俺、酔ってねーよ”

26日 北峰号入厩 “さくら”“さくら”ど

んぐりお目々のかわいい子。

○8月

5～8日 第24回北日本学生馬術大会
（於畜大）ドン、風の如く甦る。

20、21日 第35回北海道馬術大会・第44回国民体育大会北海道予選会（於浦河）次の日にはまた日高へとんぼ返り、札幌に数時間しかいませんでした。

22～28日 日高合宿亭浜！、亭浜！！、ハヤアーシ！

○9月

1～4日 第24回東日本馬術大会（於山梨）
14日 役員交替コンパ 踊りまくって疲れたけど、楽しかったね。

17、18日 44国体国体強化指定馬選考審査会（於浦河）数々の伝説誕生——二宮金次郎抱きつき事件、十勝柏友会と謎の男事件 e t c.

○10月

2日 石狩親善試合、根井兄離札コンパ
根井兄が離札して兄の存在の大きさを知りました。

9日 山下杯 一年目デビュー戦。前代未聞の(?)ゴール前敬礼。

10日 駅伝大会 びしょ濡れになってはしまったっけ。キュロットは辛い。

19日 ノース・ファイター号離厩 もう、あの「歯磨き」が見られない・・・。

23日 OB対抗戦 パン食い競争の砂つきアンパン、うまかった。

29日 ドン・ホッパー号離厩 お疲れさまでした。ドン、元気でね。

○11月

1～6日 全日本学生馬術大会 ギャラン、

ギン、おじょう、ありがとう。おつかれさん

11日 祝勝会

23日 F. M. C. ドレミファソラシドレ?

○12月

2日 カシワ・クレバー号離厩 今まで本当にありがとう。元気だね。

10日 馬術講習会 体育会の身内ばかり。

21日 忘年会 パンスト、トランクすだ~れのだ?

19~23日 冬合宿(前半) 名言 “長靴ぬぎま~ず” 打ち上げコンパは大歌合戦

31日 もちつき あり余るパワーを餅にぶつけたKちゃん。おいしくつきあがりました。納豆モチ、明太子モチ、いろんな食べ方したっけ。

○1月

2日 初乗り 今年一年無事にすごせますよ

うに。カエリノメインストリートハケイバダッタ。

3日~9日 冬合宿(後半) 『天皇崩御』 - 歴史的瞬間をまさか部室で過ごすなどと思ってもみなかったのです。

○2月

5日 雪祭り外乗 警備員に怒られた。

16日 グレンエトワール号入厩

○3月

2日 パシオン・M号入厩

追コン 大歳兄、加藤姉、金田兄、北川姉、高野兄、中野兄、4年間御苦労様でした。ありがとうございました。徹夜で作ったクッション、よろこんでもらえましたか?

6日 明日檜号入厩

19日 中野兄、金田兄離札コンパ 寂しくなります。頑張ってください。

飼い桶・水のみ桶・荒物一式

柳 橋 商 店

札幌競馬場内

☎ (店) 011-747-7706

(自宅) 011-644-3021

昭和63年度 戦績報告

★対東北大学定期戦 (於 北大 4月3日)

- ・使用馬匹……ドン・ホッパー、ノエル、北玲
- ・選手 北 大……根井、福庄、中戸川、堀崎
東北大……大窪、中村、高橋、渡辺
- ・戦績……優勝

★七帝戦 (於 東京大学 4月2～3日)

- ・出場選手……加藤、金田、仲村
- ・戦 績……準優勝

★第16回太秦杯・半澤杯・河田杯・小池杯記念馬術大会 (於 北大 5月5日)

<複合馬術競技> (太秦杯)

				馬場減点	障害減点	総減点
1位	佐 藤	カナデルホース	彗星R. C.	-114 2/3	-3/4	-115 5/12
2位	加 藤	北 玲	北 大 (4)	-121 2/3	-1 1/4	-129 11/12
3位	三 味	艶 飛	彗星R. C.	-131 1/3	0	-131 1/3
5位	高 野	北 銀	北 大 (4)	-131	-1 3/4	-132 3/4
6位	大 蔵	北 凜	北 大 (4)	-150	-17 1/2	-167 1/2
7位	仲 村	ドン・ホッパー	北 大 (3)	-145 2/3	-22	-167 2/3

<第三級馬場馬術競技>

				得 点
1位	久 保	ヒルゼンフィールド	札幌競馬場	378
2位	中 島	ア ブ ラ ル	浦河乗馬同好会	376
3位	館 谷	ブルーヒーロー	札幌競馬場	374
13位	前 田	ノ エ ル	北 大 (3)	289
	福 庄	北 瑛	北 大 (2)	失 権

<中障害飛越競技>

				減 点	Time	Jump off
1位	高 野	北 銀	北 大 (4)	0	68"90	34"00
2位	加 藤	北 玲	北 大 (4)	0	71"60	35"90
3位	仲 村	ドン・ホッパー	北 大 (3)	0	75"80	37"40

<小障害飛越競技>

				減 点	Time
1位	大 塚	パッシングハヤテ	札幌競馬場	0	61"60
2位	長谷川	パッシングハヤテ	札幌競馬場	0	60"34
3位	浦 野	マ ド ラ ス	北星R. C.	0	60"05

19位	前田	ノエル	北大(3)	-4	52"37
	林	北玲	北大(2)	0	55"94
	平井	ドン・ホッパー	北大(2)	-4 1/2	62"70
	真鍋	北銀	北大(2)	0	57"30

＜新人新馬障害飛越競技＞			(規定タイム 62秒)	障減	Time	総減点
1位	佐藤	ヒロバピー	北星R.C.	0	61"25	0
2位	福本	センジュヒカリ	札幌競馬場	0	59"81	0
3位	岩田	ノエル	北大(2)	0	59"13	0
	石川	北駿	北大(3)	0	57"58	0
	湯浅	北英	北大(3)	-6	102"59	-16.25

★国体馬術競技強化指定馬選考審査会 (於 浦河国体馬術競技場 5月21～22日)

＜M級B競技＞				減点	Time
1位	三味	鮓飛	彗星R.C.	0	105"1
2位	賀山	コジロウ	十勝柏友会	-4	88"6
3位	久保田	ザ・シルバー	十勝柏友会	-4	90"2
10位	高野	北銀	北大(4)	-13	127"5

＜総合馬術競技＞				調教	耐久	余力
1位	佐藤	カナデルホース	彗星R.C.	-107	-26	-5
2位	久保田	ザ・シルバー	十勝柏友会	-132 2/3	-18.4	0
3位	目黒	柏星	帯畜大	-121	-46.4	-5
5位	中野	北皇子	北大(4)	-141	-456	0
	高野	北銀	北大(4)	棄権		
	加藤	北玲	北大(4)	棄権		

★三大学定期戦 (於 北大 6月3日)

- ・ 出場選手……平井、堀崎、真鍋
- ・ 戦績……準優勝

★第23回北海道自馬馬術大会 (於 北星R.C. 6月18～19日)

＜第三級馬場馬術競技＞				得点
1位	瀬川	アブラル	浦河高校	384
2位	斎藤	アブラル	浦河高校	375
3位	宮竹	チップマンク	浦河乗馬同好会	344
11位	前田	ノエル	北大(3)	304

18位 大 歳 北 稔 北 大 (4) 275

(婦人の部)

				得 点
1位	西 岡	ウィンディ	十勝柏友会	349
2位	増 元	トカチムサン	十勝柏友会	333
3位	岡 本	ミス・サリー	浦 河 高 校	331
7位	湯 浅	北 瑛	北 大 (3)	288

<L級競技(1部)>

				Time	減 点
1位	西 岡	コ ジ ロ ウ	十勝柏友会	73"15	0
2位	原	トカチムサン	十勝柏友会	72"41	0
3位	斎 藤	イブリエース	浦 河 高 校	68"17	0
15位	長 屋	北 駿	北大同好会	72"97	-4
	前 田	ノ エ ル	北 大 (3)	失 権	

<L級競技(2部)>

				Time	減 点
1位	増 元	コ ジ ロ ウ	十勝柏友会	60"02	0
2位	佐 藤	トカチムサン	十勝柏友会	66"22	0
3位	牟 田	柏 星	帯 畜 大	68"12	0
11位	福 庄	北 銀	北 大 (2)	67"10	-4
20位	加 藤	北 駿	北 大 (4)	74"73	-8
	石 川	ノ エ ル	北 大 (3)	失 権	

<新人障害飛越競技>

				Time	減 点
1位	本 巢	イブリエース	浦 河 高 校	78"97	0
2位	山 口	ヘンリーシンボリ	北 星 R. C.	77"84	0
3位	泉 野	ザ・シルバー	十勝柏友会	76"49	0
7位	伊 藤	北 銀	北 大 (2)	69"63	0
11位	根 井	北 駿	北 大 (2)	80"56	-0.5

<M級B競技>

				減 点	Jump off
1位	安 藤	雷 雲	虫 の 会	0	37"03 (-4)
2位	布 施	マ ド ン ナ	北 星 R. C.	0	40"01 (-8)
3位	中 野	北 皇 子	北 大 (4)	0	棄 権

<M級C競技>

				減 点	Jump off
1位	賀 山	トカチムサン	十勝柏友会	0	34"06
2位	佐 伯	マ ド ン ナ	北 星 R. C.	0	36"03
3位	宮 竹	チップマンク	浦河乗馬同好会	0	38"06
11位	大 歳	北 稔	北 大 (4)	-4	

15位 仲村北 銀北大(3) -4

★第13回馬術連盟公認北海道地区馬術大会(於帯広畜産大学 7月16~17日)

<第3級馬場馬術競技>

				得点
1位	安藤	雷雲	虫の会	383
2位	佐伯	エスポアール	北星R.C.	373
3位	宮竹	チップマンク	浦河乗馬同好会	346
3位	品田	ホワイトキッド	十勝柏友会	346
5位	前田	ノエル	北大(3)	341
9位	中野	北皇子	北大(4)	329
13位	大歳	北稜	北大(4)	313
14位	伊藤	北瑛	北大(2)	308

(婦人の部)

				得点
1位	緒方	エスポアール	北星R.C.	378
2位	増元	トカチムサン	十勝柏友会	346
3位	西岡	ウィンディー	十勝柏友会	337
6位	湯浅	北瑛	北大(3)	313

<婦人・壮年障害飛越競技>

				減点	Jump off
1位	増元	コジロウ	十勝柏友会	0	35"02
2位	増元	ザ・シルバー	十勝柏友会	0	36"04
3位	浦野	カリスタヒーロー	北星R.C.	0	40"05
5位	岸本	北銀	北大(2)	0	42"04
	湯浅	北瑛	北大(3)	失権	

<標準中障害飛越競技>

				減点	Time
1位	長屋	カリスタヒーロー	北星R.C.	0	69"0
2位	安藤	雷雲	虫の会	-0.25	77"1
3位	安永	駿	酪農大	-0.25	77"1
11位	中野	北皇子	北大(4)	-4	73"7
13位	高野	北銀	北大(4)	-4	80"6

<中障害飛越選手権競技>

				減点	Jump off
1位	中野	北皇子	北大(4)	0	53"00(0)
2位	長屋	カリスタヒーロー	北星R.C.	0	43"08(-8)
3位	布施	チアガール	北星R.C.	-1.5	
	高野	北銀	北大(4)	失権	

<一般小障害飛越競技>

Time 減点

1位	齋藤	ハシストーム	浦河高校	77"08	-0.25
2位	畠山	ミカミミ	日高K.F.	82"06	-1.5
3位	佐藤	ニホンピロパワー	浦河高校	65"00	-4
9位	金田	北 駿	北大(4)	98"01	-8.5
	前田	ノ エ ル	北大(3)	失権	
	湯浅	ノ エ ル	北大(3)	失権	
	仲村	北 凜	北大(3)	失権	
	島田	北 銀	北大(2)	失権	

★第24回北日本学生馬術大会(於 帯広畜産大学 8月5~8日)

<障害飛越競技(二回走行)>

					一走目	二走目	合計
1位	高野	北 銀	北大(4)		0	-4	-4
2位	中野	北 皇子	北大(4)		-3	-4	-7
3位	山口	龍	酪農大		-7	-3	-10
8位	加藤	北 玲	北大(4)		-12 1/4	-4	-16 1/4
	仲村	ドン・ホッパー	北大(3)		-8	棄権	

<総合馬術競技>

					調教	耐久	余力
1位	目黒	柏 星	帯畜大		-174 2/3	0	0
2位	高野	北 銀	北大(4)		-189	-4 4/5	-5
3位	加藤	北 玲	北大(4)		-201 2/3	0	0
5位	中野	北 皇子	北大(4)		-203 1/3	-2 4/5	-5
	大歳	北 凜	北大(4)		-223	失権	
	仲村	ドン・ホッパー	北大(3)		-216	0	失権
	前田	ノ エ ル	北大(3)		-209	-142	失権

<新人・新馬障害飛越競技>

					減点	Time
1位	長沢	カ ム イ	弘前大		0	60"04
2位	中野	北 駿	北大(4)		0	59"08
3位	近藤	ブラックランパー	酪農大		0	55"07

★第35回北海道馬術大会・第44回国民体育大会北海道子選会(於 浦河 8月20~21日)

<成年総合馬術競技>

					調教	耐久	余力
1位	佐藤	カナディルホース	彗星R.C.		-105 1/3	0	-5
2位	目黒	柏 星	帯畜大		-119 1/3	0	-10
3位	久保田	ザ・シルバー	十勝柏友会		-125 1/2	0	-5
4位	加藤	北 玲	北大(4)		-130 5/6	0	-10
8位	高野	北 銀	北大(4)		-125 1/3	-31	-20

<L級競技(婦人・壮年)>

減点 Time

1位	増元	コジロウ	十勝柏友会	0	50"83
2位	西岡	ジャンポリバー	十勝柏友会	0	56"53
3位	目黒	ストレートフラッシュ	帯畜大	0	58"99
	轟	浅北	寮北大(3)	-17 1/4	93"12

<L級競技(一般・少年)>

				減点	Time
1位	原	トカチムサシ	十勝柏友会	0	50"4
2位	伊藤	ルミウェール	ウェスト日高 K. F.	0	52"6
3位	岡本	トカチムサシ	十勝柏友会	0	52"7
8位	林	北	銀北大(2)	0	66"2
	島田	北	皇子北大(2)	-1/4	69"4
	前田	ノ	エ北大(3)	失権	
	福庄	ノ	エ北大(2)	失権	
	大蔵	北	寮北大(4)	失権	

<第3級馬場馬術競技>

				得点
1位	久保	ヒルゼンフィールド	札幌競馬場	371
2位	増元	トカチムサシ	十勝柏友会	355
3位	西岡	ウィンディー	十勝柏友会	350
10位	根井	北	瑛北大(2)	317
21位	中戸川	北	瑛北大(2)	287

<成年障害馬術競技>

				減点	Time	Jump off
1位	目黒	柏	星帯畜大	-4	84"0	-4 (41"7)
2位	谷	ヒロパピー	北星 R. C.	-4	86"0	-12 (59"5)
3位	長屋	カリスタヒーロー	北星 R. C.	-8	90"1	
	中野	北	皇子北大(4)	失権		

★第24回東日本馬術大会(於 山梨県馬術競技場 9月1~4日)

<内国産馬スピードアンドハンディネス>

中野	北	皇子	北大(4)	-12.5
----	---	----	-------	-------

<標準内国産馬障害飛越競技>

中野	北	皇子	北大(4)	-7.25
				(予選通過順位21位 選手権出場権獲得)

<内国産馬障害選手権飛越競技>

1位	山下	富士	川山梨県馬術連盟	
	中野	北	皇子北大(4)	失権

★44 国体強化指定馬選考審査会 (於 浦河国体馬術競技場 9月17~18日)

<障害飛越競技>

				MB	S & H	総合減
1位	宮 竹	チップマンク	浦河乗馬同好会	-4(101"1)	0 (39"4)	-4
2位	武 笠	フェニックス	碧雲クラブ	-4(105"6)	-2.8(42"2)	-6.8
3位	山 田	アパッチエース	岩見沢R. C.	-3(113"3)	-6 (45"4)	-9
4位	加 藤	北 玲	北 大 (4)	-4(101"1)	-6.2(45"6)	-10.2
6位	高 野	北 皇 子	北 大 (4)	-12(98"6)	-3.1(42"5)	-15.2

<総合馬場馬術競技>

				馬場得点
1位	佐 藤	カナデルホース	彗星R. C.	410
2位	原	トカチムサシ	十勝柏友会	389
3位	宮 竹	チップマンク	浦河乗馬同好会	383
8位	高 野	北 銀	北 大 (4)	335
13位	加 藤	北 玲	北 大 (4)	304

<総合馬術競技>

				調 教	耐 久	余 力
1位	宮 竹	チップマンク	浦河乗馬同好会	-112 1/3	0	-5
2位	川久保	ジャンボリバー	十勝柏友会	-121	0	0
3位	久保田	ザ・シルバー	十勝柏友会	-125	0	0
	加 藤	北 玲	北 大 (4)	棄 権		
	高 野	北 銀	北 大 (4)	棄 権		

★第10回山下杯記念馬術大会 (於 酪農大 10月9日)

<ジムカーナ>

				Time
1位	木 村	ベルレンケン	酪 農 大	35"9
2位	大久保	ベルレンケン	酪 農 大	37"3
3位	橋 本	北 稜	北 大 (1)	38"3
4位	野 田	北 稜	北 大 (1)	41"0
7位	高 村	北 皇 子	北 大 (1)	47"0
8位	平 山	北 銀	北 大 (1)	50"9
10位	堀 川	北 駿	北 大 (1)	54"0
	田 村	ドン・ホッパー	北 大 (1)	棄 権

<L級競技>

				減 点	Time	Jump off
1位	堀 崎	北 皇 子	北 大 (2)	0	46"2	23"7
2位	福 庄	北 駿	北 大 (2)	0	42"9	24"4
3位	鶴 巻	ブラックランパー	酪 農 大	0	42"3	25"4
	湯 浅	北 稜	北 大 (3)	失 権		
	金 田	北 榎	北 大 (4)	失 権		
Open	長 屋	北 駿	北大同好会		43"8	

<M級C競技>					減点	Time	Time減	総減点
1位	大儀	ブラックランパー	酪農大	酪農大	-3	76"6	0	-3
2位	仲村	北銀	北大(3)	北大(3)	-7	94"9	-2.5	-9.5
Open	長屋	北駿	北大同好会	北大同好会		66"2		

★OB戦 (10月23日)

<小障害飛越競技>					Time	減点
1位	福岡	北	稜	北大OB	55"94	0
2位	湯浅	北	稜	北大(3)	57"00	0
3位	真鍋	ノエル	北大(2)	北大(2)	59"94	0
	大森	カシワクレパー	北大(4)	北大(4)	60"56	-4
	金田	北	輪	北大(4)	59"41	-4
	岩田	ノエル	北大(2)	北大(2)	失権	
	西田	ドン・ホッパー	北大(2)	北大(2)	棄権	
	岡崎	ドン・ホッパー	北大(2)	北大(2)	棄権	

<ジムカーナ>					Time
1位	高梨	北	稜	北大(1)	45"28
2位	清水	北	稜	北大(1)	45"62
3位	佐藤	北	瑛	北大同好会	51"69
6位	田村	ノエル	北大(1)	北大(1)	61"03
8位	平井	北	翔	北大(2)	64"15
9位	望月	北	瑛	北大(1)	139"84
10位	佐藤	北	瑛	北大(1)	152"69

★第38回全日本学生障害飛越競技会 (11月1～2日 於馬事公苑)

★第31回全日本学生3-DAY EVENT (11月4～7日 於馬事公苑)

<二回走行：個人>					一走目	二走目	
1位	荻野	ユウコク	専修大	専修大	0	0	Jump offで 順位決定
2位	中込	ディンプル	福井工大	福井工大	0	0	
3位	藤原	インカ	同志社大	同志社大	0	0	
15位	高野	北	銀	北大(4)	-4	-8	
20位	加藤	北	玲	北大(4)	-8	-8	
	中野	北	皇子	北大(4)	-73.5	-87	

<同：団体>				一走目	二走目	計
1位	慶応大			0	-12	-12
2位	専修大			-12	-8	-20
3位	同志社大			-20	-8	-28

12位 北海道大 -85.5 -103 -188.5

<総合：個人>

					調教	耐久	余力
1位	久保田	明	智	明治大	-156 2/3	0	0
2位	中野	桜	四郎	日大	-163 1/6	0	0
3位	斉藤	プリンス	スティック	専修大	-164 1/2	0	0
5位	加藤	北	玲	北大(4)	-168 1/2	0	-0.25
12位	高野	北	銀	北大(4)	-184 1/3	0	-15.75
15位	中野	北	皇子	北大(4)	-190 2/3	-16	-10

<同：団体>

1位	日本大	-517 1/4
2位	明治大	-538 3/20
3位	北海道大	-571 1/10



緑が私たちのカラーです。

GREEN SPIRIT, JRA.

日本中央競馬会 札幌競馬場

全 日 学 特 集

馬術部に属する全国の学生にとって 正に大学生活の一大イベントである全日学が作秋 馬事公苑を舞台に繰り広げられました。全国の学生を相手に4年間かけてやしなった力を尽くし白熱し見事総合団体3位という成績を残しました。

特集を組むにあたり、いろいろな方々のメッセージ、お手紙、御意見を参考に編集させていただきました。御協力ありがとうございました。

<戦績>

☆全日本学生障害飛越競技会			団体減点			
	一走目	二走目	一走目	二走目	総減点	順位
中野 兼一	- 7 3. 5	- 8 7				
加藤ゆうこ	- 8	- 8 20位	- 8 5. 5	- 1 0 3	- 1 8 8. 5	1 2
高野 薫	- 4	- 8 15位				

☆3 DAY - EVENT

	調教審査	耐久審査	余力審査	総減点	順位
中野 兼一	- 1 9 0 2/3	- 1. 6	- 1 0	- 2 0 2 4/15	1 5
加藤ゆうこ	- 1 6 8 1/2	0	- 0. 2 5	- 1 6 8 3/4	5
高野 薫	- 1 8 4 1/3	0	- 1 5. 7 5	- 2 0 0 1/12	1 2

団体成績	1位	日本大学	- 5 1 7 1/4
	2位	明治大学	- 5 3 8 3/20
	3位	北海道大学	- 5 7 1 1/10
	4位	中央大学	- 6 0 7 31/60
	5位	麻布大学	- 8 1 5 29/60

☆三種目混合 (障害飛越, 3 DAY - EVENT, 学生賞典)

7位 北海道大学

<岡田光夫監督にメッセージをいただきました。>

毎年期待されながら好成績をえられなかった北大が今年の中野・高野・加藤の三君の活躍で久しぶりに団体が組み、3DAY・3位と頑張り3種混合7位という好成績をあげたことは、選手諸君の努力は勿論であるが、愛馬がベストコンディションで試合に臨めるようにお世話してくれた部員諸君の縁の下の力持ち的努力に心からお祝いとねぎらいの感謝を捧げたい。すぐれた三組の人馬を揃ええたかげに馬の調子が悪く選にもれた人もいたことは仕方のない事とは云え不運と云ってあきらめ切れぬ心境の人もいたろう。昨日放映された横浜国際女子駅伝競走で4人1組の選手を組むために一体何人から選んだのだろう、と考えながらテレビを見ていた。昭和14年北大予科が4人制の勝ち抜き戦で全国制覇を遂げた時の事が思い出された。貸与馬戦のこととて、試合の度に馬の割り振りに見事な采配をふるった故福本主将の力量もさることながら、それに従って全力を盡した故小林・山根・岡田の優勝したいと云う一念が力以上のものを生んだのかもしれない。

北大馬術部の伝統を生かして明年もそして明後年も全日学での努力を期待してやまない。

団結は力なり。

<北日で権利を獲得した際に山田さんから頂いたお手紙です。>

総合、二回走行団体出場を果たした北大馬術部の皆様へ

今回は2種目団体出場となりおめでとうございます。心から嬉しく思っております。実際に試合に出る人達は勿論のこと、その他の人達も北日本大会では非常に感動したのではないのでしょうか。是非、1、2、3年の人達もその感動を忘れずに真剣に乗り続けてください。

4年目の人達へ

団体出場本当におめでとうございます。1年生から一生懸命馬の世話をし続けてきた甲斐がありましたね。君達が喜んでいる以上にきつともわからない1年生も喜んでいるはずです。そんな喜びと夢を1年生にプレゼントできたことを誇りに思ってください。おじさんはとっても嬉しいしありがたく思っています。おめでとう。

3年目の人達へ

君達の上級生達はよく頑張ってくれました。上の学年がいい成績を出せば出すほどその下の学年は嬉しいようなつらいような気にさせられるものです。いい成績を残していったくれたと同時にいろんな難しい問題も残してくれるでしょうから、勇気をもって解決してってください。4年生がいい成績を出せるのは当然なのですが問題は君達です。君達が頑張らなければここ数年の努力は無駄になってしまいます。2年連続好成績が出せるようプレッシャーに負けないよう全力をあげて頑張ってください。

2年目の人達へ

そろそろ生意気になってきた頃でしょうか。ハミ受けがどうか後駆の踏みこみがどうか言い出してませんか。それだけ馬のこともよくわかってきて 今が一番上達できる時期です。3年目を抜くつも

りで頑張ってください。

1年目の人達へ

北大馬術部北日本優勝おめでとう。北海道では鼻が高いですね。君達は今いる若馬にのって2年後中央の大学の馬と人をやっつけてくださいね。

<加藤姉に全日学に関してアンケートにこたえていただきました。>

Q1 全体を通しての印象

いろいろな思いが交錯する試合であった。つくづく団体を肩に感じる試合であったし、個人的にも、北玲に乗って出る最後の試合ということでいろいろなことが頭の中を駆けめぐっていた。多少の不安もあったが、ある程度の自信もあった。むしろ 自信の方が多かった。今までにやってきたことを思い起こしてあの時点で後悔することなく、今持てる力の全てを北玲号と共にだしきろうという意気込みがあったし信念もあった。また、3人3頭がその力を100%に近い状態でだせれば、確実に入賞できる自信はあった。済んでしまえば改めて思い直す面はあるが あの時点で前述のような心境で迎えられたということはよかったと思っている。

Q2 団体戦としての勝因

“チームワーク”の一言につきる。4年目のみでなく今までの諸先輩から、長屋さんを始めとするOBの方々、ついてきてくれた下級生の皆の全てのチームワークだと思う。またそのチームワークを作っていくにあたってのそれぞれの「情熱」もあると思う。この「情熱」-馬に対して、人に対して、クラブに対して-は、無言のうちに先輩から教えられてきたと思う。この情熱が代々の馬術部の根底に流れていくものだと思っている。

Q3 馬のコンディション e t c .

北玲号は皆の知る通り神経質な馬でありメンタルなつながりが非常に重要であると考えられる。もちろんどのような馬でもそれは同じなのだが、牝馬であり精神的な波も多く、せん馬からするとやはり注意深くつき合わなければならないと思った。北玲号自身が非常に注意深い馬なので良い意味でも悪い意味でもこの点が一番難しかった。信頼を得るのにかなりの時間を要するのだがこの積み重ねた信頼もこちらの不注意、ちょっとした無神経な扱いにより 簡単に崩れる。乗ってしかり降りてもしかり-である。但し、人に依存しやすい性格でもあるので信頼関係が確立されている状況では 踏み出す一歩もこちらの意のままというくらい全てを私に委ねてきた。これはうれしい反面小さなミスも許されないという怖い思いにもさせられた。こちらの油断で馬に肉体的にも精神的にも大げがをさせかねない状況にもあるわけで それだけに細かなところにもできるかぎりの気をつかったつもりである。手入れ、馬装、曳馬、飼料、放牧等 後輩達にも口うるさかったのはそのため。皆には文字通り「かゆいところに手がとどく」人であって欲しいと願っている。

Q4 下級生に対して期待すること

Q2で述べた「情熱」を持ち合わせて欲しい。そのエネルギー源を与えられるよう 私達なりにやっ

てきたつもりである。但し、受け身であってはいつまでたってもエネルギーが蓄積されないし情熱も生まれないと思う。自ら切り開く前向きな姿勢で望んで欲しい。そして馬にとっては「かゆいところに手が届く」人であるよう。とことん愛してやれるよう。難しく考えず、一生懸命やって欲しい。後悔するも納得するも 自分自身の行動でどのようなにもなる。エネルギーのだしおしめはやめたほうがよい。いろいろやってみれば 輝く方向を見つけられることと思う。

Q5 馬術の魅力とは

「馬そのもの」「馬との一体感」と言ってしまうと非常にありきたりだが、やはりこう言わざるを得ない。無限に広がる馬術のほんの端しか知らないのだけれど、また、一生続けてどこまで追求できるかわからないけれど、進んで行けるところまでは可能な限り進みたいと思わせるものがある。

精神的な面が非常に強いスポーツであること、人とのペアでなくパートナーが馬という特殊な生物であること、馬が馬でなくなってお互いの意志が通じ合ってる時 何ものにもかえ難い感動を身体全体で感じられるところ。

<金田兄に全日学の感想を述べていただきました。>

全日学から帰札したみんなを前にしたら、ああ言おう、こう言おうと考えていたことはどこかに行ってしまった。競争して、張り合って、喧嘩して、笑って、酔っぱらって、泣いて、励まして、4年間。馬に、人に、そして北大馬術部に対するみんなの思い入れがどんなものだったかを、僕は知っている。だから、だからこそ、どんな言葉もよそよそしく感じ、どんなに言葉を並べても言いたらない。

全てが終わった今になってみれば、戦績なんてどうでもいい。だけど、お土産の銅メダルに詰まっている色々なものは、月日が経つにつれ輝きを増してくる。それがむしろに嬉しいのである。

<高野兄に試合を終えての感想を述べていただきました。>

まだまだ上がる成績であるにもかかわらず、祝勝会を開いてもらったり部報に特集を組んでもらったりして、ちょっと恥ずかしいのですが、せっかくの据え膳なので文章が感傷的になるかもしれませんが思い出を書かせて頂きます。

学生馬術の一般に対する相対的レベルダウンのためか地方勢不振のためか、入厩できるのが二回走行の始まる前日或いはその前の深夜のため地方の馬、特に若くない馬にはちょっときつい日程であった。

二走はトリプルの構成、セレクト障害の設置、最終斜三段の配置の三点が例年より難しくなっていた。どう向かえばよいか迷ったところでは正直言って、コーチが指示を出していた関東連中をうらやましく感じたりした。僕はまだまだ弱い人間ようだ。「長屋さんが来てくれないかなァ」と下見中何度かつぶやいていた。ところがそんな日の深夜、長屋さんが本当に駆けつけてくれたことには驚いた。寝ていたところに現れたのでまさに夢かと思った。持参のS.S.を飲んで守りの姿勢から前向きの姿勢に変わっ

た。試合というのはいつもそうなのだが、特に今回の全日学は、周りの人達に支えられて出た結果だった。長屋さん、大歳が東京まで来てくれてどれだけ気持ちに余裕ができたことか。半沢先生、斎藤先生にも監督会議のために来て頂けた。総合の前には水野さんにも福島から駆けつけて馬体を診てもらうことができた。東京OB会の方々もたくさん応援に来て頂いた。

前年と違い、輸送の手配から遠征隊のまとめまで全て新キャプテンの仲村がやってくれたので、選手三人は馬のことと自分のことのみを考えていればよかったので気が楽だった。又、出発前に一年生がほとんど徹夜で化粧馬着を作ってくれたことも涙が出る程嬉しかった。

各々の立場の人達が、自分の責任以上のことをやってくれていた。何よりも、一年間新馬をまかさされた金田が、その新馬を見事に育て上げ、全日出発一週間前のOB戦で見せた走行には頭が上がらない。

3 dayの始まる前には、すべてのお膳立てが出来上がっていた。あとは選手3人馬3頭が力をだしきるだけとなっていた。

今回の遠征と共に、15年間北大で活躍してきたドン・ホッパーがとうとう離脱し、今年的全日学は世代交代がうまくいっているかどうか確認する上でも重要な意味を持っていた。そんな中で多くの人達に支えられながら責任を果たすことができ、又僕自身いい思いをさせてもらって本当にありがとうございました。周りの人達みんなに感謝しています。

プレッシャーを与える気はないし、こんなものをプレッシャーと感じないで欲しいのですが、今回3頭は潜在能力としてではなく、現実に出せる力として関東の馬に負けなことが証明されました。それに続く馬もできつつあります。

自分を磨いて馬の能力を出してやれば、必ず結果はついてくると信じて後輩のみんなは頑張ってください。

<全日学観戦記 1年目 佐藤美幸>

二走の時、ビデオ係だったので北大の馬以外の走行もみることができた。当然のことなのだが、北海道でやる試合とはスケールがちがいすぎて、経路や出場馬匹数だけで驚いていた。あの高い障害を満点で帰ってくる馬の多さ。その中に北大が入れなかったのは少し残念だったが、小柄な北玲が最終障害(斜め三段)を2回とも落下させなかったのにいたく感動してしまった。

うちの馬は出なかったが学生賞典の再審も興味深く感じられた。踏歩変換(4歩ごとの)は何度見てもすごかった。脚だけでどうしてあんなことができるのか、常歩の時ですらうまく脚が使えない私は二走以上に馬場馬術に注目していた。

それにしても関東の私立大学は障害馬、馬場馬と区別しその上調教の専門家が調教し、準備馬場ではコーチが乗り・・・と北大や畜大とは全く違うことに違和感を感じた。「あれだけ条件がよければ・・・。」と優勝した日大とかに素直に拍手が送れない気分だった。その私立の中で堂々と総合三位にいくことなどは、本当に自分が出場して勝ち得たことのように誇らしく思った。一番感動したことは、女子ながら男子と対等に戦い見事上位入賞した加藤姉と北玲である。総合に出場した女子は3人しかいなか

ったがそのうち2人が加藤姉と目黒さんで身近な存在であったので余計応援に熱が入った。スティーブルは本当にすごかった。感動したと同時に果たして自分は上級生になった時スティーブルに出れるくらいになれるだろうか?と考えこんでしまった。

どうしても男女差というものの存在は否めないと思っていた私にとって、加藤姉は同性として大きな励みになり目標となったことが、私が全日学で得た一番大切な財産である。

<昭和63年度 全日本学生馬術連盟 年間ランキング>

☆優秀選手賞

20位 加藤 ゆうこ
22位 高野 薫

☆優秀女子選手賞

1位 加藤 ゆうこ

☆優秀馬匹 (優秀乗馬(A)対象馬)

13位 北 玲 号
22位 北 銀 号
44位 北 皇 子 号

(優秀乗馬(B)対象馬)

北日本地区

北 皇 子 号

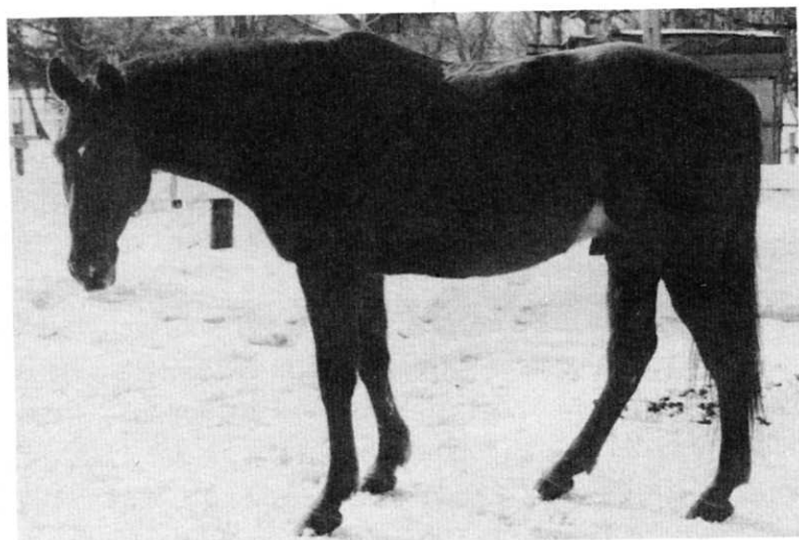
社会保険 国民健康保険 指定医
老人医療 生活保護法

庄 内 歯 科

歯科医師 庄 内 貞 夫

札幌市白石区本通2丁目北81番37号 ☎861-2504

北 皇 子 号



騾 サラ 栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父 アストラルグリーン
母 ハーバーガール
競走名 ハーバーギャラン

「北皇子へ」——調教報告にかえて

中 野 兼 一

2年もの長い間にわたり、自分とコンビを組み、どんな苦しみに対しても共に乗り越えてきた北皇子にまず、この場を借りてお礼を言いたい。今から思えば、自分にとり、北皇子は良きライバルであり、かつ良き師であったと強く感じる。調教云々というよりも、あまりに、彼から教わったことが多いからである。実際は、日々の調教に関し、自分の方からかなり積極的な形で馬と接し、馬を動かしてきたつもりであった。しかし、3年目の冬の時点からもう出鼻をくじかれたような感じになってしまった。それは、どうしても馬との折り合いがつかないということだった。このスランプはかなり長く続いたように思う。最上級生になるとよくある失敗であると思うが、基本を忘れて、自分の型を造り、それに馬をはめてしまうことだった。結局は、自分の頑固さが馬に強引な形で伝わり、馬の方からかえってくる反応は、遠くの方を見つめるうつろなまなざしだけだったと思う。

「何をすべきなのか?」「馬とどう折り合いをつければよいのか?」一年間の付き合いで馬の性格、心理状態は読み取れているつもりではあった。しかし、逆に北皇子の方も自分の心をまるで読み取っているかのような反応をよくみせてくれた。だから、精神的な面ではかなり通じ合っていたんだと思う。

4年目になり、いろいろな面で時間的にも、精神的にも忙しくなる時期であった。しかし、「だからこそ、今しかないのだ。」そのような思いが日々の生活の中でも心中をよぎり、馬一色であった。3年目の時よりも馬にかけた時間はかなり長かったように思う。

「やらねばならない。」この気持ち、つまり燃え上がる心も、焦りも、時がたてば冷静になれる。しかし、忘れてはいけないことは、常に「自分達は結果を出そう。」そう思い続けることであった。

この場で、2年間、どのような調教を行ってきたのか、それを報告するのは自分の責任であるが、それを文字にして云々と書ける程の事は正直言って何も馬に教えていない。ただ4年目もシーズンの終わり頃になって強く感じたことが一つだけあった。北皇子はもうすでに北大に来てから10年近くたっている馬であり、その間に様々な人々が調教にたずさわってきた。故に馬の持ち味、欠点というのは今更変える事もできず、またそれ程の技量は我々にはない。だからこそ、北皇子の調教責任者として、やるべき事は、馬の持ち味を最大限に引き出してあげることであり、欠点を直すことではないのだと。当たり前のことだとは思いますが、この事を悟るまでにはかなりの時間がかかったし、実際にそのような方針で馬に調教することは出来なかったように思う。何か、どこかで謙虚さが、必要であったと痛切に感じる。この思いに至った時、後は自分の責任でとにかく、「全力を尽くそう。」そう思い、ただやるしかなかったのである。ちょうど東日本で失権して帰札してからの心境であった。その後の事を思えば、あの時ほど、真剣に馬に取り組んだことはなかった。とにかく一人のスポーツマンとして、一人の人間として、馬に取り組んだ。走ったからとか、ウエイト・トレーニングしたからとか、根性とか、そういうものだけで馬がうまくなるものではないし、試合に勝てるものでもない。ただ自分は、馬術をスポーツの1つとして、そして騎手は1人のスポーツマンとしてやれること、できることはいくらでもあると思った。だからこそ、自分の出来る範囲内でやろうと思い、実行してきただけであった。

北皇子を通じて、良き部員を通じて教わったこと、教えたことは数限りない。そうしたことをどんな形でもいいから、何かに還元できるよう、そして馬という動物を心底、愛せるようにできたことが、全てであった。 もう一度、ありがとう、ギャランよ。

札幌市指定第一種水道工事業者第198号
札幌市排水設備業者登録番号第209号
北海道職員互助会指定工事店

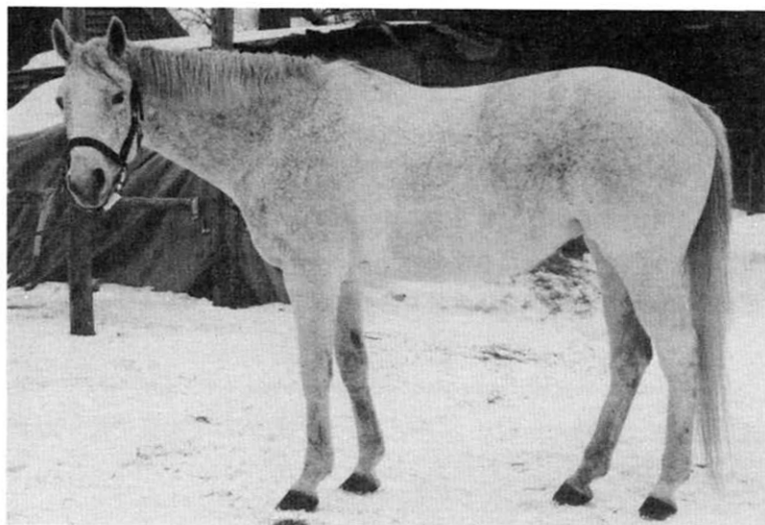
管工事業

日章冷熱株式会社

札幌市東区北19条東2丁目12番地88

電話代表 (742) 7273番

ノ エ ル 号



牝 サラ 芦毛
昭和50年4月22日生
浦河郡浦川町産
父 フォルティノ
母 シンクイン
競走名 スパークコルト

ノエル号調教報告

前 田 武 己

この1年を振り返り、改めて自分の無知、無能ぶりを恥じている。ノエルの実力から、そして今の北日本のレベルから考えて、全日学への切符に手が届くのは明らかだった。にもかかわらず、切符を手でできなかったのは、騎手の責任といえる。ただ、理想のみをおぼろげと追い続け、現実的な、騎坐の安定、推進と拳のつながり、脚扶助とは、といったことを余り考えなかった自分の騎乗態度の甘さを思い知らされる。

結果として、ノエルのチーフとして明らかに騎手のレベルが馬について行かなかった。騎坐が安定しておらず、障害においては飛越で騎手がバランスを崩し、その結果として経路走行中に馬がどどん前にかかっていった。加えて、脚による推進と拳との調和がとれていなかった。そしてこれは、いかに日頃の騎乗、調教がいかに根柢の無いものだったかということにつながる。脚で前に出せるようになるまでに春までかかり、そしてその脚と拳とのつながりがわかってきたのは7月の公認大会であり、馬の良い状態がわかったのは北日学だった。全ては遅きに過ぎてしまった。無駄な時間をずいぶん費やしてしまった。調教報告を書くに当たって、1度は月日を追って書いてみて、結局はこれだけの内容でしかなく、自分の愚かさに腹が立つだけであった。

もう1年、ノエルに乗ることになった。北日までの疲れがどっと出たのか、今一步馬体が良くない。肩、背、腰といった部分の疲れがあるのか、動きがどうもパツとしない。15才という年齢からも、もう限界は近いのかも知れない。

現在、発進、伸縮、停止、減却といった基本的なことの繰り返しをしている。正確な扶助を使い馬がどれだけ反応しそして人間がそれを感じて次の扶助を使う。このことを念願において騎乗していると、まだ日によって差はあるものの馬が無理なく落ち着いて動くようになってきた。そして馬体さえ良ければどんどん障害を取り入れ、アプローチ、踏み切り、飛越後の対応の練習をしている。どれだけ大きい障害を飛ぶかということではなく、どれだけ自分の考えるように飛ぶかということを考えてである。そして問題点に突き当たり、それを克服していくことが安定した走行につながるはずだ。

北日学の総合で余力の最終障害まで飛べたのも、中村兄、金田兄をはじめとする先輩方のおかげであり、そして1年間温かく見守ってくれた中野主将をはじめとする4年目には頭が下がります。反省だけの調教報告で、抽象的すぎますが、何をやった、どうだったということを書くのは、あまりにもおこがましいのでやめました。来年こそ総合で権利をとり、今年の方も含めて報告させていただきます。

岩城弘侑法律事務所

弁護士 岩城 弘侑

事務所／札幌市中央区南1条西10丁目南大通ビルアネックス6階
☎241-0797・251-2470

北 銀 (しろがね) 号



騙 サラ 鹿毛
昭和55年4月28日生
上川郡新得町産
父 ヤマブキオー
母 ソーゴータカラ
競走名
トカチャマブキオー

北銀号調教報告

高 野 薫

『次代を担う馬が育つまでは』と孤軍奮闘してきたドン・ホッパーがとうとう引退・離厩した。僕の目標は北銀をドン・ホッパーのような馬にすることであった。しかし、2年間乗ってきて、残された課題はまだ多く、ドン・ホッパーの名を出すには非常におこがましいようだ。

一年間の運動を反省を交えながら見てみる。

冬場の運動は体力作りと基本的なことのチェックのみをしていた。基本的なことのチェックというのは、馬よりもむしろ僕の方の問題点のチェックのつもりで、逆に正しく乗ってさえいれば馬の良くない点が見えてくるか、或いは自ずと直ってくるのではないかと思う。(あまり高いレベルの話ではないかもしれないが、冬場はまずその程度で良いと思う。)又、これらの目的からも、馬が真剣にならなくてもあまり気にせず、比較的大きく伸び伸びと動いていればそれで良しとした。考え方としてはまず良かったのではないかと思うが、体力作りについてはちょっと甘かった。持久力を養うことが足りなかったようで、夏場に競技会が続くと疲れが見え始めたし、総合の耐久の後にも回復が遅いような気がした。障害は筋力をつけるためキャバレティバー(垂直又はオクサー)のみやっていた。

春になって地面が良くなると専らコンビネーションに始終した。人も馬も冬の間忘れていた飛越のリズムを感じ取れるし、障害までの距離も読みやすくなる。最初のうちは馬によく合った間歩で構成も飛びやすくし、その後のシーズンに入っていくと目的に応じて構成を変えていたり、軽い回転を含めて

いった。うさぎ飛びなんかは、よく背中を使って良いのではと思ったのだが、北銀の場合は苦手で、数が多くなると興奮してかえって背中を使わず吹っ飛んで行くので、2個所くらいまで。又、そのくらいだとリズムを掴むのにもよかった。経路走行は、やはり春は久し振りなので興奮する。慣れば大丈夫なのだろうが、興奮したまま走行する癖が付くと困るので、けんかせずにやめてしまい、低い障害にゆっくり向かうようにした。コンビネーションでリズムを掴むと同時に、早く良いペースで走れるようにすると良いと思う。

障害練習に入る前のフラットワークは、3月末の道馬連強化合宿で学んだことを軸にやっていった。その時は一週間程鎌田さんにびっちり乗って頂き、また僕が乗るのを見てもらうことが出来、北大に帰ってきたときには馬がガラッと変わっていた。常歩に十分時間をかけて、輪線上、直線上で軽くでいいから正しく内方姿勢をとらせる。それと前肢旋回。反応が鈍ければすぐ対処する。脚を使ったら後軀をすぐ反対に動かすようにさせて、単独脚をはっきり認識させる。二蹄跡運動なんかを頻繁にやったのだが、正しい内方姿勢、前肢旋回を簡単に、はしょってしまうと何もできなかった。肩を内へを正しく出来ればもう十分だと思う。しかし、斜め横歩だったり、首だけだったり、肩から逃げていたりして、まずうまくいくことはなかった。それでも効果があったと思う。埒を外方脚の代わりに使って内方脚で押し出し、外方の手綱で抑制を強めていく。前進氣勢をしっかりと持たせていれば、顎を折って前後にも左右にも屈撓してくるようになった。その後直進してもコンタクトはかなり強く、腕が疲れる程だったが、鎌田さんには絶対にその拳を変えないように言われた。強く持って口を鈍感にしたり、前進氣勢を殺してしまわないかと不安であったが、同じように持っているうちにだんだん楽に手綱を持てるようになってきた。やはり、脚を使えなければ話にならないし、手綱がすぐ長くなってしまえば、いつまで待ったところで正しい衝撃受けは出来ない。又、正反撞をやっても正しく座れなければ何をしても馬体が起きてこないということがわかった。歩度を伸ばす時には、脚を使うと同時にゆっくり軽く拳を前に出してやる。駆歩も同じ調子でやっていく。最後に速歩で馬の欲しがるところまで手綱を伸ばしてやってやめる。それまでの運動量や緊張状態の続いた時間によって、障害をやる前にひと息つかせたり、そのまま続けたりした。

障害は大体キャバレッティから始めてコンビネーションに入って、最後に乾燥を飛んで終わった。キャバレッティは高さをつけたこともあったが、高さが無い方が北銀には良いような気がした。というよりもそれによって足さばきが上手になったり動きに弾発が出たりしそうにはなかったのも、それならばスムーズにリズムをとれるように低い方が良いと思った。

試合前でも輸送疲れのない札幌での試合ならば運動量をそれ程落としたりはしなくても良いと思う。もちろん次の日に疲れが残る程の運動は論外だし、障害を飛ばせばそれだけ怪我をする確率は高くなるので、その辺は考慮しなければならないが、馬休明けの日はやはり体が硬く感じて運動しにくかったことを考えると、コンスタントに運動を続けて試合に臨んだ方が良いだろう。昨年の経験では、北星での道自馬の前日大雨で一日中馬房に入れておいたところ、初日の競技は、見知らぬ馬がいる興奮も相まって準備運動にならなかった。前日がだめなら当日の朝でも軽く体を動かしておくべきだろう。天気のためではないが、似たようなことが2年の時の半沢杯でもあった。北大や酪農・北星など準備運動の狭いところでは特に興奮しやすくなる。

公認大会の時（というよりも、その前）は大きなミスをしていた。公認大会は初日は良いと思ったのだが、2日目の準備運動中、よその馬が練習障害を速いペースで上げていくので、仕方無くそのペースに合わせてあわてて障害を飛んでいたら、一度大きくひっかけてしまった。それからは飛ぶことは飛ぶのだが、全く前進氣勢がなく、障害前で詰まったり体を低くしたりしていた。結果はリバプールで3反。リバプールは高さを恐がったのではなく水を嫌ったので、この時の悩みとは関係ないが、走行中のオクサーの飛び方など極めて良くなかった。よその人に踏み込みが悪くなったと言われたのだが、この頃は細かいことに気をとられすぎて良い運動ができていなかったようだ。実は準備運動中に障害にひっかったのは、その表れ、又はその後の障害を恐がるきっかけで、本当の原因は6～7月にかけてやってきた運動の失敗にあったのだろう。

そんな反省を得て、北大に帰ってからは北日に向けて計画を考え直した。しかし北日前はひどく調子が悪かった。どういう訳か全日前ももっと悪かった。どちらの時も、2年間乗ってきてこんなに上手くないのは初めてだと感じた。人間の精神的な不安のみが原因なんだと自分に言い聞かせるのだが、やはりうまくいかない。飛べば飛ぶ程、踏み切りが合わなくなる。人と馬の動きがちぐはぐ。こんな日もある、と次の日に期待するのだが次の日は更に悪い。どうして俺はこんなに下手なんだろう。俺ももうここまでかと思ったりした。でも終わってみて結果を見ると、やはり人間の精神的なことのみのみか問題のようで、馬はしっかり飛んでくれた。北日は結果こそは良いものの、内容はひどく、非常に馬に助けられた試合だった。精神的な弱さは選手として必ず克服しなければならない問題だと思う。

やはり精神的なものかもしれないが、なんとなく余力審査には苦手意識があった。北日・道体・全日といふどれもパツとしない内容だった。特に今年の場合は冬場の持久力アップが足りなかったようで、いつも耐久の疲れが翌日まで残っていた。馬事公苑のすべて砂地のスティーブルを走った後は、それまで見たこともない程疲れた様子だった。それまでの計画が悪かったにせよ、そこまでできてしまったからには仕方がない。何とか馬をピリッとさせよくコントロールして良い走行をしなければ、それこそ何のために耐久を頑張ったのかわからなくなってしまふ。そういつも思うのだが最後のもうひとふんばりをさせきれず、道体は水壕の1反と他2落、全日は3落だった。余力をきっちり満点で帰す人達とは実力の差を感じてしまった。

リバプール・水壕で止まったりしたことについては実はあまり気にしていない。そのうち飛ぶようになるだろうと楽観的に考えていた。又、北銀の良い所の1つで騎手の隙を見て逃げるなどという考えは全く頭の中に無いようで、嫌なものがあつたときにはすぐに反応を示すので対処しやすい。フッと感じた瞬間、すかさず脚を使って勇気を出させてやれば嫌がりそうなものでも行くようになる。逆に外乗中などで、たいしたことのないものでも、ほんのちょっとしたきっかけで怖いと思えば本当に恐くなってしまふこともある。数年前のドン・ホッパーの調教報告で「びっくり病」という表現があつたが、それと似たようなことではないかと思う。

その他、試合の際に失敗したことでは、回転で馬体が沈んでしまい次の障害を前肢で落下させたことが多かった。ミーティング等で互いに注意し合っていたはずのことなのだが、練習中に徹底していないためにいざという時に出てしまふ。又、僕の場合いつまでたっても開き手綱ばかり使っていたことも原因だと思う。馬体が硬いので走行はたいがい大きめに回っていたのだが、鋭角回転、或いはちょっとし

たミスでそのまま落下につながった。

踏歩変換しないことでも苦労した。村上捷治さんに見てもらいながら何度か練習したのだが、いつもとても苦労していたので一人でやる勇気はなかった。正確にできなくとも経路走行で回転中のどこかで不正駆歩が交じりながらも回転の方向に合わせてやってくれば良いのだが、前肢は換えても後肢はまず換えることがなく、かたくなに元の手前を維持する。競技会では飛越後次の回転に合わせた手前で着地させるように注意したが、誤って反対手前になったときは無理せず1度速歩に落として正しい駆歩を出し直してから次の障害に向かうこともよくあった。ペースを乱したくないとか、このままでも行けると思ったときには反対手前のまま向かった。全日学の二走目、6番飛越後右回転で7番8番の連続に向かう所で左駆歩が出てしまった。「やばい！」と思い速歩にしようかと思ったのだが、「この晴れの舞台で・・・」という思いが頭をよぎり、踏歩変換してくれることを願いつつ駆歩のまま回転したら、案の定トモを払うことなく大きくふくらみ痛い落下につながってしまった。

突然話は変わるのだが、馬場の競技に関してもちょっとだけ。——馬が緊張してさえいれば、歩様は比較的魅せられるものを持っているようで、人間が正しく乗れるようになるだけで必ず点数は上がっていった。あれこれ思い巡らす前に、まず自分自身の問題としてやっておくことが沢山あったということ、シーズンを終わる頃になって感じるようになった。

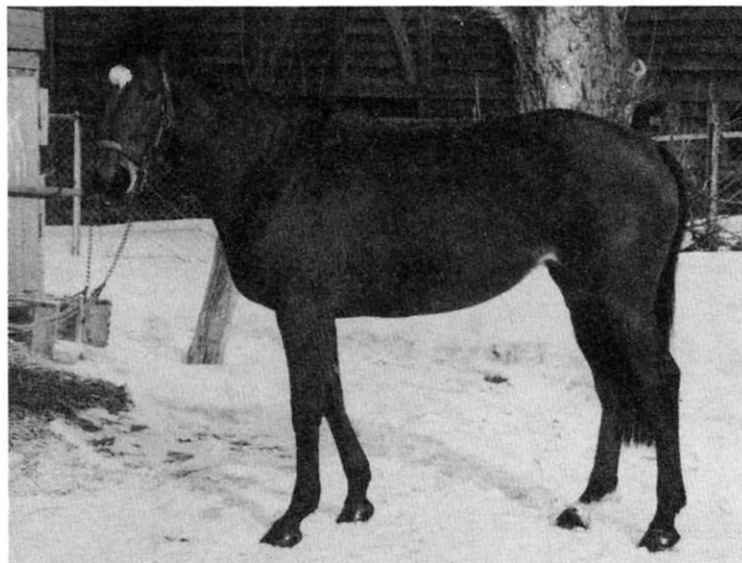
以上、思いつくままに書いてしまったので、構成が全然整っていないが、こんなところである。これからの課題としては、まず大きく伸び伸びと動かすこと、前後左右とも柔軟にすること、そしてよく踏み込ませて体を起こすこと。とても大変なことを簡単に書いてしまって誠に申し訳ありません。

馬術書なんかを読むと、北銀のように歩くとき飛節が外側にひねる馬は良くないと書いてあるし、獣医師の話ではつなぎが立ちすぎているのは腿に負担がかかって良くないと言います。しかしどの馬術書にも書いてあるように欠点は、それを補って余りある長所があれば気にすべきではない。北銀の場合は最高の性格を持っています。僕の責任で躰はちょっと(?)悪く馬添もよくないのですが、もっと大きく見て、人間の情熱には必ず答えてくれる馬です。これから乗る人達には、ちょっと厳しいけれどもよく自分を見ながら、それでいて思いっきり乗ってほしいと思います。北銀がドン・ホッパーのように乗り換わる学生によってうまく連繫されて、末長く北大馬術部で活躍してくれると信じています。

ショッピング リカーショップ
やまわ わしだ

〒062 札幌市豊平区美園3条4丁目 TEL 821-6428

北 玲 号



牝 サラ 鹿毛
昭和56年4月8日生
幌泉郡えりも町産
父 ノーザンアンサー
母 クレメンタイン
競走名 クイーンクレメン

北玲号調教報告

加 藤 ゆ う こ

“一番正しい事”は世の中に存在しないと思う。これは飽くまでも、現在の私の考え方である。

「殿七分に乗り三分」という言葉が示すように、馬を理解しようとするなら、また自分を馬に理解してもらおうとするならば、まずは日常の生活に重点を置かなければならないと思う。私が北玲と共に歩んできた2年間の中で常に心掛けていた事は、彼女が何を考えているのかわかろうとする事、そして彼女に私の考えていることを無理強いでなく納得してもらう様にする事であった。これは信頼関係云々という事になるのだろうが、一口に信頼関係と言ってもなかなか理解できないと思う。実際馬場で騎乗している時も、本人が気付かずに、馬に対して“裏切り行為”をしてしまう。私達学生に失敗はつきもので一度や二度は致し方ないとしても、問題なのは、それが失敗であったと自ら認識し、即改善する方法を考え、次の日の練習から実行できるか——という事ではないだろうか。4年間は短い。まして、はばかりながらも調教者として馬に接するのは長くても2年間ぐらいなものではない。そのなかで未熟な技術を駆使して全日学を目指していくのだから、とにかく毎日“発見”していかなければ、忙しい大学生活をやりくりして馬に乗る意味はないと思——話を戻す——お互いの理解を深めるチャンスは、曳き馬、手入れ、そして北玲の場合は特に治療の時だった。曳き馬時、最初は馬が必ず安心してきける場所へ行き、「私と一緒にいる時に怖い事は全くないですよ。」と思わせるように努める。これが定

着したら、次に新奇な場所へ行き、「万一怖い事があっても、私がいる限りは大丈夫ですよ。」という具合にして、少しずつ行動範囲を広げていく。この考え方は騎乗時にもつながるわけで、「私がこんなふうに脚を使っているこのリズムで向かえば必ず飛べますよ。」と言えなければならない。このために騎手の騎坐の安定も必要で、無理なく人馬共に練習するには、コンビネーションなどリズムのとり易い障害が有効だろう。

治療に関してはとにかく警戒心が強い。毛刈りバサミが体に触れようものなら目をむいて驚き、一旦“嫌だ、怖い”となると頑固としてその態度を変えず、こちらが折れて諦めざるを得ないような状況にさせる強情な面もあったが、最近是一般治療程度ならば誰にでもおとなしくさせるようになった。問題なのは注射で、これは全く受け付けない。上手く出来ているもので、疝痛が起きた事はなく内臓系は強い様で、静脈注射を打つ必要に迫られる事はほとんどない。しかし一年に数回は検疫の為の注射があるわけで、これには非常に頭を悩ませた。馬は人の心を読む動物と言われるが、北玲は特に洞察力は馬一倍で、たとえ普段と同じように振舞って見せても、こちらの心中に少しでも動揺があると素早く反応し警戒態勢に入る。こうなってしまった場合は、絶対に力でねじ伏せようと思わず、根気強く対応し、納得するまで待ってやらねばならない。焦りは、それまで積み重ねてきた信頼関係を崩す。棗馬に入れて注射をする手もあるが、これは最終手段に残しておき、あまり頻繁に行うのは避けた方が良いと思う。何によらず、馬に不快な思いをさせるのは良くない。不快な感情を抱くことに慣れると、だんだん癖の悪い馬になってしまうだろう。

癖——という言葉で思い出したが、北玲は非常に強い潔癖性を持つ。馬房内でもボロは一所にまとめてするし、ボロを体に付けたり、踏んだりする事はめったにない。それ故、たまに体にボロを付けたら蹄のウラにボロが詰まっていたりする時は、余程疲れている、もしくは精神的に不安定な状態にある、と考えた方が良いだろう。肢さばきが上手い事とこの潔癖性の2つが、障害を尊重して飛ぶ事につながるのと言うまでもない。馬房内の様子と騎乗時の様子の間には大きく相関があると思う。全てに於いてだらしなくなれば、障害も尊重しなくなるような気がする。この潔癖性を大切に、それを持続させる環境を作り出してあげて欲しい。

3年目の全日学後改めて北玲のチーフとなったのは12月からであった。フラットワークの内容の充実が重要であると痛切に感じていた。単独脚反応の確認、バランスによる移行、十分な推進とそれを受けける拳、飛越時のリズムと踏み切りの安定、そして騎手の間歩を読む目を養う——などであった。まだ、後肢が脚の強さに応じて踏み込み馬体が起きてくる様な状態ではなかった。元々、前駆に重なる様にして歩くためもあるのか、横運動をする際、勢いで肢を運ぶ傾向があったので、とにかく一步一步肢を運ばせる事を心掛けた。

年が明けて、栗東トレセンで学んだ事を活用しようと思い、まず最初に、拳を柔らかくして馬が頸に力を入れずにハミを求め、よく頸を使える様な状態を目指した。以前よりも拳に気を遣って乗っていると、ハミに素直に馴染んでくるのが分かった。ただ初めのうちは、私が所謂“譲るタイミング”というものを明確につかんでいなかったためと推進不足で、下へ下へともぐっていた。ハミをゴムバミに替えてみたが益々ひどくなるだけだったので、3日間でやめた。運動内容がマンネリ化しない様に、また少

しでも良くなったら一度放棄手綱にする様にしているうちに、重らなくなっていた。障害飛越は、瞬発力を養い、肩の起揚と頸の使用を目的として、単一とオクサーを混ぜたうさぎ飛びをよく行っていた。

2月初め、外乗中に下級生を落としてひっかかり、右前肢の腱を腫らした。一週間ほどの馬休後も、肩や後肢に影響が出て、思い通りの運動は出来なかった。北玲との関係に自信が出ていた頃で、少し一人よがりだったかもしれない。油断は禁物だと再認識。3月上旬はその反動で私の方に焦りがあり、運動に滑らかさが欠けがちだった。外乗や常歩運動を中心に丁寧に乗ることを続けるうちに、中旬頃には馬休前の状態に戻ってきた。特に停止・後退で良くなってきているのを感じた。

その後はシーズンへ向けての実践的なトレーニングになる。障害もコンビネーションからダブルへと展開させたり、苦手障害を取り入れての簡単な経路走行を行ったりした。オクサーや単一、箱障害を1つだけ飛ぶ練習も必要である。コンビの数を徐々に減らしていく、若しくはコンビ通過後に回転してから1個障害を通過するパターンが取り組み易い。それらの障害に向かう際、詰まったりペースが速くなったりせずに飛べなければならない。また、間歩を読むために障害の手前数歩の所に目印を置くなどして、とにかくアプローチラインに入ったらなるべく早く踏み切りを見い出してやらないとだめだろう。私の場合、障害のかなり近くになってから踏み切り調整のために追い出したりするものだから、飛越す前に馬体が伸びてしまい、試合時はこれが落下の原因につながることも多かった。

また応用として、経路走行時に臨機応変に対処できる様にするために（これは馬が人を助けてくれる場合を想定してだが）、いつも同じ所から踏み切るのではなく、駆歩の歩度により少し遠くから飛ばせたり、近くから飛ばせたりする練習を勧められた。一定距離を異なる間歩で走る練習やコンビネーションの間歩を±1～1.5mくらいで変化させて通過する練習が挙げられるが、馬とケンカせずに態勢を整えられるのは後者の方だろう。

半沢杯は複合と中障害に出場した。障害の走行は、シーズン最初の試合にしてはかなり内容が充実していたと思う。準備運動中も本番も切れの良い飛びであった。来札されていた水野さんに、私先飛びをしなければもう10cmは高く飛べる、と言われており、馬の状態が良く、私自身が自分の随伴に気を配れたこと事も良い走行が出来た要因の1つだった。常に、飛ぶのは馬であり、人は受身の態勢で待っていないといけないのだった。

一方、複合馬場は、相変わらず準備馬場で落ち着くのに時間が掛かった。シーズンを通して見ても、馬場の時は、注意散漫になり易かった。馴致、乗りこみが足りない、などもあったが、一番の問題は騎手の“座り”だった。少々物を見て驚いても、しっかり座れている時は意外に早く冷静になる。騎手の精神的な余裕にも左右されるが、一度納得すれば、他の馬がいきなり駆け寄ったりしても驚く事はない。

半沢杯後の課題は、馬場では、準備運動の工夫（いかに心理面を押さえて沈黙状態にさせられるか）障害では、駆歩の伸縮・前進氣勢を充分にして左へ寄れて飛ばせない・騎手のバランスバックによって馬体を起こし、ボリュームのある障害を確実にクリアーできる——ことであった。

意気揚々としていたところが、半沢杯の約10日後、コンビネーション飛越時に馬が腰を捻ってしまいその後一步も歩けない状態になってしまった。長期馬休を余儀無くされ、目前の国体審査会にはもちろん、6月の道自馬にも出場出来なかった。捻ったのが元々悪い右腰であったためか、右後肢の跛行がなかなか治らず、7月までは一進一退の状態が続いた。7月に入ってから、公認（於：帯畜大）に向け

での練習を本格的に始めたが、一月半のロスが大きく半沢杯の頃のような感じは掴めなかった。飛越は前のめりで、良いバスキュールを描けない状態だった。北日学を控えかなり焦り始めていたのだが、とりあえず畜大に連れて行き3級馬場のみに出た。それまで馴致にもあまり行っていなかったので、畜大ではまるで新馬のような挙動だった。大切にしていたのではなく甘やかしていた事を痛感した。

公認後、北日学は目前で、フラットワークから地道に積み重ねていく時間的余裕はなかった。とにかく後肢をよく動かす事とバランスバックだけに重点を置き、二回走行の経路を断片的に再現して練習を進めた。こういう実際の経路を練習で再現する場合、人馬とも無理なくそのリズムを習得するために、最初はやや間歩を短くした方がよい。練習中の分速は、試合時より遅くなりがちで、そのペースで試合と同じ間歩を向かって、たいていの踏み切りは遠く、届かない。分速の感覚を養うことも大切だが、短めの間歩で、前進氣勢が充分になって人馬共自信が付いたところで、所定の間歩へ広げる方法を取るのがよいと思う——こうして、少々荒削りではあったが、7月末にはお互い感覚を取り戻していた。

北日学は猛暑の中で行われた。畜大に着いた日の夕方体温が上がったが、飼食が良いのであまり気にしなかった。暑さだけでなく、特に牝馬の場合、バイオリズムや環境の変化で、体温が安定しない事があるが、放っとしても治ってしまうケースが多い。飼食も悪いとなれば考えものだが、通常よりも体温が高いことを考慮に入れさえすれば、運動を行っても大丈夫の様だ。

試合開始直前までに、とにかくその場所にできるだけ早く慣れさせる必要がある。暇な時間は寝てばかりいないで頻りに馬を外へ連れ出し、青草を食べさせてゆったりする。他馬と一緒に曳き馬に行くのも良いが、それだけではいつまでたっても他馬に対する依存度が消えず、人間と一緒にいる事に安心感を覚えない。慣れてきたら出来るだけ1頭で行動を取るようになる。普段と違う場所では、いつもの倍くらいの声を掛け、決して怒ったりしない事。少々馬が気を散らして驚いたりしても、笑ってなだめてやるくらいでないと、馬はついてきてくれないだろう。

二回走行は危うく権利を取り損ねるところだった。一走目、前半非常にスムーズな走行だったが、トラケネンで2反抗。すわ失権か！——団体出場のプレッシャーをこの時程、体で感じた事はなかった。3年目の全日学での野外走行以来拒否された事がなく、なす術を持ち合わせていなかった。基本的には北玲は“穴嫌い”なので、注意を怠らずコンスタントに馴致をしておく必要もあるだろう。（だからと言って、人が神経質になる余り、遮二無二馬を追う様な状態で馴致をすることはすべきでない。どのような障害でも、リズムを崩さずに飛ぶことが一番大切である。）二走目は一落下も許されない状態で気負ってしまい、十分に推進出来なかった。他の選手のミスで、ギリギリ全日出場の枠に食いこんだ。嬉しいというより、北玲の本当の力を出し切れなかった事が悔しかった。

総合は、調教審査はまあまあ、といったところだったが、ステーブルは非常に良かった。手の内に入った状態での伸縮が野外でも確実に行え、人馬共落ち着いて走行出来た。何よりも嬉しかったのは、走行後全く怪我をしていない事だった。たとえノーマスであっても、怪我を作ってきた時の走行は、どこかに問題があるのだと私は思う。ペースが適切でなく勢いを借りて飛んでいた、固定障害だから肢を引っかけても落下しなかったと考えられるからだ。この時に、北玲も野外走行にだいぶ慣れ、自信が付いてきたのだなと思った。

余力は前年の北日学同様、疲労のために四肢の動きがすこぶる悪く、回転時に馬体が倒れ込む事が多

く苦しかった。原因は馬体の調子よりもむしろ準備運動の内容だと思う。これに関しては、全日学の余力の部分で述べることにする。

スティーブルの話に戻るが—— 走行後、重曹を補液として注射するのが常であるが、北玲の場合もちろん不可能。重曹の代わりにポカリスエットの類を飲ませる手もあるが、それ以前の問題として、短時間での体力回復のために必要な基礎体力や持久力を養うトレーニングをするべきだろう。時々、馬場で一定時間駆歩を継続させ、騎手は所謂“ハンターシート”で乗る様にする。外でも落ち着いて走れる時は外乗でこれを行う。そして単に駆歩で走るだけでなく、走路上に1つか2つで良いから低いクロスバーでも加えて、「飛ばせよう」と意識するのではなく、「駆歩で走っているうちにバーを跨いでいた」ぐらいの感覚で行う。この時、駆歩のリズムを崩さずに障害を通過する事が出来れば、実際の走行でも駆歩の流れの中で障害通過出来る様になる。この練習では、人は踏み切り云々は気にせず、黙って馬のリズムについて行くことだけを考えるのがコツ。

ところで、どうして北日学はあんなにハードなスケジュールなのだろう。開催校の事情、審判員の都合もあるのだろう。しかし北日本では、二走も総合も同一馬で参加する大学がほとんどである。今のままではまさに4-DAY-EVENTだ—— 馬を酷使している事に気づいていないわけでもないだろう。“愛馬精神に則って”試合をするのなら、今度の幹事会では議題に挙げて欲しい。1日延ばすだけでもだいぶん違うはずではないだろうか。

全日学までに、道体と国体審査会があり、この2つの試合で中障害と総合に1度ずつ出て、最終調整をしようと考えていた。個人、団体共に上位入賞が目標だったわけだが、そのために必要な事は、結局のところそれまでの課題と何ら変わる事はなかった。その中で最も不足していた内容に焦点を絞った。

1つは馬場運動をもっと安定させる事だった。速歩運動では、駆歩運動の時よりも馬がフラットで、縮めた状態にすると我慢しきれない。そして速歩から駆歩への移行時に大きく頭頸を振ってしまう癖。これらの矯正のため、騎乗時にシャンポンを装着した。シャンポンをつけての騎乗は良くない、と聞いた事もあり悩んだが、騎手が拳に気を取られず推進する事を考えられる利点があると考えて使用した。もう1つは障害でのバランスバックだった。これには六段飛越の形式を取り入れた。拳を引かない様に着地と同時に騎手の上体を起こし、次の一步を馬体が起きた状態で踏み出せる様に努めた。これと平行して、縮めた駆歩で障害の近くから踏み切らせる事も行った。

障害練習をした日も、終末運動にはシャンポンをつけて横運動を行い、頭を下げるようにした。後肢の交叉が悪いと感じると、つい内方拳で引っ張りがちになるのだが、これは全くの逆効果。絶対にはならない。そういう事を続けていると、形だけ決まった馬になってしまい、ハミを求めて下げている状態とは掛け離れたものになる。

道体と審査会は、浦河の国体競技場で行われたのだが、ここの馬場は砂が深く、間歩を読み誤る事が何度かあった。飛越直前に間違った事に気付いても間に合うわけがないのだから、じっと馬に任せて待っていた方が良い。分かっているつもりでも、最後の一步で前を離して、例の遠くから踏み切る飛びをさせてしまう。試合になると上気しがちで余計にそうなる事が多い。また準備運動不足の場合も同じ結果を招く。馬側の精神的・肉体的準備がままならない時は、馬が焦って遠くから飛んでしまう。それ故最

初の競技前の準備運動は念入りにしっかりやっておくべきである。“しっかり”とは時間延長を意味するのではないので誤解しないよう。内容を充実させて、馬体力の浪費は避けるべき。

馬が勝手に障害に突っ込んでいなくなってきた事を認識したのは9月、「脚に対して馬が素直に前に出ていないから、障害を高くすると自ら向かって行こうとしないで止まってしまうのだ」と指摘を受けた。つまり、人に判断を委ねる様になっていた事の表れでもあったのだが、これはある意味では良い傾向と考えられるが、非常に危険な事でもあった。人の判断ミスで馬自身の判断でカバーできなくなり、共倒れになる場合があり得るからだ。馬体の小さな馬だけにその事は非常に心配である。しかし、能力は充分ある馬なので、きっちり推進できる騎手ならば、誰が乗っても、中障害は帰ってこれるだろう。ただし、クリアーとなると、また別問題。

10月に入り、私は一週間程北大を離れて、昨冬お世話になった栗東トレセンで再度練習させてもらう事にした。全日学の1ヶ月前を切っていたが、皆の理解とOBの長屋さんの御協力を得て、思い切って実行した。その帰札後、東京へ出発する日まであと二週間となっており、栗東での練習効果、馬との折り合い、を短期間で深めるために、毎日2回北玲に乗る事にした。1回に長時間乗って多くの事を要求すると、集中力が欠けてくる。一鞍の時間を短くして、鞍数を重ねた方が効果は上がるだろう。学校との兼ね合いもあるだろうが、現役の皆も是非考えてみてはどうだろうか。

2回に分けた事で、午前には外乗での馴致、連続障害やリバプール等の飛越、午後には横運動中心の馬場運動、単個の障害飛越——といった具合に内容を充実させる事ができた。また短時間で馬を手の内に入れる練習にもなった。

全日学——とうとう二回走行を満点で帰らせる事は出来なかった。練習が飽くまでも練習で終わってしまった事を感じた。しかし、それは馬の問題ではなく、人の精神面の問題であった。北玲の実力は充分ある。今後もその辺の事には自信をもって乗って行って欲しい。

3-DAY-EVENTは、調教審査で予想以上の良い点数が得られた事と、元々スティーブルや余力に不安がなかった事が、私の精神的な余裕につながり、良い結果になったのだと思う。余力の準備運動は北日学の失敗を生かし、後軀をしっかりと踏みこんで馬体が起きる様にした。野外走行は、馬にスピードを要求するのでどうしても馬体がフラットになってしまう。そのままの状態で次の日の余力障害に向かえば必ず落下を招くだろう。馬体の疲労がひどい時は時間が掛かるかもしれないが、北玲は物事の理解は早い方なので、騎手側の要求が明確であれば、これはそんなに難しい事ではないだろう。

北玲も調教5年目となっており、競技馬としてはほぼ安定した状態にある。あとは騎手との折り合いを精神面を基礎としてどうつけていくかという事と、馬体管理と密接につながった運動内容を考える事だと思う。最も心配な、右大腿二頭筋の股関節上部の炎症は、触っても痛がることは全くなく“固まってきた”様だ。跛行に似た歩き方をしているが、そんなに痛くないはずだと診察だった。ただし、右後肢が踏み込みにくいから、と言ってそれに甘んじて動かさない状態が続くと、筋肉が動かなくなり益々固くなっていくと思う。これが原因でいつか引退する日が来るかもしれないが、出来るだけ永く北大で活躍していくためにも、以下のような事を続けてみてはどうかと思う。

馬体全体を使って後軀を良く踏み込ませるために、曳き馬・調馬索・放棄手綱での騎乗時には、必ず

頭をき甲の位置よりも下げた状態に保つ事。ハミを求める様に頭を下げたら、更に推進扶助（舌鼓・追鞭・脚）を用い、馬体のそのシルエットを保った状態で後肢をより深く体下に入れさせる。北玲は神経質であるが故に頸の筋肉を緊張させる傾向が強いので、その点は環境設定も考えて充分に気をつけていくべきだ。これらの内容を毎日続けていけば後軀の使用不全防止になるだけでなく、障害飛越時によく頸を使ったバスキュールを描ける（拳が譲れたなら）事にもつながると言われている。とにかく、乗っている時も、降りている時も、リラックスした状態で体の隅々まで使わせる様にする事だ。

こんな事もあったあんな事もあったと思い出しながら書いていくうちに、まとまりがなく長くなってしまったが、この辺で筆を置くことにする。

調教報告を締めくくるにあたり、北玲に関心をもって下さった方々、私に指導して下さい下さった方々に、深い感謝の意を表したい。名前を挙げればきりが無い程、本当に多くの人に教えて頂いた。それは馬術に限らず、これからの人生の中の様々な場面で活用出来ることだと思っている。

そして一緒に頑張ってきてくれた現役部員には、私があるOBの方から贈られた言葉をそのまま贈る。
—— 牝馬は叱らないと人を馬鹿にするが、本気で叱るとダメになるのがほとんどである。“なめるんじゃない”で済まないところに牝馬の難しさがあると思う。 ——

北玲の“永遠の幸”を願って・・・・・・・・



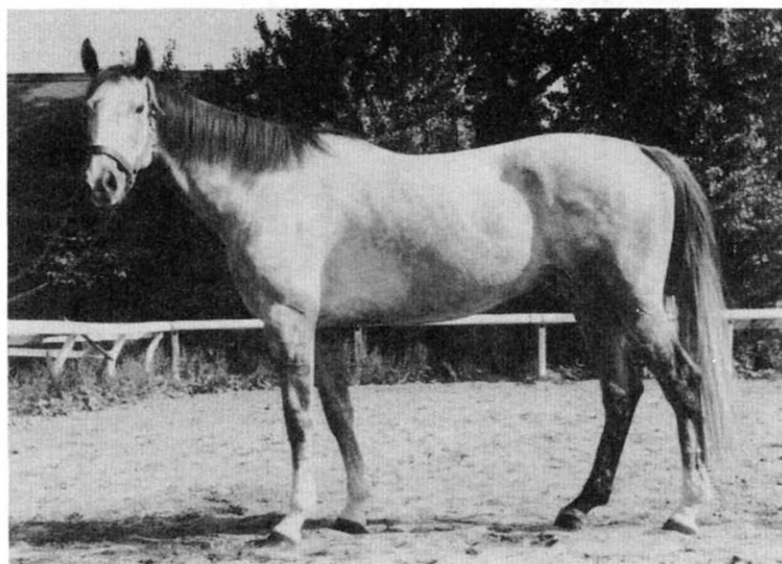
電灯電力設備
電気通信設備
信号保安設備
の設計・施工

協信電気工業株式会社

取締役社長 加藤 弘

本社 ☎060 札幌市中央区北13条西15丁目
電話 011(736)8311(代)

北 凜 号



牝 サラ 芦毛
昭和57年4月8日生
北海道浦河郡浦河町産
父 ゼダーン
母 ヤマニンパペー
競走名
ヤマニンスプリング

北凜号調教報告

大 歳 正 明

三年目の5月頃より、服部兄のもとで北凜に乗りはじめました。はじめは、主に輪乗りで、馬の頭をつっぱったりせずに、素直に前下方へと下へと下げさせることを目指し、頭をあげたら手綱をひかえ頭を下げれば、それを決して邪魔しないようにどこまでもついていってやり、そのときに脚を使って馬を前に出すようにすることのくり返しでした。ある程度出来る様になってくると、脚と拳との間に馬を常に入れて運動するように求めました。この頃は、脚を使うと、すぐに頭をあげ、すぐに前に出て行かないことが、しばしばあり、これも一種の反抗であるので鞭を使うなりして、脚を使えば、頭を下げたままの姿勢で、すぐに前に出る様に求めて行きました。

障害に関しては、まだ何も知らずに飛んでいるという感じで、これと言って、いやがる障害もありませんでした。試合には、服部兄と二人乗りで、北日の新人新馬と道体の小障にでました。北日の新人新馬のときは、北凜で試合に出るのもはじめてで、練習でもあまり障害をやっていないこともあり人と馬がバラバラで、人は不安から脚をどんどん使うが、馬の方は、そんなことは全く気にせず、自分のペースで走り、目の前に来た障害をただ飛んできただけという感じでした。道体の小障では、一定のペースで北日のときよりは、はるかにスムーズに回ることが出来ました。しかし、踏切りはどうしても合わず、一步入るところが数ヶ所ありました。

秋になって、一人で乗る様になっても、今まで通り、練習の始めにシャンボンをつけた調馬索を行う

事は、続けました。フラットワークに関してもほぼ同様に継続しました。また、伸縮がスムーズに出来る様に目指しました。しかし、良くなってきたり、悪くなったりをくり返すのみで、あまり進歩はありませんでした。馬にどこまで要求してよいのかが、全くわからず、試行錯誤の状態、馬にしても、毎日要求される度合がちがえば、混乱したであろうと思います。障害は、右前肢の調子があまり良くなかったこともありフラットワークが上手くいったときに、最後にやる程度で、主に踏切りを合わせるために、前に小さなバッテンをおいた連続障害をやりました。

11月1日に、山下杯があり、小障に出ました。結果は、回転がかなりきつく、連続障害にまっすぐにむけきれず、二つめで拒止という、全く人間のミスでした。それと同時に、一定のペースで経路を回れるだけではなく、歩度の伸縮が、経路走行中にスムーズに行える様にしなければ、という当たり前の事を痛感しました。

冬になって。このころから人間のバランスに問題があったのだろうが、左右の回転に片寄りができ、左回転の方が右に比べ苦手になってきました。これは手綱を片手で持ってみたりしたが、人間が馬の方の後肢を外に流すことは、結局後肢の踏みこみが足りないことが原因であると思われます。そこで回転ではできるだけ外方脚を意識して使い、斜め横歩、前肢旋回、後肢旋回等も行い、後肢の動きを良くする様に運動しました。しかし、人のバランスの悪さと、馬の頭の高さを気にしすぎ、脚よりも拳が先行していたことが原因で、進歩のないまま時間のみが過ぎていきました。

馬場に雪が積もり、下の状態の良いときは、馬に首を使って飛ぶことを教えるため、兎飛びの3～5連続で、オクサーを含むものを通過させました。通過後は、できるだけはやく手の内に馬を入れることができる様、できるだけ短い距離で止めるようにしました。しかし、2月になってすぐ、右前肢を破行し、春まで、障害ができませんでした。

半沢杯の前は、すべてが準備不足という状態でした。半沢杯前に経路回りが3回あったのですが、馴致不足の乾壕と土塁はすべて除きました。オクサーは踏切りが近く、その場から、ポッコンというような飛び方で、人が踏切りを読めず、そのことを気にすれば気にするほど、ますます、良くなく拒止させてしまうありさまでした。そこで仕方なく、踏切りは一切気にせず、馬に任せ、人間は飛越後のことのみを考えるようにしました。乾壕と土塁の馴致は、恵廬裏のなどで、幅が狭く浅い所から順にすべて曳き馬で行い、人がその場飛びで、飛び越させるところなら安心して付いてくる様になりました。

半沢杯では私が複合に出、中野君が、複合の障害のみにオープンで出ました。結果は、中野君が満点で、私は、経路回りの時に、派手に壊して、なんとなく苦手意識のあった半沢ドラムで一反抗でした。馬場の方は、ハミ受けが悪く直進性に欠けました。

半沢杯の後は、今までよりも、障害を速いペースで、踏切りを手前にし、大きく、ど〜んと飛ばせる様に求めました。そのために連続障害の最後を幅のあるオクサーにしその手前の障害で踏切りを合わせる様にしました。しかし、障害間では脚の反応がほとんどない状態は改善できませんでした。

6月18、19日の道自馬には、高野君がL級を私がM級Cにできました。MCでは、今までの走行よりも速めのペースでまわりました。5番でつまったため、馬を前に出したところ6番の前の回転でふくらんでしまったが、リズムを崩したくなかったので多少斜めに強引に飛ばし一落下、そのあと7番と10番でも、一歩入ってしまいました。前日に高野君がL級をはるかにスムーズに回っていたのに比べてお

粗末な結果でした。

道自馬後の7月7日の障害練習で、障害間の距離をまちがえたまま気が付かず、間歩の全く合っていない連続の最後の半沢ドラムを飛ばそうとし、半沢ドラムの上に落ちる様にこわしてしまい、その次から、半沢ドラムを嫌がり、その日はどうしても飛ばせられない状態になってしまいました。

その後、馬の不安を取り除く様、ゆっくりと調教していけばよかったですのですが、その翌日に経路回りがあり、障害の前で脚を使っても、馬が全く前に出ず、最後の三連続で一つ目は、なんとか通過したものの、馬が前に出ていないため、二つ目のオクサーが飛ばず、三反抗をしてしまいました。それ以来、連続障害を嫌がるようになり、人馬の信頼関係も全く崩れてしまったようです。

“連続が飛ばないのは、連続の一つ目を、リズムよく踏切りを合わせてやっていないからだ”、とのアドバイスがあり、回転で馬をつめ、障害の三間歩手前から、馬を前に出す様に練習しましたが、公認大会まで日がなく、上手くいきませんでした。公認大会では、準備運動で人が踏切りが読めず（近すぎ）馬が不安がる様な飛び方をくり返し、拒止までさせてしまうありさまで、本馬場に入れば、馬重く全く前進氣勢がなく、4番で三反失権でした。

公認が終われば、北日んまで2週間ほどしかありません。人がしっかりと踏切りを読んで、馬を押せるよう考えましたが、踏切りのことを考えれば考えるほど、ますます、踏切りの合わない不安が大きくなり、人間が全く自信をなくし、それが馬の不安にもつながるといった最悪の状態、拒止を覚えさせるのみでした。野外の馴致は恵施裏や農場で行い、川の馴致のため、百瀬さんの所の近くの川まで連れて行ったりもした。しかし、馬とけんかをするだけで、ある特定の乾壕や川の馴致にはなっても、乾壕や川というものを、こわがらずに通過するというレベルにはほど遠い状態でした。

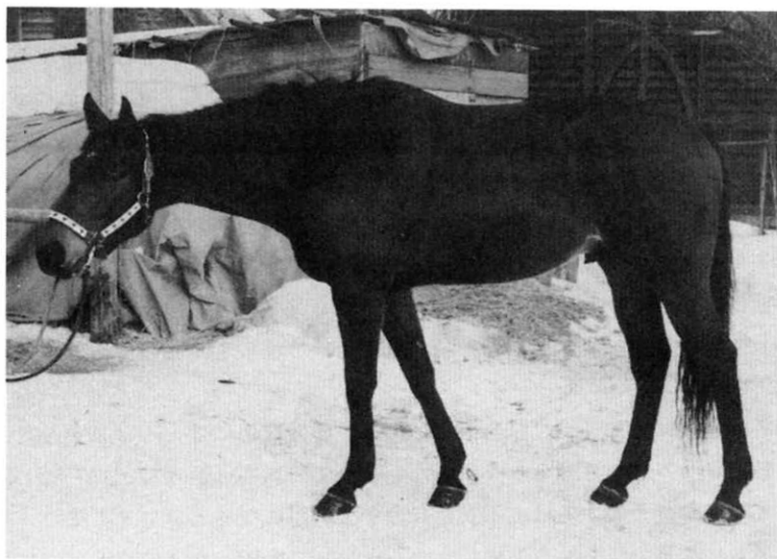
北日のスティーブルは、今思うと、もっと馬を信頼して、人がかたくならず、馬を楽に走らせてやれば良かったと思っています。一番で、足場の悪い中央部を馬が避けて、少し左に寄ったのを人間が障害のすぐ手前で強引に戻そうとし、馬の前進氣勢がそがれたように一反。四番の下がいているテーブルで二反。11番は坂を下り切った所にある単なる横木であるが、下り坂で馬の重心が、前方にかかり、どこで踏み切ればよいのか馬がとまどったような形で三反失権となってしまいました。

翌日は、馬の試合に対する悪い印象を少しでも減らしてやろうと思い、余力をやめ、新人新馬にオープンでエントリーしましたが、ここでも一反抗でした。

<最後に>

一年間北瀬に乗ってきましたが、常に試行錯誤の連続で、その場限りの運動が多く、対策が全て、後手後手に回り、系統的な調教が全くできなかったことが、この結果の原因です。全く参考に鳴らない事ばかりしか、書けず、馬にも問題点ばかりを残して申し訳ありません。

北 駿 号



騙 サラ 鹿毛
昭和58年4月3日生
北海道三石郡三石町産
父 トップホース
母 プルコワヒメ
競走名 チャフルガイ

北駿号調教報告

長 屋 清 隆

こんな筈ではなかったしそんなつもりもさらさらなかったのだが、この原稿を書いているいま現在、チャフルのチーフ兼馬体管理責任者は2年目の堀川にバトンタッチされている。もっと以前に書いておくべきところなのに、誠に申し訳なく思う次第。広告料をもらえなかったとしたら、この私めが悪いのです。

チャフルの競走馬時代の成績は昨年度も書いた通りアラブとしては超一流で申し分なく、懸念されたエビ、或いは腰も現在ではほぼ不安のない状態で、力も北玲などよりあると思われる。ピリッとさせ過ぎて泡を食ってとんでもないバカッ飛びをした時に見せる底力はかなりのものだ。いかんせん不器用さと隣合わせの感は否めず、2年間乗ったにも拘らずまだまだ発展途上にある。北大に入厩した頃の印象からすると、“お坊っちゃん”として育ててきたのかなかなか燃え上がらないし、一旦カッとなるとあわてふためくタイプのように、今度の新コンビは似たような取り合わせで互いに慣れ合わなければいいがと困っている。但し、今でこそアホ面さらして“ボケ”とか言われたりするけれども、競走馬としては極限状況を何度も経験してきているわけで、潜在的には確かな精神力を内在しているものと思われるから、それを引き出せるかどうかは堀川の変身にかかっている。

それにしても二重人格と言ったらいいのかどうなのか、すっとぼけた所のある奴で、この間なぞ投げ

草前後だったか半分寝ぼけて顔を出している所へ近づいても気づかなかったのが、僕だとわかった途端大あわてで馬房の奥へ逃げていったのには情けないやら腹が立つやらあきれてしまった。北玲にしても北星乗くで乗ってきた何頭かにしても二重人格風な所はなかったから、一体誰に似たのやら。

さて調教状態についてだが、障害馬のフラットワークとしてはまだまだ不完全ながら、ひと通りの事はやってきたつもり。ハミ受けはシャンプーを併用していた時期とその後しばらくの間、重かったりつかかかったりする面が気になった（これはシャンプーそのものというより使用法に問題があったと思われる）が、今は少しましになった。口は泡を吹き、停止・後退もぎくしゃくしなくてますますなのだが、ハミをかんでいるかとなるとまだその段階に達していない。ハミにとっついてこないし頭頸の伸展や顎の柔軟性に欠ける。何よりも脚を始めとする扶助に対して反応が鈍い。要求がまだそれだけ甘いのだと言わざるを得ない。駆歩の踏歩変換などもう少し練習をすればできそうな兆しはあるのだが、言い訳めくけれども乗りこみが足りない。外乗も現役に委ねてきたから、馴致という面でも本当の事を言うやらなければならない課題が山ほどある。

騎乗2年目の昨年になって初めて競技に参加した。試合慣れの為に、各競技毎にほとんど必ずと言っていいほど僕の他に上級生を1鞍、エントリーさせるようにした。初めての馬場（畜大など）では1鞍目は臆病さがもろに出て危うく失権しかけたりするほど不安定なのが2鞍目になるとコロッと変わってスムーズな走行をしたりする。最も、新馬のうちから失権したからといって絶望的かという点必ずしもそうとは限らない。それだけ慎重で繊細なのかもしれない、だとするとこれは将来的には競技馬としてプラスに転ずる可能性だってあるわけだから。それには一進一退ながら人馬が納得しつつ進歩する徴候がなければならない。競技経験も馴致も緒についたばかりで、昨年の成績からは結論めいたものを引き出す段階にない。

障害飛越については昨年、あまりにも大袈裟であると言った。新馬は多かれ少なかれこの傾向はあるもので、少しずつ首や背を使う事を覚え膝を曲げて効率良く飛ぶ事を覚えて行くのだが、前述したようにチャフルは不器用なのか力に頼る傾向がみられる。アプローチからバスキュールへの移行がリズムカルでない上に、当初に比べてかなり良くなったとはいえまだまだ随伴するにはつきづらいから乗っている者は大変だ。踏切位置の安定化を目指したが、飲み込みに時間のかかるタイプなのでまだ早かったかなと反省している。無理に合わせようとして逆に前進氣勢をそいでしまうというマイナス面もあるのだから、当面はコンビネーションを使用してリズムカルな飛越への移行を覚えさせた方がよさそうだ。旺盛な前進氣勢を鼓舞する必要もある。鞭の使用は効き目が充分すぎるほどで豹変すると言ってもいいくらいだが、その代わりあわてふためく傾向にある。そこまでいかないまでも、ボルテージは今よりもっと上げるべきだろう。

速歩の反撞が高いから、伝統的(?)に馬場の苦手な北大としては乗りづらいに違いないが、素質としては磨けば磨くだけの見るべきものを具えていると思う。それを引き出す技術を持っていない自分が情けないが、こちらの方面にも力を注ぐべきだろう。障害馬としてよりは寧ろ総合馬向きかもしれないと思っている。

去年競馬場から大量に砂を頂いた時に埋めてしまったけれど、大乾燥があった時分にこれにさんざん

てこずる馬が何頭かいた。乗り始めて半年にもならなかったかチャフルに乗っていると、乾壕で他の馬が止まる度にそちらの方に気をとられているのがよくわかった。ビクつく時もあったし。何か嫌な物なんだなと学習していたに違いないと思う。経験の差というと偉そうな言い方になるのかもしれないが、それはこういう時にもできるもので、学生だとまず間違いなく自分の馬も飛ばせておかなければという不安に駆られて失敗する。個体差はあるにしても今のチャフルを見ればわかるように、とりたてて乾壕だの水壕だのの特訓をしてなくても、馬に自信がつき力も具わってくればそんなもの何でもない。酪農の大乾壕でもとまったりしないのだから、場所に左右されるのではないのがわかる。と同時に、学習した影響も残っているのか、過去に自らが失敗して怖い目にあったわけでもないのに乾壕を飛ばす時は必ず少し覗き込む。これは他の馬がてこずる時やっていたのとオーバーラップする。普段うっかりしてて気がつかないだけで、馬同士もまた様々に影響し合っているのだという点については心せねばならない。

これ以降は色々な雑感・愚痴の類を書き連ねてみる。北駿の調教報告といいながら不謹慎かもしれないけど勘弁してほしい。

騎手の技量や馬の能力・潔癖性の差に影響されるのは勿論だが、例えば障害飛越についていえばその時々によって過失を犯し易かったりそうでなかったりする。コンディションの違いはあるにしても、障害に対する騎手の集中力の差が結果につながるのだと思う。このところ北星乗クのカリスタヒーローと共に大小の競技会に参加している。潔癖性があるから落下に関しては信頼できる馬なのだがそれでも経路中でポイントを思わせるような例えばショートストライドの連続障害などではなく、ごくごく何でもない障害——さして高くない単一障害だとかジャンプオフでの第一障害だとか——でポロリと落とすケースが目立つ。踏切を著しく誤ったわけでもなければ随伴しそこなったわけでもないのに、と首をかじげざるを得ない。競技経験を重ねるにつれて潔癖性が薄れてきているのもあるには違いないが、その他に思い当たるとすればその障害に対する僕自身の集中力の少なさぐらい。経路の途中の低い単一だと集中力が低下するしジャンプオフに残っても速く帰ってこなければならぬとなると障害に対する尊重心が片隅に追いやられてしまう、という訳だ。どちらも悪いことには違いないのだが、1つでも落下したら負けという競技会に出るようになると、スピードと確実性との両立は新たなプレッシャーになりつつある。それはともかく、ノエルなどが練習は勿論試合でも、やたらポロポロ落下するのはちょっと信じられない気がする。ひどい時には全体の半分近く落としたりするのだから、いくら潔癖性に欠けるとはいえあまりにもひどすぎる。乗り方の問題に尽きると思う。随伴が悪い上に障害を尊重するような練習をしていない。いくらなんでも落とたくて飛んでるわけじゃあるまいし、乗り方によっては落下は半分以下に減らせると思われる。それにはやはり騎手の集中力が欠かせない。これこそが試合でも練習でも1つ1つの障害を大切に、といわれるゆえんなのだなと最近になってやっとわかったような次第。

北大に於けるイタリー式全盛期（僕はその後に入ったが）に比べると、例えば障害では絶対に馬の口を引っ張ったり動きを邪魔したりしてはいけないとか、背を良く使わせるというような事柄に対して、考えが非常にルーズになってきている。障害を気持ち良く飛ばせる大前提でしかも初歩的な約束事の筈なのに誰もほとんど念頭においていない。下級生はもちろん上級生までも馬の口を引っ張っても随伴が

遅れても照れ隠しするぐらいで平気である。当然のことながら馬の動きに対する感覚も鈍い。どうしてもっと馬の自由な動き（バスキュールに於ける）を尊重し保障してやらないのか。遅れると思ったらなぜ最低限タテガミを握るくらいの事をしないのか。繰り返すが、アプローチとか距離を読むのをどうこうする以前の大原則なのだ。引っ張ったって背を使わなくたって飛ぶだろうにというのはごまかしであって言い訳にならない。チャフルに乗る下級生には必ず徹底させ、混乱しないように幾つもの要求をしないようにしているがそれでも時々忘れる。障害練習をするのに何もあわてる事はない。準備も整わないのに無理して向かって悪い飛越をするくらいなら、巻き乗りをして態勢を立て直せばいい。準備の遅れは責められてもそれで向かわないのは悪い事じゃない。下級生の頃から1回1回良い飛越をするように心掛けなければいけない。その点、上級生になればなるほど原則をなおざりにしていないか。言い過ぎかもしれないので気がひけるのだけれども、今度の最上級生は果たして、上手く乗ろうとかより良く乗ろうという確固たる意欲があるのかどうか些か疑問に感じる時がある。追いつめられた気持ちがあるのだとしたらそれはそれで理解できる。それにしてもだ。毎朝の練習で何回に1回というような頻度でビタビタ止まれるのを繰り返して、何れ良い結果が生まれるとも思っているのかどうか。展望が開けないのは本人もわかっている筈だが。例え練習中でも、止まれでもしたらそれこそガーンと打ちのめされて、一日中暗澹たる気持ちで過ごすのが僕の世代の心情だったし弱さでもあった事からすると、いまの現役は楽天的で打たれ強いのかもしれないが繊細さに欠けるように見える。止まるのが日常的であるというのは、それだけレベルダウンしているという意地悪(?)な見方もできるが。

それはともかく、互いが感情を持つ者同士なのだから、毎日毎日の気持ちの良し悪しやすれ違いのあるなしの積み重ねりこそが短期間ではどうしようもない信頼関係の基盤をなし、良い方向にも悪い方向にも向かいうるわけで、だからこそ毎朝の練習では期待通りにいなくても、僕の場合は必ず互いができるだけ気持ち良く終われるように心掛けている。展望が開けないとわかっているのに、いつまでたっても自分自身ちっとも進歩の手応えが感じられないのに同じ事を繰り返すというのは、手に負えないしこりを日に日に大きくしているのだとは言えまいか。馬から不信感をつきつけられたのなら仕方がない。自信を回復できる段階までレベルダウンするしかない。ただ単に障害を低くするだけでは再度高くした時にまた止まるに決まっているから、場合によってはシバく必要もあろうし、冷却期間において辛抱強く待たねばならない時だってあるかもしれない。その場その場の状況判断、飛ぶ気になっているか、信頼を回復しつつあるかどうかというのは感覚の問題だから、端で見ている者としてはそれを理解させるのに何と助言していいものか非常に難しいけれども、初めは山勘で当てずっぽうかもしれないけど自分なりに判断と失敗を繰り返すうち、次第々々に確かな手応えが感じられるようになってくる筈だ。

僕の場合、不信感を持たれないようにする為にもそれこそ時代劇並みに物事の白黒をはっきりさせるように心掛けている。必要とあればシバき倒しもする代わりに、上手くいったら必ずほめてやる。こちらの価値観を理解しやすいよう態度は明確に、そして状況判断は素早く。あの手この手で馬をこちらのペースに巻き込んでいく。

実際に馬に乗らなくとも、また出来る出来ないに拘らず感覚は常に磨かなければならないと思っているんだけど、中でも競技観戦はそのいい機会で各人馬毎に結果の確認に終始するのではなく、そのコンビの雰囲気や走行のリズム、アプローチから障害1つ1つの過失を予想するのはなかなか楽しい。

大障害で難度の高いコンビネーションなどはとてもスリルがある。一流の人馬がどのようにアプローチし飛び込み方や踏み切り、バランスバックのタイミングを見ながら予想してみる。ほんの僅かな踏切の違い、或いはタイミングの狂いで落下につながったりするのだから、見ている分には非常に楽しい。そうして自分なりに理想的な経路走行へのイメージをふくらませる。実際に競技に臨む際に漠然としたものであるにしろ、こういったイメージを思い浮かべられるか否かは結果をも左右すると思う。試合でも練習でも行き当たりばったりに障害を飛ばせる事だけに労力を費やすのではなく、より過失の少ない内容的に納得のいく経路走行を目指すのでないと、いまだき取り残されてしまう。馬術も進化している証拠なのだろうけど、近年の障害馬術は難しい。道内や北日学のレベルが低下しているから学生はそれほど身につまされていないのかもしれないけれど、15年ほど前だったら、ゴールを切れれば予選を通るだとか満点だったらまず間違いなく入賞だったのが、そんな時代ではなくなった。全国規模の競技会ともなると、中障害飛越競技といえば外国産馬の競技、競馬あがりなどの馬の為にわざわざ内国産馬障害飛越競技なるものを設けなければならないほどのだから恐れ入る。

学生馬術界も同様で、関東や関西の大学のレベルは人馬共ここ数年で相当アップし、とても太刀打ちできなくなっているが、その連中が言うには、総合の野外騎乗には北海道の学生の（乗っている中でいい）馬を使ってみたいと思うそうだ。半ば自分達の馬への気まぐれな愚痴であるにしろ、北海道の馬の野外での素直さは良く見えるらしい。こういう評価は以前からあまり変わっていないとみえる。馬事公苑など競技場あるいは競技会そのものの慣れという点では圧倒的な差があって、彼らは毎週のようにそこで競技に臨み、野外コースの馴致もできるし全日学2回走行の障害経路などは本番以前に2回も3回も走行するのだから、実力以上の開きが既にある。それでも本番となると十分に馴致済みの筈の水の飛び込みなどででこざったりするのだから、普通に考えればどうなっているのか不思議な気がする。彼らは全日本学生と銘打った檜舞台で顔見知りの仲間同士、母校の名誉をかけて関東学生を戦っているみたいなものと言ったら怒られるかな。でも昨年ついに我慢できなくて出かけて行った全日学で目についたのは誰が勝った負けたなんてことじゃなくて学生そのもののOBの熱中ぶりだった。自分を棚に上げるわけではないが、久しぶりに全日学を見たせいもあるのかOBの力の入れようは尋常でないように感じられた。準備馬場では国内の一流の馬術家が直々に指示あるいは騎乗しており、選手はと捜すと目の前で練習障害を直していたりする。どうすると選手が乗れるのは競技場への入場する直前なんて事もある。国体なんかだとよくあるケースだが、学生の競技までそうなっているとは知らなかった。ただでさえ緊張の極にあるのに更にこの異様な雰囲気追い打ちをかけられて、地方の選手達はうろたえるばかりだろうと気の毒になった。わが北大の後輩もそんな中で戦ってきているわけで、僕自身競技選手としては見慣れた光景であっても、1OBとしては後輩達がなんとも可哀想になった。とにかく、中学・高校の頃からの豊富な経験と技術、恵まれた馬や指導陣それに競技環境を持ち、練習量も豊かな彼らと同じ土俵に上らざるを得ない北海道としては、せいぜい相棒たる（殆んどがスペアのいない）馬と良好な関係を結ぶべく、あれこれ工夫をこらす事に頭を使うしかなさそうだ。どんくさいだけの筈の北海道の、殊に畜大の（最近はそうでもないかな？）馬が野外で見違えてしまうのは何故か考える余地がある。

北海道のように時間にしても何にしても種々制約され、刺激にも乏しい条件の下で馬に乗るには調教

もさることながら注意深く粘り強い馴致 —— 即ち馬のメンタルトレーニング —— や細心の馬体管理が欠かせない。技術不足、調教不足を補う意味でも馬を知り仲良くならなければならないと思うのだが、それにしても蹴癖のある新馬を下級生の部班に加えてチャフルなどが蹴られてみたり、構内で曳き手はずして曳き馬(?)中に放馬されたあげく他人に怪我を負わせるなど、余りにも馬に関する常識のない愚かな行動が目につく。後者の例など、曳き手はずして一緒に歩いてみたいという心情、馬からの信頼を期待したくなるのもわからなくはないが、生活圏とはいえない構内でそれをやるなんて非常識も甚だしい。間が抜けているとしかいいようがないし、殊に一般人に怪我を負わせてしまうなんて言語道断。学生のやった事だからと大目に見てくれたのは随分と昔。最も、そういう上級生は毎年のようにいたさうだから、表沙汰にならなただけの事で常識のなさが今に始まったわけではないらしい。新馬の扱い方も下手で幼稚な所が見受けられる。手加減する事を知らない若馬や牡馬なんかだと経験がないとかなり危険な面があるのは確かだが、それにしても上級生でさえも満足に曳き馬で歩かせられないようだ(まあ僕自身1年生の頃、まだキン付きだったドンホッパーに後ろからのしかかられそうになった体験を持ってるとね)。

いったい、新馬に限らず馬の取り扱いが下手になっているのは何故だろうか。一昨昨年(さきおとし)、昨年と帯広での北日本学生を見ていて非常にがっかりした。全日学で大活躍したかつての北日本を知っている者にとって、北海道はそれほどでないにしても東北地区の凋落ぶりは目を覆うばかり。東北の大学には未だに親しみを感じるから、不振を目にするのは残念だし気の毒ではあるけれども、技術以前の基本的な部分、馬そのものとのらえ方や理解が殆んど出来ていないように思われる。全く初心者集団になってしまっている。気合だけでは馬は言う事を聞いてくれないのだが。思うに技術はもちろん馬体管理から何からどんな細かな事でもおろそかにせず、新たな知識と共に後輩に伝えていこうとする努力が足りなかったのではなかろうか。だから僕やSさんのなんとかみために、なくてはならぬ大事な生きた知識までどんどん抜け落ちていったんだと思う。僕がチャフルに関して検温やら何やら口やかましく確認するのは、馬体管理の面からも体調を知る1つの目安として必要だからで、これは僕の世代なら当たり前として受け止めると思う。それが今そうではなくて、平気で何日も検温せずチーフさえ確認しなかつたりするようになったのは、過去には常識であった筈の馬体管理に対する認識がいつのまにか欠落してしまっていたと言えないか。直感で体調を判断するだけで勘が鈍い上に、客観的かつ有効な手段までなおざりにしているようでは、馬体管理などいい加減なものだと言われて仕方がないのではなかろうか。そもそもいつから馬休となる月曜日の朝の検温をしなくなったのだろうか。ただでさえ人がいない上にまる一日体調変化に気付かない可能性が大きくなるのに。

僕自身ももっと上のレベルの人に教えてもらう時、知らない事柄はもちろん、当然と思ってやっていた事でもその間違いや矛盾を指摘されて面食らう場合がある。今年は特にそういう機会が多いから、しょっちゅう怒られているとさえいえる。上級者から見れば、僕はそれだけのほほんと馬に接しているように思えるのだろう。同じ事が僕と学生との間にも言えると思う。

話は変わるが、試合が近づくと北大では経路回りを行う。予行演習の色合いが強いが、その割には表旗を立てない、下見をしない、直前までそれらの障害を使ってさんざん練習する、逆に準備馬場(三角地)には練習障害も置かなければ準備運動さえしないで馬を突っ立たせたまま等々手抜きばかりで、

それらしいといえば入退場時の敬礼とベルを鳴らすぐらい。形式化してしまっているから、三反抗したらベルを鳴らしてわざわざ馬に失権、即ち開放を教えるという間の抜けた事を最近までやっていたりする。あくまでも予行演習であるなら、三反抗のベルは別にして全て試合と同じスタイルでやるべきで、そうでない現在のままではあまり意味がないと思う。それと経路回りは満点ですんなり戻ってくる事が目的なのかどうか。もちろんそうありがたいが、それだけではないだろう。反抗やら問題が起きないに越した事はないし、殊に新馬は素直に育ててもらいたいものだが、だからといって反抗を生じないようにと余りにもレベルを下げすぎてもしょうがない。技術的に難の多い者が乗るのだから、止まられた云々を問題にするよりも経路回りなどを通じて、そのコンビがどうやってすれ違いを克服し自信を獲得するかが課題ではなかろうか。コンビがうまくいくかどうかは、拳の硬さやバランスの良し悪し以上に、様々な局面で自信につながる何かを身につけられるか否かにかかっていると思う。物見しそうな障害に出くわしたり踏み切りを誤ったりした時、馬が勇気をふるってくれるかどうかは人への信頼感にかかっている。僕自身がそうだったけど、北大のように素人のコンビは波に乗ると強い。人も馬も不安で仕方がなかったのが、ままと踏み切った後、“いやぁやったなぁ”という思いは絶対馬に伝わる。水野さんあたりにはそんな馬術とちゃう、なんていわれそうだし確かにその通りだが、でも素人集団の北大にはこれも大切にしてほしい。

余談（といってもこの原稿はほとんど余談みたいなものだが）になるが、在札OBなどで最近現役とのコンパに同席された方はお気づきと思うが、打ち上げに歌う「都ぞ弥生」の歌い方がなんととも奇妙だ。

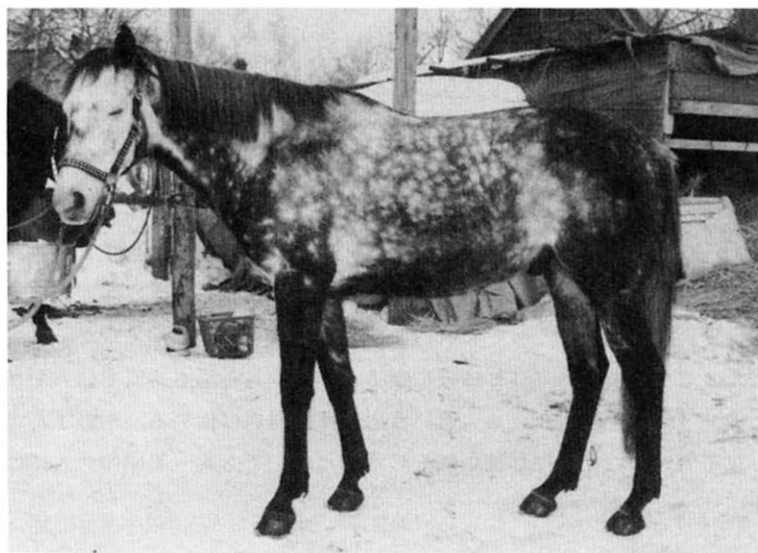
へみやこそやよいのくもむらさきにィ ~~~~~

はなのかただよう うたげのむしろ ~~~~~

という具合。もともと歌詞をゆっくり歌うものとはいえ、最後の語尾だけを息の続く限り伸ばすのはおかしいと言うと現役は、時代と共に歌い方も変わるもので、そんな事を言うのは頭が硬いと反論する。硬いもくそもあるもんか。たまたま誰か無知な奴が始めた歌い方を、そういうもんだと思い込んで歌っているだけの事で、アレンジされたものでも何でもない。恵廻寮がなくなったあたりからみられるようになった傾向で、体育会の連中がみんな同じ歌い方をしているのは無気味ですらある。寮歌では難しかったり微妙な節回しの所では時々世代間で食い違う事はまああるが、これはそんなレベルではない。アレンジして歌うというのならまだしも、これがまともだと思い込んでいるわけで、曲の持つリズムをまるっきりブチ壊しているのだから、音楽的センスがないとしかいいようがない。いっぺんOB総出の結婚式にでも出てみればいい。世代に関係なくノーマルな歌い方をしているから。

こんな人が調教報告だとはとても言えませんし、初めに書きました通り、遅れたのはひとえにわたくしめのせいにごさいます。平に御容赦を。高村、佐藤、ごめんね。

北 瑛 号



騙 サラ 芦毛
昭和55年4月18日生
北海道勇別郡鶴川町産
父 トレントム
母 ホクエイフブキ
競走名 ニューギャロップ

北瑛号調教報告

半 澤 道 郎

部報NO. 33に北瑛の調教経過を書いてから半年以上経過しました。編集担当の部員から、その後の経過の報告を部報に載せるようにという事で、数枚の原稿用紙を頂いた。疾うに締切日が過ぎて矢の催促を受けて大変御迷惑をかけてしまった。調教日誌をつけていないので正確な経過を書くことができないので甚だ申し訳がないのですが、漠然と書いてみます。北瑛の将来の成長のために少しでもお役に立てれば望外の喜びです。

自分の体調で寒い間休んで、その間主に湯浅さんが乗ってくれ、偶に陣川君が乗ってくれたので、3月になって乗り始めた時に、心配したほど調教が崩れないで、それまでに実施した運動は覚えていてくれたので一安心。以来少なくとも学生賞典の馬場を踏めることを目標に再調教を開始しました。また障害飛越の方は私はCavaletti 通過と極低い単一横木位で、湯浅君が主に低い単一や程度の低いcombinationを実施した。未だ本当の飛越態勢ではないので、長屋君に調教をお願いしたいが、彼も時間の余裕が無く未だ乗って貰えない始末です。

さて4月以降多数の新入部員が入部したので、扶助を知らない初心者にも乗せることになり、自分で馬装をして、自分で曳き出し、準備運動をしてから部員に渡し、部員の練習が済んでから、私が乗って調教するのが本来望まれるのですが、私も怠け、少しでも部員の乗る時間を多くするために、馬装も準備運動も部員任せにし、6時頃から馬場に出る様になりました。扶助も知らない初心者が入れ替わり4

人も乗った後に乗って、先ず馬銜（はみ）受けを直すのに10～15分かかり、それから計画した運動に入る有様で、実際に調教（練習）する時間は15～20分、他の馬の練習が終わってから時間を延長して乗るのは、馬の心理状態には余り良いことでは無いと考えて、なるべくしない様にする有様で、これでは本当の調教はできないので、なかなか進歩しないのが現状です。

馬体の状態は、最近目立って白い毛が多くなり、芦毛馬らしくなりました。飼料を特別注意して貰っていますが蹄癬のために肥れないで、余り逞ましい筋肉が付きません。それでも頸や肩の上前方や腰や背中の後部に少し筋肉がついたようで大分乗馬らしくなりました。然し未だに鞍傷が心配なので鞍下にパットを入れる始末です。蹄は入厩当時外側と内側の長さが違っていたのが、蹄鉄師の太田さんの御蔭で同じ長さになり、鉄の減り具合も左右平等になって歩様も改善された様に思われます。また太田さんも吃驚されたのは蹄が一廻り大きくなったことで、競走馬の運動と馬場運動では蹄に与える力がかなり違う証拠であるように思われます。最近足踏みかけをして蹄球や蹄踵を傷つけることが前よりも少なくなった。肢は比較的故障が少なく、前肢に肢巻を装着して保護しているだけで余り気を使わないで済んでいる。馬房の中、パドックの中、飼付け、装鞍の時には特に問題はないが、手入れの時に未だ前後に動くのが直らない位で、これも扱う者が常に注意して直すようにすれば動かなくなると思う。

さて馬場運動の進歩であるが前述の様な事情で月日が経った割にはサッパリ進んでいない。不充分、不完全乍ら、どうか出来るものを並べてみます。

乗馬。乗馬する時に馬を動かさないこと。部員諸君はほとんど飛び乗りをして、正規の乗馬を余りやらない。（正しい乗馬方法を別に書くことにする。）*）身体が重く腕の力が弱い女子部員が何回もブラ下がっては止め、同じことを何遍も繰り返し、もがき乍ら乗る様は誠に無様で、馬のためにもよろしくない。それでも正規の足を鍔板にかけて乗馬をして、馬が動き廻るよりも、前に人を立て、動かさないで乗れば、その方が良いかも知れない。無理に飽くまで自力で飛び乗りをするより、手伝って貰って、または台を使って乗る方が良いと思う。乗馬中及び乗馬してから、鍔の長さを直したり、腹帯をしめたり、その他何かをしても、前進の扶助を使うまでは絶対に馬を動かさない様に教えることが大切である。折角その様に教えているのに乗って直ぐ馬が勝手に動き出すのに全然注意を払わない初心者があるので指導が大切。（事故防止の為にも必要。）

発進。停止から各種歩様（常歩、速歩、駆歩。夫々尋常、短縮等の歩度）への発進は大体可能。

半停止。最も重要な調教課目であるHalf-Halt はほとんど覚えて、種々の態勢でやれる様になった。部員諸君は半停止の扶助を馬を前進させる扶助と同時に習得するように心がけるべきで、それには半停止の扶助を知っている馬から自習自得の方が早途であると思う。半停止については、F. E. I. の馬場馬術競技会規程第408条を参照、又部報第30号に載せた小生の拙文を参考に勉強して欲しい。

歩度。通常姿勢での三種歩様で、短縮、尋常、中間、伸長は大体出来るが、十分後軀の踏み込んだ収縮歩様、完全に落ち着いた駆歩運動、落ち着いた美しい伸長歩様等をもっと練習する必要がある。

各種歩様、歩度の変換、大体スムーズにやれるが、絶対に中間歩様、中間歩度を入れない正確な転換は時と場合によってなかなか難しい。これ等をもっと練習を重ねる必要がある。

全停止。各種歩様から直接完全な停止をすることは誠に難しい。強めに半停止の扶助で中間の歩様を取らないで、二、三歩歩度を詰めて停止することになると思うが、只単に停まるのではなく、四肢を揃

え、かつ前進気勢をもって、後肢を踏み込んだ馬場馬の停止をさせる（自分で揃える様になる）のは調教者の伎倆によるところが大きいと思う。常歩から完全な停止が偶にうまくできる程度でまだ不完全である。

横歩及び二蹄跡運動。常歩、速歩では不完全ながらできるが、駆歩については未だ始めて間も無く落ち着いた歩様でやる状態には至っていない。この課題もこれから充分に練習する心算です。

後退及びSchaukl。割に用意に実施可能になった。部員諸君は後退する時に絶対に手綱を後ろにひっぱらない様に注意をして欲しい。この扶助と方法については別稿に記します。*

駆歩の踏歩変換。8字乗りや半巻乗りでのSimple change はできるがFlying change が未だうまく出来ない現状です。もう少しのところまで来ていて、村上捷治君に乗って貰った時に出来たので、やはり自分の伎倆の不足で猛反省をしているところです。

手綱を伸ばした運動。完全に手綱を伸ばし、銜を外した状態での尋常歩度の常歩、速歩、駆歩、及びCavaletti 通過は落ち着いて自由にやれるようになった。

銜を受けての馬体のStretching。上の運動は銜を外した状態ですが、銜を受けた状態で、前軀、頸を伸ばし、馬の鼻先が前肢の前脚の辺りまで下げて歩く、馬体の伸長（馬背も丸く伸ばされた形）をさせる運動をAnthony Crossley著”Dressage, the Seat, Aids and Exercises”を読んで始めたところで雪が降り、地面が悪いので中絶中です。大きい輪乗りで速歩でやる方が良さそうです。（方法は別記*）大体以上のように、前号に書いた目標の高級課題にはなかなか到達しません。なほ大鞆銜をかける練習も必要と思いつら、北瑛の口が小さいので合った大鞆が手に入らないので実験していません。

* 本号には記載してありません。何れ後日寄稿する予定です。

人・馬・われら仲間

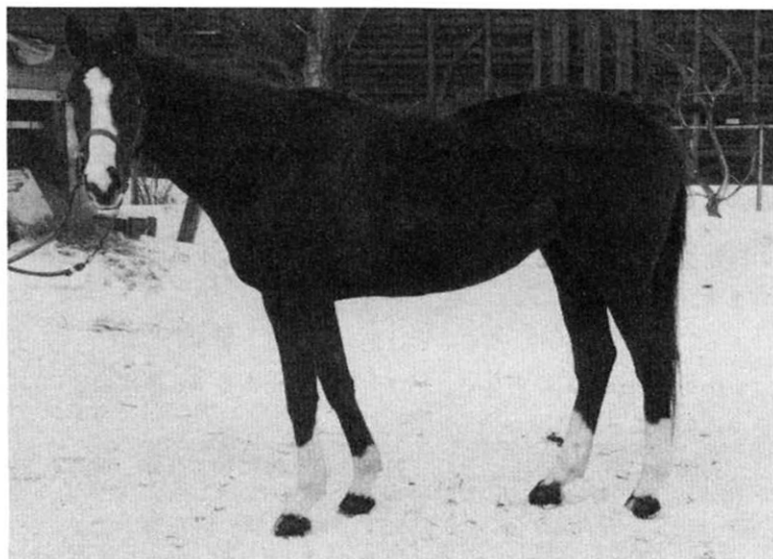


北星乗馬クラブ

〒061-22 札幌市南区白川1814番地 3

TEL (011) 696-2407

北 楡 号



騙 サラ 栗毛
昭和58年6月16日生
沙流郡門別町産
父 グレートセイカン
母 ミスポット
競走名 ポットチャンプ

北楡号調教報告

金 田 克 己

調教報告を書かねば、と思いたってから随分長い月日がたってしまいました。騎乗日誌などを読み始めるとつい時間を忘れ、自分の世界に入り込んでしまうのがひとつ。そして、ちゃんとまとめて書こうなどという自惚れが原因でした。頭の中のイメージどおり文章が書けることさえ稀なのに、整理されてもないものをキチンとした文にするという方が無理なのです。結局開き直って、つらつらと思いつくままに書いてしまいました。分かりにくいところが多分にあるでしょうが、悪しからずお許しを。

引き継ぎに時間がかかり、今年3月初めまで騎乗していましたが、一応全日学前後まで調教を担当したものと以下書いていきます。

北楡号は1987年7月に入厩した新馬です。肢の様子を見たり、去勢をしたりで10月の半ば頃から様子み程度の騎乗、調馬索運動を始め、馬配が正式に決定した12月から計画的な運動に入りました。12月、騎乗日誌の最初に次のような事が書いてあります。

「馬体的には大きな問題は見あたらないが、体が全体的に薄くいかに頼りなげである。右前肢の骨瘤に熱をもっていて気を使ったが、太田さんに蹄と鉄の間をすかして頂き、特に気にならない程度になった。そののち今日まで骨瘤に変化はない。また、管などで、特に熱を持ち易い、というところは見あたらない。むしろ丈夫な方だと思う。

正確は悪くはない。興奮しにくくえてして素直で、見慣れないものでも恐さより好奇心が先立つみた

いな所があるようだ。前方から走ってくる車は苦手で、除雪車など最も嫌いなものの1つだったのだが、ある時外乗で止まってはいるがエンジンはかかっている除雪車の横を何気なく通り過ぎようと思ったところ、わざわざ臭いを嗅ぎに知覚まで行ったことがある。一步近づく度に鼓動が大きくなるほど恐いせに、結局鼻づらが着くまで位まで行ってしまった。除雪車が突然動き出ししたりしたら大変なので無理やり連れて帰ってきたが、これなど恐いものみたさの典型だろう。牛とか羊などに対してもこんな感じだった。ノエルの乳など吸ったりするのを見るとただ精神年齢が低いだけなのかも知れないが、総合馬として好ましい気質である気がする。」

”ノエルの・・・知れないが、”は余分ですが、大筋において今もこの印象は変わっていません。また、目標として、新人新馬程度の経路を帰ってこれること、3級馬場の課目をこなせることをあげています。また次のようにも書いています。

「目標が達成出来るかどうかはまるで自信がないが、次のことは絶対やろうと思う。

- ・しつけをきちんとすること —— 指示があるまで動かない、足はそろえて止まるなど直接競技に関わることと、当たり前だが悪癖をつけないこと。

- ・できるだけ馴致にいくこと —— 馬運車に馴らすこと、そして競技に使う様になる前に、馬運車で違う場所に行っても恐くないんだ、ということを刻み込むこと。」

結論から言えば、目標に関しては、山下杯では失権し、後退は出来ない、横運動は満足に出来ないといった具合で終わってしまいました。しかし、後に書いた2つの事はみんなの協力があって結構うまくいったと思います。札幌周辺の乗馬クラブや、海岸には事あるごとに馬運車で連れて行き、生来の性格も手伝って、最後の方では新馬らしからぬ落ち着きさえ感じさせるようになりました。また、試合で馬運車に空きがあるときは必ず連れて行ってもらい、大きな試合の雰囲気にも馴れることが出来ました。馴致は人間と馬の精神的な結び付きにも好影響を与えた気がします。しつけに関しては細心の注意を払ったつもりです。特に人間に危害を加える悪癖は人間にとって不幸なばかりか、馬にとって最大の不幸であり、そうなるのは完全に人間が悪いのであって、またそうなってしまってからそれを直すのは難しいものです。今はそういう馬がないから逆に不安なのですが、現役の皆さんは、馬がおとなしいのいいことに、扱いがいい加減になっていないか馬の立場にたってもう一度考えてみて下さい。飼付け前にだらだら手入れをしたりすれば、たいていの馬はいらつくだろう。飼付け中に周りでがさがさすれば、神経の細かい馬はまいってしまうだろう。装鞍やブラシがけなど特別敏感な馬でなくとも無造作であれば耐えきれないだろう。当たり前の事がいつも簡単であるとは限らない。常に自問自答する必要があると思います。特にこれから、新入生が入ってきたりすると、ただでさえ馬はいらいらするものです。北楡についても悪い噂を聞きますが、手遅れにならぬうちに部全体で今一度考えて下さい。

もう一つ、どうやったら出来るかはわからなかったが、いつも気に留めていたことに次の事がありました。

- ・丈夫な馬体にする —— 練習はもちろん耐久競技に普通に耐えうる馬体であること。

どんなにいい馬でも馬体が丈夫でなかったらエース馬になれないであろう、と考えてのことです。怪我などに対する抵抗力、スタミナの増強、そして脚腰が丈夫であることなどを思い付きましたが、スタミナに関しては、伸ばした駆歩をあまりやりたくなかった関係で方法がみつからなかったし、他の二つ

に至っては、どうやったらいいのかさえ分からないまま終わってしまいました。外乗で浅い雪の中を走らせたり、北大富士のなだらかな坂を常歩で登り下りすることを毎日少しずつやったりしましたが、効果のほどはわかりません。

全体的には自分の性格を考えて、絶対無理をしないこと——時間を決めて、それ以上はやらないようにし、内容も飛躍がないようにする——に気を付けました。しかし、それでも馬が嫌になる前にやめることは難しく、しばしば予定を変更して外乗に気晴らしに行くことがよくありました。出来る限り運動を細切れにして飽きさせない、等の工夫と忍耐が特に新馬には必要だと痛切しました。

以下、毎日の運動を思い出す限り羅列していくことにします。

・調馬索運動について

障害馬術をはじめ、たいていの本には、まず調馬索、とでています。北楡の場合も最初の数ヶ月は殆ど調馬索運動のみでした。これは本に書いてあったからというよりも、それしかできなかったと言う方がむしろ正しいでしょう。人間の方に新馬にいきなり乗って調教できるような自信がなかったのと、何より馬の筋肉が落ちてしまっていて、人が乗っただけで背中が反ってしまい、とても運動どころの話ではなかったからです。調馬索運動では、シャンボンの使用を含め、内容のほとんどを障害馬術に依りました。苦勞した点、失敗した点のみ挙げることにします。

速歩→常歩、駆歩→速歩の減却の指示をうまく教えられなかった。障害馬術のやり方(P. 101)を馬場のコーナーを使ってやったが、どうしても理解させることが出来なかった。結局、乱暴にも思えたが、調馬索を頭の上に通してまわし、減却の号令と共に銜を口に当てることに依って覚えさせた。3日間ぐらいで覚えたと思う。円馬場があれば障害馬術のやり方で出来たのかも知れない。

シャンボンを短くするのが急だったのだろうか、うなじをカクッと折って運動するようになってしまったことがある。これだと首から背中を通して後肢に至る筋肉と力の作用は得られない。これにはすぐ気が付いて、シャンボンを元の長さに戻したが、手遅れで癖になってしまった。騎乗していても気を抜くとでてしまい、悪循環でしばらく直らなかつた。今から考えてみると、短く過ぎたことより、追いつけなかつたのが原因ではないかと思う。

最後に、もっとじっくりと筋肉作りに専念した方がよかつたのではないか、ということがあります。しかし、これは下級生を乗せなくてはならなかつたのでいたしかたなかつた、という気がします。

調馬索は一見手軽に見え、また、一応馬はまわるものです。だけど推進が足りなければいくらやっても無駄、という点では騎乗した時と一緒にだと思えます。特にシャンボンを併用した場合、気を付けなくては逆効果になる恐れもあるということです。

・自由飛越について

良さそうなものはみんな試してやろうということで、三角地の積雪を利用してトラックをつくり自由飛越を試みました。2月の下旬から3月の中旬にかけてのことです。トラックは学生部から除雪機を借りてきて、延べ4日ぐらいで出来ました。自由飛越は、人の立つ位置などに工夫がいろいろありますが、思ったよりうまくいきました。最初は一周する毎に餌をあげていたのですが、あまり意味がなかつたようです。かえって障害よりも、その後ろに立っている餌をもっている人の方に気を取られてしまうようでした。惜しむらくは、馬も慣れてきて、人間の方もやってどういふものが分かつた頃に春になってしまっ

たのです。トレーニングにはならなかったかも知れないけど、障害の馴致には少なくともなったと思います。群衆の本能を利用して、数頭でやったらもっと最初からうまくいったかも知れません。こんなに簡単なら新馬に限らず、障害にこだわりをもってしまった馬などにもどんどん試みればよかった、というのが印象でした。

・キャバレッティ、コンビネーションについて

キャバレッティは勿論、コンビネーションについても早くからどんどんやりました。入厩した当初、曳き運動でキャバレッティのバーをはじから踏んで平然としているのを見たときに受けた衝撃が尾を引いていたこともあり、障害に馴らさなければと思ったのも確かですが、少なくとも5月頃まではおもに筋肉トレーニングのつもりでやったのです。北楡の場合、キャバレッティバー＋一問歩の障害2つ（P. 202、図344）が一つの山だったようでここで一ヶ月ぐらいかけました。

調馬索同様、左右の偏りが気がかりでしたが（前肢を左側にひねって飛越し、障害間で左によれることが多かった。）、気にせずに行っていたら、調馬索での偏りがなくなった頃と前後して、いつの間にか気にならないようになっていました。

一度調子に乗って下級生にコンビネーションをやらせて、随伴が遅れ、2回目に逃避したことがありました。これはうかつでした。少なくとも1回目で嫌な思いをさせたのだったら、2回目は乗り変わるべきだったのです。この後人馬ともにこだわりなくすのに2週間はかかりました。やっていけない失敗の一つでしょう。

いわゆる障害飛越の訓練は、今年の秋以降少し試みましたが殆ど成果が上がりませんでした。これはひとえに人間の技量不足の為です。踏み切りはばらばら、飛越後は体が延びきってしまう等、まだ新馬の域を脱していないと思って下さい。


・試合

10月の初め頃、今の3年目（もう4年目か）にどうしても、と乞われて山下杯のL級に出場しました。例年のレベルを考えどうにかなるだろうと思ったのが、見事にもくろみははずれました。新馬の時に、飛ぶからということでどんどん試合に使い、馬の試合に対する印象が致命的になってしまった馬達がいることは知っていたのに、もう少し慎重になるべきでした。内容は、馴致の成果か性格なのか、特に興奮することなくスタートをきり、前半は特に問題なく回りました。後半に入ってよれたまま体勢が整わないうちに向かったニュー門扉を右へ逃避。最終障害、箱障害の連続のAで体勢を崩して一步はいつてしまってBが飛べず、向かい直した時には馬に前進氣勢がまるでなく、結局3反という結果に終わりました。連続の間で人間が体を起こし、無理やりでも推していたら、等考えればきりが無いのですが、試合であれだけ落ち着いていたということに微かな希望を見いだして、次の人に託すことにします。その後、OB戦でも経路を回る事になりました。経路が簡単だったのと北大の馬場で試合の為、ここでは無難に帰ってくる事ができました。一落は人間の誘導ミスです。

ここまで書いて、まだまだ書いていないことが数多く残っていることに気付き、思わず呆然としてしまいました。多分に要点を外し、木を見て森を見ずの感が否めませんが、お許し下さい。必要な方は、障害馬術を読んで補って下さい。


最後になりましたが、お世話になった、岡田監督をはじめとする数多くの方々に御礼申し上げます。中でも半沢先生にはたびたび騎乗して頂きました。また、長屋さんとチャフルの毎日の姿から学んだ事は、調教の大きな指針となりました。人使いの荒いチーフについてきてくれた歴代サブチーフには感謝の念がつかみません。そして、馬場で障害をつくってくれた下級生に感謝すると共に、改めて、一回の騎乗のなかで次々と障害を変える事が出来ることの重要性を強調しておきます。

しかし、最もいろいろなことを教わったのは、やはり北楡です。また今では、馬術部4年間を考えても北楡の調教に専念していた時期ほど楽しかった時はないという気さえしています。北楡の未来の活躍を願ってやみません。



1987年"Spoga" (西独) 乗馬部門
「インターナショナル・ベスト
プロダクト」全賞受賞

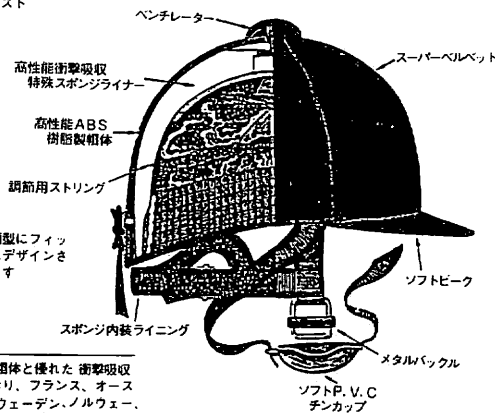
ウエンブレワールドキャップ



Wembley
THE WORLD APPROVED SAFETY CAP

価格 ¥16,000

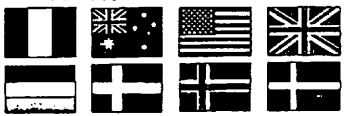
・日本人の頭型にフィットする様にデザインされております



「確かさの証明」

世界に駆ける…ウエンブレ


WEMBLEY WORLD CAP は高性能ABS 樹脂帽体と優れた 衝撃吸収機能を持つ特殊スポンジライナーを使用しており、フランス、オーストラリア、アメリカ、イギリス、西ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、すべての安全基準テストに合格した、世界唯一のライディングキャップです。



国内総販売元

カバロ株式会社

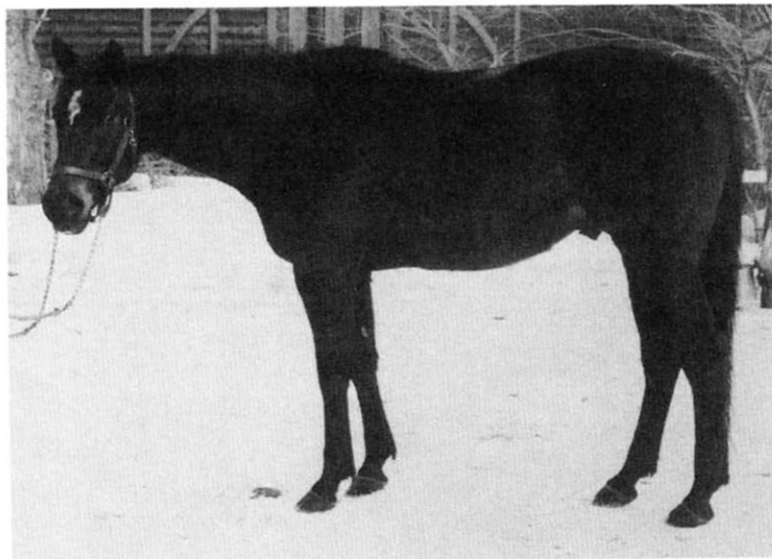
カバロ神戸 神戸市中央区磯上通 6 丁目 1-17 〒651
 ウエンブレビル1F TEL (078) 251-6620/F
 カバロ大阪 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号 〒530
 大阪駅前第2ビル 2F TEL (06) 344-0070
 カバロ東京 東京都世田谷区上用賀2丁目3-1 106 〒158
 パシフィック馬事公苑前 TEL (03) 425-8844



CAVALLO

新馬紹介

北熊号

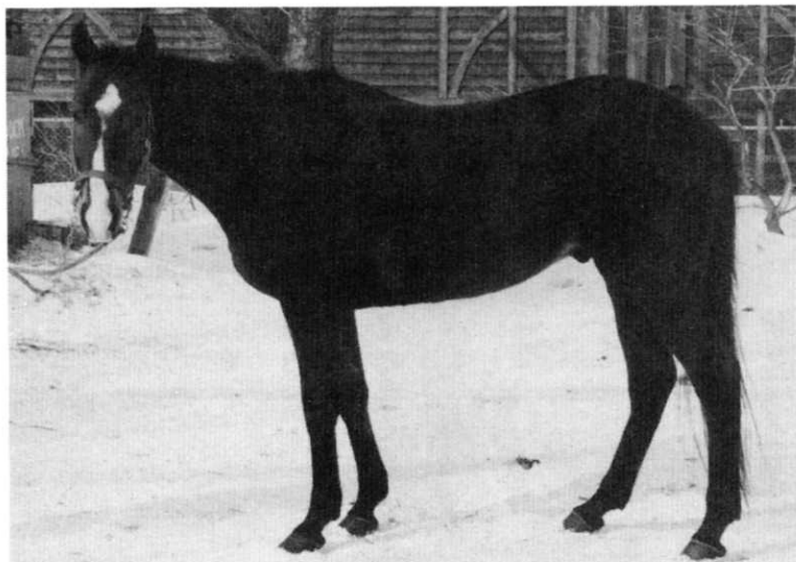


驢 サラ 黒鹿毛
昭和59年4月24日生
北海道新冠郡新冠町
父 ノーアテンション
母 ヤマニンアツコ
競走名
ヤマニンウィザード

岡田光夫

昨年6月中央競馬から下りて北大に入厩、6月下旬去勢、7月上旬から調教開始、現在に至っています。競走名は「ヤマニンウィザード」両前肢の管骨瘤が乗馬になった原因のようです。中央競馬で一勝したと聞いています。色は青毛、みがけばピロードの様に光ると言われていますが冬毛ではそこまで行きません。実は競馬場の小川さんから「今度青の馬が出たが貰わないか」といわれましたが財政上お断わりした所が、暫くして、北大に入ってきました。その縁で今一生懸命乗っています。名前の由来は競走馬時代「クマ」と呼ばれていたというので即座に「北熊」にしようと思案、監督の威光で決めました。皆が何と呼ぶんだというので「ほくゆう」と呼ぶんだ、そら「熊躰」のゆうは熊という字を書くの知らないかと威張ったところが部員諸君の中から「では熊という字を使ったら」という意見が出され、うんそれはよいと簡単に賛成したけれど、実は熊という字は「ひ」と読むので正確には「ほくひ」ですが、初めの通り「ほくゆう」と呼ぶことにしました。どんな馬になるか全く分かりません。鈍くて推進力がなく、それでいて気にくわないと突然ひっかけるのには参ります。お蔭で2度落馬の浮き目に会いました。部員諸君可愛がって下さい。ひぐまは熊の中でも一番強い奴なんですよ。

北 峰 号



騙 サラ 鹿毛
昭和60年5月3日生
青森県十和田市佐々木牧場
父 カツラノハイセイコ
母 サクラパワー
競走名 バトルサクシード

7月末、札幌競馬場から入厩してきました。

競走馬としては、成功がおさめられないだろう、ということが原因だった為、故障もなく北大に入厩することができました。

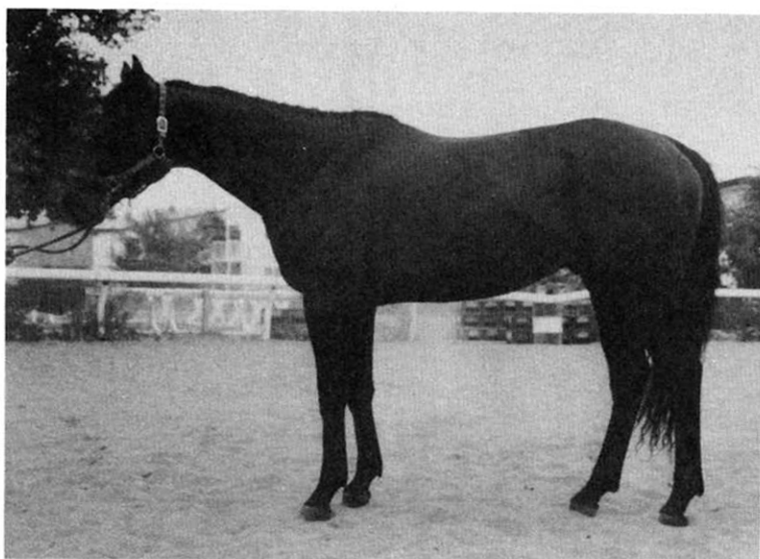
“バトルサクシード”という競走名には似合わない、温和な澄んだ優しい目をした馬です。サクラという愛称でみんなに可愛がられ、親しまれています。

とても頭の良い馬で、くま（北熊）より1ヶ月もおそく入厩したにもかかわらず、ずっとうまくキャバレッティを通過することができたのには驚きでした。しかし、度々、なにに驚いてか暴走することもありましたが・・・。

本当に人なつこく、可愛いどんぐり目でみつめられるとむしょうにいとおしく、鼻面に顔をすりよせてしまうのです。

まだ、4歳という若さのため、少年（というよりは少女かな？）のイメージがつよいサクラ、誰からもあいされるその性格のままです。これから大きく羽ばたいて下さい。

グレンエトワール号



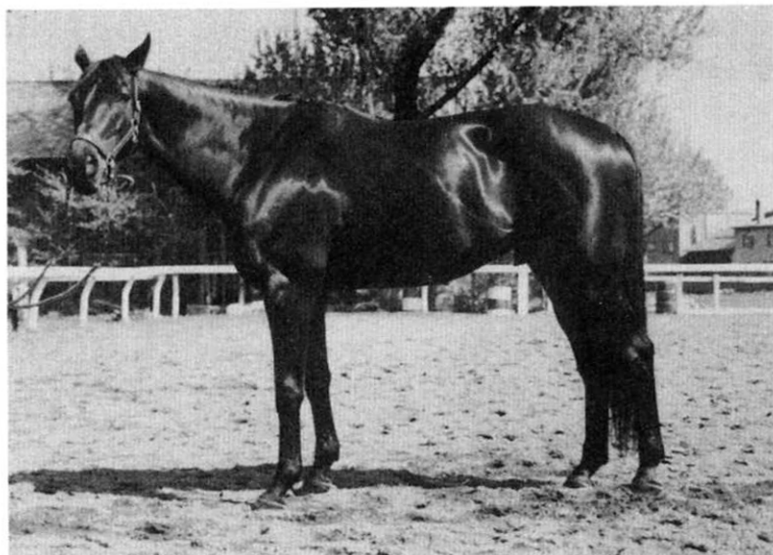
牡 サラ 鹿毛
昭和61年3月26日生
北海道静内郡静内町
父 サクラシンゲキ
母 ホシローズ
競走名 グレンエトワール

OBの水野さん（昭和51年度卒部）の紹介ではるばる栗東から、2月16日に、馬着を何枚も着て雪国、北大へやってきました。

競走馬としては、かなりの素質があると認められて育てられてきた馬でしたが右前膝の手根骨骨折のため競走馬としては引退して、乗馬の世界へ入ってきたわけです。現在患部は骨折した部分が骨膜炎になっており、たぶん完治はしないだろうと言われておりますが、乗馬としての運動に支障がないようなので一安心です。このケガのため6月16日現在でも去勢しておりませんが、たちあがって人にかぶってきたりすること以外はあまり他の騙馬とかわりなくおとなしい様子を呈しております。現在OBの長屋さん（昭和54年度卒部）の調馬索運動及び騎乗をしていただいております。

何にでも好奇心旺盛で目新しいものはなんでも一生懸命見て匂いをかぎます。パドックにいと落ちている木をくわえてふりまわすといったちゃめっけもあります。4才という年齢のせいか素直で悪いことをまだあまり知らない、といった感じの子供のイメージの馬で、あどけないエトワールの瞳をみると心がわくわくしてきます。北大の中で大人になっていくエトワールを見るのが楽しみです。そしてきっと将来北大馬術部のエースとして活躍してくれることでしょう。

パ シ オ ン ・ M 号



騙 サラ 黒鹿毛
昭和56年4月19日生
北海道三石郡三石町産
父 アローエクス・プレス
母 スターブルー
競走名 ダイエクス・ビー

加 藤 ゆ う こ

今年の三月二日、OBの水野さんの御紹介で、はるばる栗東からやって来た。競走馬としての生活は長く、20戦8勝という戦績を残している。競走引退の原因は、有後繫靭帯炎。現在は、ほぼ慢性的経過を経て、乗馬として充分活躍出来る健康状態にある。

彼が競走馬の中でもトップクラスを歩んで来れたのは、力強いバネを持つからだ。速く前へ走る事に使っていたこのバネを、これからは高く上へジャンプすることに使っていかなければならない。障害飛越のセンスはかなり良いので、このバネの力を彼の体の中に凝縮して、いつでも引き出せる様な、肉体的、精神的トレーニングが達成されたなら、確実に全日本で活躍できるレベルとなるだろうと信じている。

精神面は現役の頃と違い、だいぶ落ち着いて（トゲがとれて）、顔付きもかなり温和なものになってきたと、競走馬の頃の彼を知る人は言う。北大へ来てからの数ヶ月の間でも、また更に変わってきた。環境に慣れてくるのは良いのだが、凛々しさがなくなるのは考えものだ。一日中ピリピリしてのんびりする暇がないというのはもちろん良くないと思うが、練習中まで部馬達から覇気を感じないのはおかしい。人間が作り出す環境が馬に与える影響は大きいと言われているから、問題は意外に私達のすぐ近くにあるのだろう。

半沢杯でデビューした時は、こちらの心配をよそに、非常に落ち着いており競走で勝ってきた貫禄を

感じた。そうかと思えば、練習中に応援団の太鼓の音に驚いたり、子供の声にすっ飛んで逃げてみたりする。繊細でありながら、太い神経も持ち合わせている様なので、こういった面を上手く試合で生かせれば、と考えている。

現役の頃に乗っていた北玲は牝馬で小柄な馬だった。女同志で意気投合する面もあり、技量不足は精神面で補ってきた。しかし、今度はかなりの困難が待ち受けている様に思う。

彼は全てにおいて一まわりスケールが違う。謙虚且つ積極的に働きかけて、お互い、better half として向上していければ、未来はそう暗くないと思っている。

SOMÈS
HORSE RIDING EQUIPMENT MANUFACTURE

皮革総合メーカー

競馬、乗馬用品、バック、サイフ、小物、ベルト

ソメスサドル 株式会社

- 本 社 / 〒073-03 北海道歌志内市神威264
☎ (012542)(代)2152 F A X (012542) 6716
- 東京営業所 / 〒111 東京都台東区浅草橋5-12-6明治堂ビル
☎ (03)(代)366-2131 F A X (03) 363-4652

明日 檜 号



騙 ア・ア 栗毛
昭和52年5月23日生
北海道沙流郡平取町
父 フロール
母 ギンチヨウ
競走名 フロールアタロウ

平成元年3月6日、函館競馬場の乗馬センターより変わった名前の馬がやってきた。その名もシケレペ（ペーちゃん）。5月2日に「明日檜」という立派な名前をもらって、日々練習に励んでいる。

気分屋で、びっくり屋で、寂しがり屋で、めずらしがり屋で、がんばり屋。

曳き馬中、何かに驚いた時の本当に心臓が飛び出したようなあの顔。

トコトコ他の馬の後ろについていたり、一頭だけになるとヒヒーンとないしまったり。。。。。

得意はペロペロ。不得意は真っ直ぐじっとしていること。長所は一生懸命。短所は少しかむところ。

気分屋がまじめになった時、この馬の持っている能力はすごいと感じる。馬体の健康に注意して来年は多くの競技に参加して、北大の主戦馬の一人(?)として、ペーのもっている力を全国にとどろかしてくれな。

ドン・ホッパー号特集

昭和49年に入厩して以来、14年間北大馬術部とともに歩み続け数多くの栄光を築きあげてきたドン・ホッパー号を老齢のため、昨年シーズンを最後に引退させることになりました。10月30日、離厩のはこびとなりました。

59年卒部の高須哲男氏のもとにひきとられ御殿場乗馬クラブの預託馬として余生を送ることになりました。富士山のみえる澄んだ空気のなかでまるまる太って元気に暮らしているということです。

我々部員一同、ドンの幸せを願ってやみません。

ドン・ホッパー号特集を組むにあたり、これまでドン・ホッパー号に騎乗してこられた方々に原稿を依頼しましたところ、多数、御寄稿いただきました。お寄せ頂きました原稿をもとにドン・ホッパーの思い出を綴ってみたいと思います。御協力ありがとうございました。

「縦長のドン」の思い出

昭和52年卒部 桑田 壮平

北海道を離れてはや10年以上経ち、北大馬術部での現役生活の頃も懐かしく思われつつある今日この頃ですが、平素の御無沙汰をお許しいただくとともに、若い頃のドン・ホッパーの活躍に関わることができた者として、その思い出など一言お便り申し上げます。

私が一年目の時に小野忠さんに連れて来られた頃のドンは、その様子を見る限りはおよそ駿馬というには程遠い感じであったが、元気だけは馬一倍(?)で、手入れの時など馬房からの出し入れには相当の覚悟が必要であり、乗っかかり防護用ヘルメット(といっても当時は未だ工事用ヘルメットが主流であったと思う。)が必需品であったと記憶している。

私がドンに騎乗したのは、3年目の秋に添田兄より全日学総合競技出場に向けて引き継いでから約一年間程であったが、当時部報に書いた調教報告を読み返して思うに(甚だ気はづかしい文章であるが)どのようにすればドンとうまく折り合いをつけることができるかが日々の課題であり、なんとかその基礎ができたかなと思ったら現役引退という瞬間の一年であった。ドンのような特に障害に対する深癖性という素晴らしい素質をもった馬で競技に臨む場合、最終的にはどれだけ馬を信じているかがその勝敗を分ける訳で、その点、馬術という生き物を扱う特殊なスポーツ競技の醍醐味を、ドンに騎乗することにより短い間ながらも存分に味わわせてもらったというのが今になっての心境である。また、そのためには日常の練習の中で自分なりに課題を考え、扶助に対して従順に反応すればほめてやるという作業の積み重ねが如何に重要であるかを今でも痛切に感じる次第である。

いづれにせよ、現在の部馬で私が現役の時にいた最後の一頭であるドンが離厩することにやはり一抹の寂しさは禁じ得ないが、これも時の流れであり、北隼、スターライトに次ぐ部の看板馬として十年以

上もの長い間にわたって十分な功績を残し、またそのような馬に接することができたことに対して、ドンに心より感謝するとともに、老後はのんびりと暮らして欲しいと願うばかりである。

今年は北大馬術部が各地でなかなかの好成績を収められているようで、誠に喜ばしい限りであります。これに慢心することなく日々努力を積み重ねていかれるよう、現役諸兄の御活躍をお祈りします。

ドン・ホッパーの離厩に際して

昭和54年卒部 中島 孝幸

この優勝した馬はドンと走り方が似ているな、と思いながら、全日学のテレビ放送を一緒に見ていた妻に、僕も十年前にはこのテレビに映ったのだ、と自慢する。ドン・ホッパーという名前は出さなかったけれど、▷それにしても、NHKもいいかげんに上位の馬だけを映すのをやめたらいい。単調でもおもしろくない。それに、満点か一落二落で帰ってくる馬ばかり見せられると、馬術を知らない人は、障害を飛ぶのは簡単なことだと思ってしまう。障害の前でピタリと止まったり、サッと横に逃げたりする馬を見ればこそ、満点で帰る馬の素晴らしさが分かるというものだ。▷ドン・ホッパーに乗った前の年、羊蹄という牝馬で馬事公苑の耐久コースを回り、全部で十回ほどの拒止、水壕への落馬などでガクガクの体でゴールした経験がある。(余力で失権。)次の年にドン・ホッパーで今度は満点でゴールを切った時は、あっけない感じさえたものだった。ただ、ゴールしたときの喜びは、羊蹄のときの方がずっと大きかった。▷羊蹄といえば、北騾を生んだのはたしか冬だった。部室の入口が雪で埋まり、馬房の方から入ってきた同期の三好が、通路に転がり出していた仔馬につまずきそうになったのだった。それにしても、その時はもう去勢されていたドンが父親だと上級生から知らされたときには切れたようで繋がっている過去と現在の関係に不思議な感動を覚えた。▷ドンが離厩するとなると、現役時代を一緒に過ごした馬がもう一頭もいなくなる。しかし、世代の入れ替わりは当然のことなのかもしれない。私自身も十月に子供が生まれ、父親になったぐらいなのだから。(1988. 11. 12.)

昭和56年卒部 高橋 均

もうドンと離れて8年近くになるし、顔も3年以上見ていないので、悲しい事に思い出すのにも苦労するようになってしまった。そんな中で、今でも覚えている事を思い出すままに書いてみたい。

まず試合での事だが、4年目の時の栃木国体成年障害において、2落下位でゴール近くにさしかかったところのトラケーン(乾壕パー)で拒否された。障害前、ドンが減速し始めたので拍車を入れると、完全に止まれず、壕に騎乗したまま落ちてしまった。結構深かったと思うが、その時、ドンが何とも悲しげにいないたのである。子馬が母馬から引き裂かれて、三日間なき続けるようなあのような声で・・・。私は複雑な思いだったが、すぐに下馬し、ドンを地上に引き上げ、乗馬しなおし、再度、障害へむかった。向けながら、もうこの障害は嫌うのではないかと正直思った。果たして、ドンはためらう事な

く飛越した。2年間のドンとのコンビで、恥ずかしいことに何回かの拒否と多くの落下（いずれも自分のミスである）をしたが、この時のドンの素晴らしさに感激するとともに、一層のいななきが印象に残っている。

無事は名馬とよくいわれる。そんなドンも一度、かなり心配させられる怪我をした。私が3年目の冬で、馬場にはもう雪がかなり積もっていた。その為、埒が低くなった状況で、三角地に放牧していたドンが逃げようとしたのだろうか、埒を跨ごうとして完全に跨げなかったのだろうか。前肢と後肢の間、つまり、腹の下に埒がある状態で腹部を圧迫したまま何時間が経過していたのだと思う。外傷はなかったが、腹部に異常が見られた為、後輩たちが交替で1週間位、夜を徹して看病してくれた。チーフとして責任を感じるとともに無事を祈ったが、小池先生や部員達の厚い看護により、事無きを得てほっとしたものだ。

最後に、飼育馬にとってのんびりと余生を送るのが必ずしも理想だとは思えないが、今は御苦労さんとドンにいてやりたい。

昭和60年卒部 森田 敏

この原稿依頼がきて、久しぶりに馬術部時代の写真をひっくり返してみました。ドンとの1年間で撮ってもらった写真は全体の半分近くにもなり、それをめくっているうちに知らぬ間に手に汗を握っていました。

ドンとの一年間は決して楽しいことばかりではなく、むしろつらいことの方が多一年でした。しかし、それだけに4年間の中で最も真剣で、密度の濃い時間でした。

最も強烈な思い出として残っているのは、碧雲クラブで行われた公認大会で3反失権した時のことです。大げさに言えばインスブルックでの黒岩選手のような心境でした。あれから、すでに4年間経ちますがあのときの苦汁、悔しさ、そして、ドンに対して申し訳ないという気持ちは、それ以降の僕の生活のバネになっていると感じられます。

ドンとの思い出の数々は、形としては、すでに風化しつつありますが、いよいよ確かなimpressionとして僕の胸に存在しています。すなわち、（人間で言う人格を馬にあてはめたとき、それを”馬格”というならば）ドンは確固たる偉大な馬格を持った馬であり、永遠に僕の尊敬と親愛の対象であります。

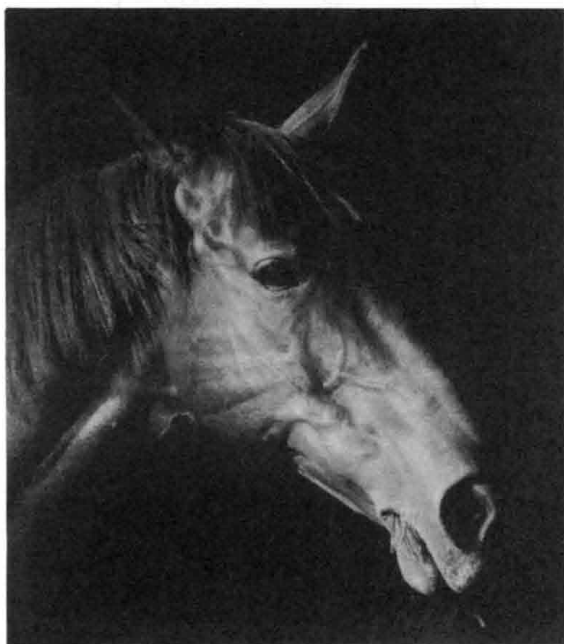
素晴らしい青春の1ページを与えてくれたドンと馬術部に、感謝致します。そして、ドン幸せな余生を送れることを心からお祈りする次第です。

年 月 日		大 会		種 目	順 位	
S. 49.	5. 3	半 沢	杯	中 障	1 位	(小 野)
				バルクール	1 位	(小 野)
	6. 22~23	道 自	馬	小 障	1 位	(小 野)
	8. 24~25	道	体	中 障	8 位	(小 野)
				成 年 障 害	4 位	(小 野)
				選 抜 障 害	2 位	(小 野)
S. 50.	5. 4	半 沢	杯	バルクール	経路違反	(若 松)
				バルクール	4 位	(小 野)
				小 障	1 位	(佐 野)
	6. 21~22	道 自	馬	中 障	1 位	(小 野)
				中 障	2 位	(添 田)
	7. 31~8. 5	北 日	本	選 抜 中 障	2 位	(添 田)
				中 障	失権	(若 松)
	8. 16~18	道	体	総 合	3 位	(添 田)
				総 合	5 位	(添 田)
				婦 人 障 害	6 位	(石 川)
				中 障	棄権	(若 松)
	11.14 ~21	全 日	学	総 複 合	15 位	(桑 田)
S. 51.	5. 3	半 沢	杯	小 中 障	1 位	(桑 田)
				中 障	1 位	(蛭 子)
	7. 10~11	道 自	馬	中 障	7 位	(桑 田)
				バルクール	2 位	(桑 田)
				選 抜 障 害	4 位	(桑 田)
	7. 28~8. 1	北 日	学	総 合	8 位	(桑 田)
				中 障	8 位	(桑 田)
				B 障 害	4 位	(岩 田)
	8. 7~9	道	体	総 合	3 位	(桑 田)
				中 障	4 位	(桑 田)
				婦 人 障 害	3 位	(永 井)
				大 障 害 B	2 位	(桑 田)
	10. 2~3	公	認	小 複 合	失権	(小 野)
				小 障	13 位	(浪 内)
				バルクール	6 位	(桑 田)
				中 障	1 位	(桑 田)
	10.25 ~28	国 全	体 本	大 障 害 B	2 位	(桑 田)
				成 年 障 害	失権	(桑 田)
				バルクール B	8 位	(桑 田)
				中 障	3 位	(桑 田)
		全 日	学	中 二 障	10 位	(桑 田)
				総 複 合	7 位	(桑 田)
S. 52.	5. 3	半 沢	杯	中 障	4 位	(半 浦)
				中 障	6 位	(半 浦)
	6. 18~19	道 自	馬	小 複 合	2 位	(成 田)
				中 障 A	9 位	(半 浦)
				中 障	2 位	(半 浦)
				バルクール	2 位	(半 浦)
				選 抜 障 害	6 位	(半 浦)

	8. 3~8. 8	北 日 学	中 障	4 位	(半 浦)
			總 合	失權	(半 浦)
	8. 20~21	道 体	B 障 害	12 位	(島 村)
			總 合	5 位	(半 浦)
	9. 3~4	公 認	中 障	4 位	(半 浦)
			小 障	8 位	(半 浦)
			パルクール	6 位	(笠 間)
			大 障 害 B	2 位	(半 浦)
	10. 5	国 体	成 年 障 害	1 位	(半 浦)
	10. 15~16	全 日 本	パルクール B	21 位	(半 浦)
			中 障	3 位	(山 本)
	11. 15~11. 21	全 日 学	二 走	3 位	(山 本)
S. 5 3.	5. 3	半 沢 杯	複 合	20 位	(半 浦)
			中 障	3 位	(中 島)
			小 障	1 位	(中 島)
	6. 10~11	道 自 馬	パルクール	5 位	(高 橋)
			選 抜 障 害	6 位	(中 島)
	8. 3~9	北 日 学	中 障	3 位	(中 島)
			總 合	4 位	(中 島)
			B 障 害	6 位	(中 島)
	8. 19~20	道 体	壯 年 馬 場	2 位	(高 橋)
			成 年 障 害	5 位	(半 沢)
			小 障	1 位	(中 島)
			パルクール	5 位	(篠 田)
			標準中障	7 位	(中 島)
			大 障 害 B	1 位	(中 島)
	10. 16~19	国 体	成 年 障 害	1 位	(中 島)
	11. 3~5	全 日 本	中 障	14 位	(中 島)
			パルクール B	7 位	(中 島)
			コンソレーション	9 位	(中 島)
			二 走	3 位	(中 島)
			總 合	5 位	(中 島)
S. 5 4.	5. 5	半 沢 杯	複 合	10 位	(中 島)
	6. 12	道 自 馬	中 障	2 位	(高 橋)
			パルクール	2 位	(高 橋)
	8. 2~8	北 日 本	中 障	15 位	(高 橋)
			總 合	1 位	(高 橋)
			B 障 害	1 位	(北 畑)
	8. 25~26	道 体	成 年 總 合	3 位	(高 橋)
			婦 人 壯 年	2 位	(井 上)
			成 年 障 害	3 位	(高 橋)
	9. 15~16	公 認	標準中障	3 位	(高 橋)
			パルクール	2 位	(高 橋)
			大 障 B	2 位	(高 橋)
	11. 13 ~19	全 日 学	二 走	棄權	(高 橋)
			總 合	14 位	(高 橋)
			中 障	1 位	(高 橋)
			内 国 産 障	1 位	(高 橋)

S. 55.	6. 7~9	道	自	馬	パルクール 選抜中障	1位	(高橋)
	8. 5~11	北	日	本	中障	2位	(高橋)
	8. 16~17	道		体	パルクール 中障	1位	(高橋)
	9. 6~7	公		認	総合障	2位	(高橋)
	10. 13~16	国		体	成年障	3位	(高橋)
	10. 19~27	全	日	学	パルクール 中大障	2位	(高橋)
	11. 15~16	全	日	本	障B障	10位	(高橋)
S. 56.	5. 4	半	沢	杯	中障	17位	(高橋)
	5. 23~24	道	自	馬	総合障	6位	(高橋)
	7. 31~8. 4	北	日	学	中障	5位	(高橋)
	8. 22~23	道		体	複合障	2位	(増田)
	10. 3~4	公		認	中小障	14位	(佐粧)
	11. 7~16	全	日	学	複合障	6位	(増田)
	11. 21~23	全	日	本	障A障	5位	(増田)
					ハンティング	4位	(増田)
					ピューイスانس	3位	(増田)
					二成障	4位	(増田)
					成年総合	3位	(増田)
					障害	5位	(増田)
					ハンティング	1位	(増田)
					国内産馬	1位	(増田)
					障B	2位	(増田)
					二成障		(増田)
					標準中障		(増田)
					障害		(増田)
					ハンティングB		(増田)
					コンソレーション		(増田)
S. 57.	5. 3	半	沢	杯	複合障	2位	(増田)
	6. 5~6	道	自	馬	中小障	2位	(増田)
	8. 7~8	道		体	ハンティングB	満点	(中川)
	10. 4~7	国		体	中障	1位	(増田)
	10. 23	東	日	本	中障	1位	(佐藤)
	10. 30~11. 8	全	日	学	中障	3位	(増田)
					二成障	3位	(増田)
					総合障	6位	(増田)
					成年総合	1位	(増田)
					障害	3位	(増田)
					ハンティング	4位	(増田)
					二成障	5位	(増田)
S. 58.	5. 5	半	沢	杯	中障	6位	(増田)
					総合障	12位	(増田)
							(高須)

6. 25~26	道	自	馬	中	障	A	3位	(高	須)
7. 23~24	公		認	ハン	ティング	B	6位	(高	須)
				標準	中	障	6位	(高	須)
				大	障		失権	(高	須)
8. 5~8	北	日	学	二	走		5位	(高	須)
				総	合		9位	(高	須)



	8. 13~14	道		大	総成二内標ハンティング	合障走産中馬障	5位	(高須)
	10. 26~31	全	日	学	年	障走産中馬障	11位	(高須)
	11. 18~20	全	日	本	二内標ハンティング	障走産中馬障	17位	(高須)
S. 59.	6. 23~24	道	自	馬	複第2級M第2級M複ハンティング	合級B級B級B合	7位	(高須)
	7. 28~29	公		認	複第2級M第2級M複ハンティング	合級B級B級B合	40位	(高須)
	8. 5~8	北	日	学	S級B	合級B級B級B合	20位	(高須)
	8. 25~26	道		大	二総	合級B級B級B合	3位	(森田)
	9. 28~30	東	日	本	総成	合級B級B級B合	2位	(森田)
	10. 20~29	全	日	学	婦選内二総	合級B級B級B合	8位	(陣川)
	11. 3~5	全	日	本	選内二総	合級B級B級B合	失權	(森田)
S. 60.	8. 2~5	北	日	本	選内二総	合級B級B級B合	失權	(森田)
	11. 27~12. 2	全	日	学	選内二総	合級B級B級B合	5位	(森田)
S. 61.	5. 5	全	日	本	選内二総	合級B級B級B合	6位	(森田)
	6. 28	半	日	学	選内二総	合級B級B級B合	1位	(森田)
	7. 19~20	道	自	馬	選内二総	合級B級B級B合	7位	(森田)
	8. 8~11	北	日	学	選内二総	合級B級B級B合	3位	(国枝)
	10. 18~27	全	日	学	選内二総	合級B級B級B合	12位	(森田)
S. 62.	5. 5	全	日	学	選内二総	合級B級B級B合	15位	(森田)
	6. 27~28	道	自	馬	選内二総	合級B級B級B合	29位	(森田)
	8. 7~10	北	日	学	選内二総	合級B級B級B合	33位	(森田)
	10. 27	道		大	選内二総	合級B級B級B合	失權	(森田)
S. 63.	5. 5	半	日	学	選内二総	合級B級B級B合	失權	(久光)
	8. 5~8	北	日	学	選内二総	合級B級B級B合	4位	(久光)
					選内二総	合級B級B級B合	4位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	13位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	10位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	24位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	失權	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	4位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	6位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	失權	(加藤)
					選内二総	合級B級B級B合	4位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	1位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	2位	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	22位	(大歳)
					選内二総	合級B級B級B合	失權	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	失權	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	失權	(服部)
					選内二総	合級B級B級B合	10位	(仲村)
					選内二総	合級B級B級B合	7位	(仲村)
					選内二総	合級B級B級B合	3位	(仲村)
					選内二総	合級B級B級B合	棄權	(仲村)
					選内二総	合級B級B級B合	失權	(仲村)



北大水産学部活動報告

主 将 北 川 知 子

結局「業績」を残せることは一切せずに終わってしまった。1人で何をやっていいのか分からず、悩んで何度も失敗し、多くの方々に御迷惑をおかけしました。

「活動」として呼べるほどのものではありませんが、現在の状況を書かせて頂きます。

現在「北水馬術部」は部員2人、練習は原則的には毎日、そして東山乗馬クラブで馬に乗せて頂いております。岸本、菊地両教官の寛大な御厚意のもとで活動しております。

昨年10月に本学より2年目の根井弟が移行してきました。私1人のあまりの情けない活動に半分あきれていたのではないかと思います。12月に、彼へ代替りを致しました。今シーズンでの活躍を期待して下さい。決して私がやってきた失敗をせぬよう、常に前向きに、目標をもって頑張ってくれると信じております。

こちらで馬に乗ることは決して恵まれているとはいえません。部員が時間に自由のない学部生であることや、土地的にも試合場から離れていること、人数が少ないことなど……。しかし、そのなかでいかに馬に乗って行くか、あれこれ試行錯誤することで思い入れもかなり強くなることかと思えます。これから「北水馬術部」をどう発展させていくか、根井弟にとっては皆様の期待を背負って行くこととなりますが、彼ならプレッシャーに負けず、素晴らしい業績を残していくことでしょう。

多大な御心配、御迷惑をおかけしました皆様方、本当に申し訳ありませんでした。

彼が次号に立派な「北水馬術部活動報告」の原稿を送れることを祈ってペンを置かせて頂きます。



三恵建設株式会社

代表取締役 村 上 隆 保

本 店 札幌市中央区北2条東11丁目23番地

TEL 261-0080
FAX 251-3673

東京OB会便り

昭和63年5月8日午後、晴れ渡った青空のもと、馬事公苑において観桜会・春の乗馬会が行われました。乗馬会ではたくさんのOBと家族の方々が参加して、それぞれの思いで楽しんでおられました。常日頃から乗馬に親しんでいる方はその雄姿を披露し喝采を受けられ、また多くのOBは久々に馬達の暖かさに触れることができたようです。子供達も、少ない時間ながら馬達の優しさ、鞍上の楽しさを知ることができたのではないのでしょうか。この中から、未来の名選手が生まれればよいのですが・・・。

夕方からは、芝生の上に会場を移して恒例のジンギスカンパーティーが始まります。その頃には総勢80名を越えていました。東園会長差し入れの御料牧場のラム肉は相変わらず美味しく、北海道を思い起こす味で、話も弾むしビールもうまい！！最後は「都ぞ弥生」の大合唱で締めくくり、楽しい時間は星空に吸い込まれていきました。(写真1)

秋も深まった11月5日、全日学遠征のため上京した現役部員を迎えて、懇親会を行いました(会場は千葉苑長の御配慮により馬事公苑食堂をお借りしました)。今年は、二回走行、総合とも団体出場とあって23名の現役部員が馬達の世話に忙しい中、真っ黒に日焼けした顔を見せてくれました。OBも札幌からいらした半沢先生を含めて20名の参加で大変にぎやかな会になりました(写真2)。

翌日の競技にも多くのOBが応援に駆けつけ、現役部員の活躍に心を踊らせていたようです。

事務局より

東京OB会は上記二つに新年会を加えた三つの会合を中心に活動を行っています。東京近辺にお住いで都合のOBの方はお気軽に参加して下さいますようお願い申し上げます。また、東京OB会の活動について何かお気づきの点がございましたら、お気軽に事務局まで御連絡下さい。

なお、担当の木村氏(昭和51年卒)が9月1日付で北海道へ転勤されたため、現役部員との懇親会からは名越(昭和59年卒)が事務局を担当させて頂いております。何分不慣れのため配慮が行き届かぬことがあると思いますが、宜しくお願い致します。皆様の御指導、御助言により、現役部員の活躍を盛り上げつつも、どの代のOBの方も楽しむことのできる会にしていきたいと思っております。

平成元年2月26日

北大馬術部東京OB会 会長 東園基文
幹事長 樋口正明
(記 事務局 名越正泰)



(写真1) 馬事公苑の夜空に響く「都ぞ弥生」(観桜会)



(写真2) 現役部員との懇親会で

卒部にあたって

大 歳 正 明

どうして、このクラブに入ったのか？今考えると不思議です。他にやりたいことは、いろいろあったのに……。どうして途中でクラブをやめなかったのだろう。なんとなくやめるきっかけが無かっただけかもしれません。「やめずに4年間続けていれば、今までの自分よりも素晴らしい自分を発見できるのではないか。」という希望的観測のみであったかもしれません。

しかし、結局は、今までの自分から、なんとなくぬけ出せないままで……。何をやるにも、常に受け身で、自分から進んで何かをやらうとしなかったのだから、自分のまわりの狭い範囲しか見えないのも当然です。

視界が、広いか、狭いか、物事を深く見つめる目をもつかどうか？ということは、実に大切なことですべての事に共通して、何かの“できる人間”と“できない人間”との違いの大きな部分が、この見る目が有るか、無いか？の違いであると思います。これは馬術についても同じで、上手な人とあまり上手でない人との違いは、ある馬の状態を見て、そこから読み取れる情報量の違いであり、どれだけ多くの馬の状態というものを知っているかであり、“馬の良い状態”をどのレベルの高さまで感じたことがあるかであると思います。

このクラブの特徴は、全てのことを自分達で決めてやっていることであり、自分で責任を持てることなら、何でも出来るのです。だから、現役の人には、“物を深く見る目”を持てるように、前進氣勢を持って色々なことをやって下さい。

前進氣勢がなく、受け身で物事をやると、もし失敗すれば、「やっぱり、だめか。」とか「ああいやだ。」という気になり、もううまくできても、ほっと一安心できるだけで、自信という心の財産とはならないのです。前進氣勢を持って行えば、必ず、自信につながるはずです。これは馬でも同じ事です。馬に自信を持たせることが一番大切なことなのです。また、人間が自信無さそうに乗っていると、馬も不安になるのです。

最後に、僕のために、その一生を台無しにされてしまった馬達に本当に悪いことをしたと思っています。本当にごめんなさい。

加 藤 ゆ う こ

締め切りを延ばしているうちに、卒部してしまい、私はOGとしての生活(?)にどっぷり浸っている。4年間の様々な思い出は生々しいくらい鮮明に残っているのだが、それらを拾い出して書き綴るセンチメンタルな感情は、残念ながら消え失せてしまった。自分のOGとしての性質の中に、まだ時々見え隠れする現役の心理がある。そんな微妙な立場から、今の現役の皆に言っておこうと思うことがある。

現在北大は文字通り“駒”となる馬匹が揃ってきたと言える。次世代を担える状態にある馬達もいてこれからしばらくは毎年全日学で団体が組める、勝負できる馬匹水準であることは確かだと思っている。数々のOBの御協力を得ながら、ある程度確実な馬を引き継げたという意味に於いて、私達の代は少しばかりの成功を納めたのかもしれない。しかしながら、乗り手の方はどうだろう。馬を育てることにばかり——言い換えれば、自分達のことばかりに必死になっていて、下級生の指導に注ぐ努力が足りなかったのではないかと、と今改めて思っている。これは私達の大きな失敗だった。

技術面・精神面に関係なく、私達が持っていた共通の信条は「上級生が一生懸命やっていれば、下級生は自ずとついてくる」だった。多くを語らずとも、行動で訴えることができるのではないかと思っていたのだが、私達が現役の間には、終に期待した程の反応を感じることは少なかった。こちら側に、皆に感じ取ってもらえるだけの内面を曝け出す勇気や行動がなかったためだろうし、また下級生の方にも、私達の中に深く入り込んでくるだけの勇気が起こらなかったためだろう（もちろんそういう気にさせられなかった方に非はあるのだろうが）。いずれにしろ、君達をぐいぐい引っ張り上げることができなかったことは、クラブを率いる上級生として失格だったのだ。

騎手の技術、馬を育てる方法論、精神面——試行錯誤の繰り返しで未熟だったが——これらのことのついてもっと多くを話し合うべきだった。勿論、技術論ばかりの頭でかちになってしまって、乗っている時に感じようと努力しなければ、技術・方法論は実に惨めなものになってしまう。そのことに充分気を付けた上で、人にも馬にも判り易い指導を行っていくのが良いと思う。一瞬一瞬変わっていく状況の中で“今この人（馬）に何が一番必要なのか”を見極める目を培っていかなければならない。そして更に、その目で見たことを言葉にして相手に伝えなければならない。

こういったことをはっきりと認識したのは、私自身つい最近で、何をやるにも余裕のなかった現役時代は、そこまで思うことはあっても行動に移すことはできなかった。今の現役だって同じだろう。大変なのはよく判っているつもりだが、しかし毎年同じ状況の繰り返しでは何も進展しない。もっと積極的になって、自分自身の手で、今の状況を切り開いていって欲しい。OB・OGをとことん利用して、踏み台にして、大きく飛躍して欲しい。

受け身の姿勢のままでは、現役の方が飲まれてしまうことになりかねないのではないだろうか？

金 田 克 己

元来、冬は嫌いではない。窓の外にしんと降る雪を見ながら暖かい部屋で、アイスクリームを食べるところなど、想像しただけでもえもいぬ会館がこみあげてくる。資源の無駄使い＝文明だとすると、これはまさに文明的行為であるが、文明的行為が好きなのかというとそうではない。同じ資源の無駄使いでもキラキラと灼きつく日差しの下、冷房をがんにきかせた部屋で鍋焼うどんを喰う、というのにはあまり魅力を感じないからだ。やはり冬が好きなのだ。受験勉強をしているときも何故か札幌の爽やかな夏よりも冬のことを想像して楽しんでた。大学に入ったら勉強しよう、あそこだったら冬、他に何もすることがないかたさすがの俺も勉強せざるを得ないだろうとか、あまり勉強ばかりしてい

ては体に良くないのでスキーに行くことを日課にしてはどうだろう、札幌なら1時間で往復できるそうだから2時間は滑れるぞ、だとか。結局スキーにもあまり行けなかったし、勉強もしなかったが、心底冬が嫌だと思ったことはなかったと思う。鼻水が出てくることや、鉄が手にくっついてくるのには閉口したが冬に寒いのは当たり前、という妙な納得が常に有ったせいかも知れない。

しかし、夏もやっぱり素晴らしかった。北大富士から見渡す朝もやの中の農場や、無心に草をはむ馬とそれを眺める人の組が迎りにちらばるモデルバーンなど生涯忘れないだろう。余りの素晴らしさに、帰省など出来るかと遊び歩いている、音信不通が有らぬ疑惑を呼び、寸是のところで仕送りを止められるところだったのも、ついこの間だと思っていたのに、もう4年前。早いものだ。

札幌での4年間が終わった今、あらためて振り返ると、アハア楽しんでばかりじゃなかったことに気付いた。考えてみれば特に2年の後半から3年の後半にかけてなど、四六時中悩んでいたように思える。1年間の半分ぐらいは困った、困ったと言っていた。本当に困ったときには困ったと言えないたちなのだが、残りのもう半分ぐらいは本当に困っていた。何に困っていたかは忘れてしまった。何もできなくて情けなくて、そしてそんなことで情けながっている自分がまた情けない、覚えていないぐらいだからそんな程度だったのであろう。

盛んにミーティングなどしているのを見るとあややはり悩むの打な、と思って嬉しくなってしまう。また意地悪を言って、と思われるかも知れないが一概にそれだけではない。自分さえ持て余している人間が何人も集まって何かやろうとするのである。すんなりいかないのは当然とも言えよう。そしてみんなが真剣であればあるほどすんなりいかない。自分達とまるで同じことをしている、と思うとつい口元が緩んでしまうのである。

大学の部なんて遊びだという人がある。否定はしない。むしろ至極もつともだと思う。誰のためにやっているのでもない。自分がやりたいからやるのである。面白いからやるのである。だからこそ真剣であり、一生懸命であるのだし、それがまた面白い。そうやったら、より面白くなるかをみんなで考え、もっと面白くすればいい。今の部にはラクなこと＝面白いことなんて考える人間はいないはずだ。だから大丈夫。きっと面白くなるはず。栄光は忍び足でついてくる、んだそう。

べらんめえ、まだ行が残っていやがる。なぜ、卒業してからこんな恥の上塗りをせにゃならんのか、と嘆いてみても、何で卒業する前に書いてくれなかったのですか！と、きりかえされるのがおちである。何しろ、自己紹介の欄を書いてもらった、というひけめがある。しかし、今年の部報委員の人選は大正解だったようですね。それじゃあ皆さんお元気で、ポッチ達によろしく。

北川知子

自分がこうして原稿をこの場に出すなど、心苦しいのですが、部報委員の御厚意に感謝し、そして、自分の4年間のクラブ生活のいいかげんさに対しての「つぐない」の意味をこめて書かせて頂きます。

1年の頃、ただ憧れて馬に乗ってみたい……。そんな単純な動機で入部した。見ることも聞くことも全

く知らないことばかりで、毎日が驚きと感動の連続だった。早く部員として行動できるようになりたくて夢中で過ごしていた気がする。1年のときに見ていた上級生の姿というのは、すばらしいものであり、自分がこれほど馬にのめりこんだのも、こうして続けてこれたのも、先輩方のおかげだと思っています。上級生が本当に馬を愛し、クラブに対して、試合に対して、全てを犠牲にしてまでも真剣に取り組んでいる姿、バイトでも作業でも下級生と差別なく、いや下級生以上に負担を背負っていながらも、それを何の苦もなくやりとげている姿・・・etc.・・・。

自分が函館に移行し、代が替わって同級生が幹部になった。彼らはやはり上級生としての役割を果たした。それを見、自分も頑張ろうと思いつつも結局中途半端、いや何もせずに終わってしまった。

1年半の札幌での生活で刺激を受けてきたのにもかかわらず、函館での2年間といえば、ただ1人で自分のことしか考えず、身勝手な行動しかしてこなかったのではないと思う。確かに恵まれた環境とはいえない。しかしその気になれば、試合にだって出ただろうし、「クラブ」としての何か業績を残せたはずだ。やろうと決めたのであれば、たとえ恵まれなくともその気になれば何でもできるはずなのだ。「どうせ〇〇だから・・・。」とか「忙しい」とか言って結局は逃げていたのだ。こちらで1人になって、1人ぼっちになってしまった気がして、いじけて、逃げ腰になっていたのだ。

今頃になって、多くの方々心配して頂き、アドバイスをうけていたことに気がついた。たった1人でつぶねて頑張っていたのではなく、これだけ、沢山の方々周りにいたのだ。今更恩返ししようと思ってもできるはずなく、後輩に何1つ残せなかった。

申し訳ないと言っても済まされないだろう。

でもあと2年学生でいる限り、又、その後離函してもできる限り協力するつもりです。

4年間、沢山御心配をして下さり、アドバイスをして下さった方々にこの場を借りて御礼を言わせて頂きます。「ありがとうございました。」

高野 薫

4年間、ずっと恵まれていた。苦しい事はたくさんあったけど、「一体どうしたらよいかわからない」というようなことはほとんどなかった。常に何かが進捗方向を指し示してくれた。先輩だったり、同輩だったり、部報だったり、馬だったり・・・。

書き連ねたい思い出はたくさんあるけれども、「現状に酔うな」という栗東トレセン・竹之下さんの言葉に従い、又、既に新メンバーによる今年目標に向かって活動している現役には僕の感傷に付き合いわせては悪いので、伝えておきたいことを書いておきます。

最近(僕等の活動した時期も含めてではあるが)、馬に乗る際、どうも技術にばかり頭が行ってしまつて精神的なつながりを求めるトレーニング・努力が軽視されているように思う。勿論より高い技術を求めて練習しなければ進歩はないのだが、足元がぐらついている状態が増えつつある。馬の気持ちを掴むこと、又うまく気分を乗せてやること。技術よりもその辺が下手な場合に伸び悩みが目立つような気もする。ドンやギャランみたいにコンスタントに全日学に行ってる馬は能力もさることながら、乗られる

ことあるいは障害を飛ぶことに対する精神状態が悪くならないように育てられたのだと思うし、そのことは北大のよい伝統の一つだと思う。喜怒哀楽の表現は大切だけれども、少なくとも自暴自棄になったり暗くなったりしてはいけないということは、人間関係においても言えることだと思うので書かせてもらいました。

もう一つ。スポーツ選手であるにもかかわらず体力・筋力のない部員が多い。「馬術ってスポーツ？」と聞かれると僕はカチンとくるのであるが、現状を見ると言い張ることができないのが残念である。個人的にはタバコを吸うのも好ましくないのだが、そこまで言わなくとも馬上で馬よりも疲れていては話にならない。北大に限ったことではないが、スティーブルのゴール近くで「乗っているのがやっと」というような選手を目にするが、馬が哀れである。中央の審判の人達に接すると、歳はとっていてもそのガッチリとした上体にいつも感心してしまう。練習でも試合でも疲れたと思ったら既に終わりである。緊張の持続に耐えうる体力が必要である。体力・知力・バランス或いは馬の反応を感じとる感覚などすべて部の練習以外で養えることである。「センスがあつてうらやましい」と言われる部員は生来のものもあるかもしれないが、入部前にしていたスポーツや生活で養われているものも大きいから、他人を羨望する前に追いつく努力をせねば。特に女子部員。

最後まで文句ばかり書き連ねて申し訳ないのですが、とにかく自分が体を動かさないことには体を動かしている馬の気持ちは理解できないということを言いたかったのです。

学生馬術は最高である。本当の意味での団体馬術は学生馬術しかないのではないかと思う。一生馬術を続けても、この4年間は特別の4年間になりそうである。そんな時期にすばらしい仲間達に巡り合うことが出来たのは、最大の幸運だったと思っています。そして、最後まで刺激を与えてくれ、又、支えてくれた仲間達には本当に感謝しています。

中野兼一

多くは語らず。「沈黙は金」

良き馬、良き友、良き師に会えたことが、私の全てを変えました。ありがとうございました。

—— 当番日誌より 3月3日 ——

昨日の追いコンは楽しかった？僕はヨナベでつかれました。おかげでマシンマシンを使えるようになりました。うるうる。でも、喜んでもらえてよかったよかったです。

4年目

左から 金田兄、大歳兄
北川姉、加藤姉、高野兄
中野兄



3年目

左から 湯浅姉、前田兄
石川兄、仲村兄

2年目

上段 左から 林兄、伊藤兄
根井兄、真鍋姉
中段 左から 堀崎兄、中戸
川姉
下段 左から 岩田姉、小林
姉、西田姉、福庄兄



1年目

上段 左から 外山、高梨
高村、佐藤み、野田、橋本
佐藤る、平山
下段 左から 横山、堀川
松島、田村

自己紹介・他己紹介

☆4年目

大歳正明

「表に立つ自信がないから、縁の下の力持ちになる」って？ まあ、それもいいでしょう。でも、縁の下に隠れているだけでは、どうしようもないんだよね。

☆ ☆ ☆

“そう、プリ、いいよ”大歳さんといえばスプリ、スプリといえば大歳さん。切っても切れない仲間なんです。ちょっと目が離れてておでこがでてるわがままお姉さんの恋人。池上季美子に似てて美人なんです、スプリは。入部した時、大歳さんとプリがよく似てると思いました。大柄な体格につぶらな瞳。やっぱり、愛しあう者は似てくるって本当かしらん？

尊敬すべき大歳兄はいつもメロスのごとく走ってます。夕当後、涼しげな汗がキラリ。“クラ館まで走ってきたよ”感銘を受けるのは、私だけではないはず。

馬術部には、楽しいこともあるけれどつらいこともたくさん。そんな時、大歳さんの笑顔とやさしさが妙にあったかい。

四年間、御苦労さまでした。これからも頑張ってくださいね♥

加藤ゆうこ

我は張り詰めたる氷を愛す。
斯る切なき思ひを愛す。
我はその虹のごとく輝けるを見たり。
斯る花にあらざる花を愛す。
我は氷の奥にあるものに同感す、
その剣のごときものの中にある熱情を感ず、
我はつねに狭小なる人生に住めり、
その人生の荒涼の中に呻吟せり、
さればこそ張り詰めたる氷を愛す。
斯る切なき思ひを愛す。



—— 切なき思ひぞ知る —— 室生犀星

氷の行方、いかに

☆ ☆ ☆

とにかく面倒見のいい先輩。親分肌、といったら怒られそうだけど、誰も圧倒されてしまうあの声の迫力。でも姉に何度も頭をポカッとやられたり、SSをむりやり飲まされた思い出ばかりではありません

ん。おじょうに乗った時、姉に本当に丁寧に教えてもらってよかった、と思っている一年生は自分のみならず。はっきりとわかり易く教えてもらえるのが好評の理由です。

「馬に対して謙虚になれ。」これはコンパの時に姉から聞いた言葉です。

金田克己

その時の気分とその場の雰囲気、そしてよく練った好奇心を混ぜて、見栄をまぶし、義務感を少々振りかける。これをなるたけ寒い所でゆっくりと発酵させて四年間。——何ができたのか。文字では、形容しがたいなにかが僕の中にある。たとえ、年中高温多湿の“マレーシア”へ行こうとも、ここで得た宝は絶対に腐らせない。腐ってたまるか。

☆ ☆ ☆

『兄はとーってもコワイ人です。』 と思っていました。

『兄はとーってもシブイ人です。』 と思っていました。 以前は。

兄の言葉には必ず決まった接尾語がつきます。

「何やってんだよー！ばかやろおー!!」

「まっすぐ歩かせろ！ばかやろおー!!」

兄の指導を受ければ誰でも「ばかやろお」になります。

兄とは正反対の性格だといわれるポッチとのコンビはなかなか良かったのですが、来年は、マレーシアに行ってしまうそうです。ちょっとさみしいですが、マレー語のばかやろうでも覚えて帰ってきて下さい♥

北川知子

1人でもがいて、苦しんで、誰の手も借りずに頑張っていたつもりでいた。最近それは大きな誤りであることに気づいた。人一倍迷惑をかけ、多くの人々の親切に甘えていたことの多かったこと…。

もっと早く気づいていれば、何か残せたかもしれないね。

何も恩返しはできないけれど、これだけは言いたいのです。

「ありがとう…」って…。

☆ ☆ ☆

銀のスカイラインを颯爽と乗りこなし、異国の情緒香る函館の街を今日も東山乗馬クラブへと通う元気な姉であります。現代社会において貴重となった赤ブチ眼鏡の奥からいつもニコニコとやさしく微笑みかけてくれるやさしい姉でもあります。

一人ぼっちの北水馬術部でいろいろ大変だったと思われませんが、本当にお疲れ様でした。でも大学院へ進学されるということで、もう2年函館にいられることになるわけですので、これからも北水馬術部の面倒をみてあげてください。

高野 兼

自己紹介に換えて、書き置き。

いまから4年前、歳の瀬の12月になってやっと部報を発行したのは、他でもないこの私です。こんな私が言うのは非常に潜越なのですが――、

みなさん、大いに部報を読みましょう。僕にとっては、ミュージラーやパールマンの本よりもずっと勉強になりました。何度読んでも読むたびに新しい発見がある「打ち出の小槌」のようなものです。非売品ではありますが、価格は無限大です。

☆ ☆ ☆

高野兄に、あいたいなら部室においで下さい。ふっと部室をのぞいていないとおもったらだめ。こたつ布団に身をかくしあの茶色いぼんぼり帽子をかぶってねているんです。

このあいだ、高野兄の身边でなにがおこったのかは、誰も知りませんが、あのスポーツがりヘアーにパーマネントをかけ、すっかり、ヤッチャんに変身してしまって、こわがられています。

しかし「腹がいてーよー」の一言をきくと、なぜかほっとするんですよね。

また、兄は御自分の後継者（俗に部室の主といわれる者）を大切にしてくださいませ。言い換えれば、よくおごって下さるのです。いつもいつも「申しわけないな」と思いつつ、今日も兄と何か食べる私でありました。

全日学では、銀と大活躍された兄。本当におめでとうございました!! もう1年は札幌にいらっしゃるわけですから、ちょくちょく部室にも顔を出して下さいませ。4年間、ほんとうに、ご苦労様でした。

中野 兼一

『燃えつきたよ・・・真っ白な灰にな。』 結局、負けてしまった。

あてのない夢、限らない血と汗と・・・努力。

命ある限り、何事にも全力でぶつかっていくしか能がない中野でした。

ありがとう、ギャラン

そして、ごめん。

☆ ☆ ☆

不屈の精神力と実行力、そして人望の厚さ。中野兄には本当に頭の下がる思いでいっぱいです。失礼かもしれませんが、あの小さな体から溢れ出るパワーはいったい何なのか、ハッターと兄は言いますがそれを実現させてしまうあのパワーは・・・。

「努力」 この言葉の意味を体をはって我々に教えてくれた、そんな気がします。馬術は団体競技であるという兄の基本姿勢を忘れず、この先、精一杯がんばりたいと思います。

ギャランと共に馬場を駆けめぐる兄の雄姿を胸に秘めつつ、そして負けないように一步一步前進して行く所存であります。

四年間、本当にご苦労さまでした。

二代目憂飲会一同

☆3年目

石川 信行 (主務・教育学部教育学科)

僕は 星の王子様です
将来は 政治家になります

☆ ☆ ☆

札幌の郊外の静かな住宅街に一風変わった映画館がある。オールナイト上映のみでコーヒーサービスもあり、送迎付で無料、宿泊もできる。

又、一風変わった旅行会社もある。扱っているのは札幌近郊へのミッドナイトツアーで、ディナー付。もちろん無料である。冬期営業期間にはスキーツアーも実施される。

上記2つを一緒にしたパックツアーがある。定員3名までだが、これが下級生に大うけで、又、必修でもある。私も参加したことがあるが、馬術部員にとって文化的生活に接することのできる良い機会だと思う。みなさんもふるって参加しよう。企画は、あの有名な“豊かな明日をクリエイトする”石川コーポレーションである。以上、広告でした。(え!?広告じゃなくて他己紹介だって!?もうおそいよ!!)

仲村 秀喜 (主将・教育学部教育学科)



このクラブで2年半為してきたわがままの数々を。
ドン・ホッパーを自らの手で離断させざるを得なかった自分の無力さを。
おもしろえじゃないか。
この1年に賭けてやる。

主将、はまなす国体、北銀、昨年全国3位……舞台は揃った。道は決まった。目標は定まった。
悩めるハムレットは、無鉄砲なドン・キホーテに移りゆく。

☆ ☆ ☆

細くてながーい、切れ長のおめめに、これまたスーっとしたおはな、その上、銀ちゃんに似た安定感のある体型。・・という時代劇には打って付けの容貌の兄は、I兄とは違って、革新的である。理論よりも実践をと思っらっしゃるのか、最近では授業よりも部員の教育と育成に力を注いでおられます。いつも我々下級生の内に秘めたる能力をひき出そうと、労力を惜しまず、真剣に相談にもものってくれる兄の存在の大きさは、あのノエルの鼻孔を上まわっている。

前田 武己 (副将、会計・農学部農工学科農業機械学専攻)

おい、お前、来年こそは東京の街をふたりで歩こうな。一生のうち一度は東京見物をさせてやりたいと思っとる。だから、ふたりでがんばろうな。

☆ ☆ ☆

“おれなあー 朝昼晩、全部自炊して、1ヵ月の食費1万6千円ですませたことがあるんだぞ”とこの前自慢してくれました。

馬術部の大蔵大臣、クラブのおかあちゃんとして兄はなくてはならない存在です。ノエルをこよなく愛しつづけて下さい。

兄のイメージカラーは“グレー”です。

湯 浅 真 美 (馬匹・理学部生物学科植物学専攻)

お人好しの父さんと何事にもめげない母さんとの共同作品第3号。

九州の山中でのんびり元気に育ったため、ちょっとキカクより大きめ。他の部員と識別するのはけっこう楽。いつもニタニタしている。こまった事があるとワーワーわめく。すぐ腹をたてる。かげ口は言わず本人の前で言う。自分は自分、他人は他人という考えにもとづいて行動している。好きな言葉“人生バクチだ” うーん、ゆあさの人間像がうきぼりになった様な自己紹介ですね。

☆ ☆ ☆

彼女は僕の“マドンナ”です。

☆ 2 年 目

伊 藤 顕 治 (副務・農学部農業工学科農業機械学専攻課程)

今や1年半という月日が流れた。それにしても我ながらケガが多い。何と今までの3分の1以上を、ケガで休んでいる。いつもいつも、よし！これからやるぞ！という時に休んでしまう。

そういうわけで、少しも上手にならないうちに今に至ってしまった。「自分の健康管理もできねーやつに馬なんか管理できるわけねーだろ!!」と某先輩に言われ、まさにそのとうりだと思っただけ分おこんだ。何もいえなかった。

2年目のこの時期に休部という決定を自分に下したときは、何故か無性にくやしかった。何がそんなにくやしいのか、その時はわからなかったし、今もわかってはいないと思う。でもくやしかった。その事実だけで充分だと思う。

「自分の健康管理もできねー……。」その言葉とくやしい思いをしたという事実、それが自分の糧となることはまずまちがいない。その上で何を身とするかは、自分しだいだと思うようになったのは、つい最近の事だったりする……。

☆ ☆ ☆

兄は脊椎カリエスで現在休部中です。

ところが兄は、最も部室に長く居る部員の一人です。

兄はT兄の後を追いつM兄と共に農機に〇〇〇移行をしました。ということで独語にかかっているわけです。

兄は歌を歌うのが好きですが、顔がくずれます。

と、結局、兄にはまだ未知の部分が多すぎて他己紹介になりません。だからあと2年、お互いががんばろーね！

岩田 春美 (副務・農学部農学科)

人生って、いつだって逃道が用意されていると思う。もう一つの険しい道は、通り抜ければ、きっとすばらしい事が待っているってことが分ってる。険しい道を選ぶのは、世の中、美德とされているけれど、私は“大学生なんだからいーじゃん”なんて、訳のわからん理由をつけて、あえて逃道を探して逃げだしたくってたまらない。

“私は、新人類じゃないし、新人類になんかなりたくない”って思いながらも、こんな安易な方ばかり向かおうとするのは、やっぱり新人類なのかしらん？

年ばかり知らないうちにとって、内面的にはちっとも成長していない。今年は精神的にグンと大きくなりたいものである。人生、七転八起。ころんできていーじゃない、倒されたっていーじゃない？また起き上がればいいのだから……。

☆

☆

☆

ソフトボールが苦手な春ちゃんは、何度振っても、不思議なほどに、ボールがバットにあたらない。「先輩、バット横にして止めておいてください。ボクそこにむかって投げますから。」とT弟に言われながら……でもあたらない。ただそこにいるだけで、まわりみんなを 幸せな気分にしてくれる…春ちゃんは不思議な女の子。あの細い体の中にいったいどれくらいの根性とやさしさとPOWERがつまっているんだろうね。悩んでることいろいろあると思うけど、その春ちゃんパワーで がんばれ!!

小林 佐代 (文化・農学部農学科)

馬術部2年目。今後の目標。

馬を好きになること。

人を好きになること。

自分を好きになること。

☆

☆

☆

昨年度の部報によれば、彼女は「オオカミ少女」であるとか。愛車「Champ」に乗り、18条通りを暴走していくその姿は、何気にそんな気配がうかがえたりもします。

そんな「オオカミ少女」も寒さにはトコトン弱いらしく、真冬には服のボタンもはめられないとか。はたまた、いきなり部員に、自ら作ったケーキを配給して喜ばれたりとか。彼女は本当は「オオカミ少女」ではない様です。

そんな事はともかく、何度もくじけそうにはなったけど、みんながついているんだから、あと2年頑張るんだよ。



西田美春 (会計補佐・医短看護学科)

人の命を背負うには、あまりに軟弱すぎる肩。

人の心を理解するには、あまりに短絡的すぎる思考回路。

V・ヘンダーソンやメイ・M・ジョンソン、或いは、I・J・オーランドやE・ウィーデンバックの理論を理解するには、あまりに道のりが長すぎて、溜息ばかりついている。

自分と人との距離が、自分と馬との距離よりも遠く感じるのは、私が人間になりきっていないせいなのだろうか!?

病院という、人の危機的状態の砦に立っていると、なんでもないことが幸せなことに思えてくる。だから、自力で呼吸できるということにも、感謝してしまう。つくづく自分は単細胞人間なのだと思う。いつになったら分化できることやら……

☆ ☆ ☆

医短は異端児と言われたのも今は昔。無理とか、続かないとか叫び続ける世間の声に打ち勝ってきた彼女。面倒見がいいから看護科に入ったのか、患者さんと接しているからその傾向が強くなったのかわからないけど、ドンパに、下級生に、頼りになる姐御。え、うまくいけば3年で卒業だって？ 俺と一緒にあと2年位どう？

根井智 (水産馬術部主将・水産学部漁業学科)

“大胆かつ繊細”

これが自分の次の目標。

“無鉄砲かつ小心”

これが自分の実態。このギャップを埋める為には、もう少し考えてから行動を起こす事にしようと思えます。

☆ ☆ ☆

僕は彼の沈んだ表情を見たことはありません。いつも笑顔を浮かべ、きびきびと動いています。ハッピー根井のネームからは、ただ、ただ明るいだけがとりえの根井クンのようですが、果たしてその実態は。

彼にもブランクがありました。疲労骨折による人休、これで根井も終りかと思うこともありました。それからの頑張り、直線一気の差し脚は見事でした。

函館へ行ってしまいましたが、これからは自分で自分の道をしっかり歩いていって下さい。

中戸川周子 (衛生・札教大<家庭>)

時間的にも金銭的にも精神的にも体力的にも、ギリギリの生活をしています。そんな中で、馬を通して、様々な輝きに出会ってしまった私は、凝りもせず夢ばかりを追ってしまうのでした。

☆

☆

☆

やさしいなと思えば急にシビアな事を言ったり、しっかり者だなと思えば大ボカをしたりする。強い人だなと思えばやけにモロイ面を見せたり、まじめな人だなと思えば、酒を飲むと“ケケケケケ……”と奇怪な笑い方をしたりする。う～ん本当に解らない人だ。

人に言えないいろんな苦勞があると思うけど、持ち前のガッツでもっともっとがんばって欲しいな。その為には、“腰かけ座り”と“弱氣”という悪い姿勢を早く治して下さい。ファイト！周子！

林 憲 吾 (作業・理Ⅲ系)

「もう引きとりたまえ。そして、はじめから出なおすのだ。いつでも忘れてはならないのは、『正しい事を知るには、まず、最初、まちがいを知らねばならない』という格言だよ。」

Ⓜ：「妥協は許されないね。全力を尽くすだけだね。でも、人よりどれくらい努力すればいいかな？」

Ⓜ：「ONE」

Ⓜ：「え？人一倍だって？そうすれば成功できるの？」

Ⓜ：「CAN」

☆

☆

☆

まったく感性onlyで行動していた“はやあしくん”ではありましたが、このごろぐっと男の憂いを感じさせる年代（といったら失礼かなあ）になって、考え深げなことが多いようです。そんなときには、後ろからスコンと頭をたたいて、「そんなに考えてばっかりいると不老林のお世話にならなきゃいけないぞっ」と一言いって下さい。その結果彼になぐられよーがどうしよーが私の関知するところではありません——そんな彼ではありますが、赤い帽子に赤のTシャツ姿で、作業にもくもくとはげんでいる様子をみていると、作業隊長の風格さえただよっているのがわかります。

ロードマンが恋人だったのは過去の話。いまや彼には、しばしバイトにもっていかれてしまうジムニーがある。その助手席はだれの指定席？——馬はのれないねえ。きっと色々な工具の指定席だろーな。

なんだかんだ申しましたが、彼は我が北大馬術部の次代の星。そのSenceに磨きをかけて、さびどめスプレーふきつけて、ずーっとぴっかぴかに、1等星のように光っててね。

福 庄 亮 逸 (飼料・教育学部教育学科)

『人生に必要なものは、努力と想像力と少しの金』

僕は手ぶらで、おもいきり生きてみたい。

持っているものは少ないが、それを全開して、来年は全日で走りたい。

☆

☆

☆

なんつーか、いっしょにいてほっとするやつです。

なにをやらせてもがんばる、はりきりボーイ。

環境に自分をもろに溶け込ませることができる。そしてちょっと優柔不断なんだろうけど、人の意見を素直に聞くことができるやつで、見ていて心が洗われます。

最近逃げることをしなくなった。たのもしくなってきている。

ただ着ている物を床に置きっ放しにしておくだらしなさは今もかわらない。

堀 崎 敬 史 (会計補佐, 後援会・農学部林産学科)

試験破れて再試あり 時冬にして悩み多し
ドキッと感じては1点にも涙を流し 教官を恨んでは再試にも心を喜ばす
再試休み明けに連なり 可は万金にあたる
正答知れば既に遅く すべて可に勝えざらんと欲す

別に留年した訳ではないが、馬術部に入ってこんな生活になってしまった。けどいいのだ。馬があるじゃないか。去年は色々ヒンシュクを買ったけど、今年はヤルゾ!

Q: 平石兄の来札歓迎コンパ中にハチに刺され、そのショックで救急車で運ばれたのは誰でしょう。

☆ ☆ ☆

去年自分にかけたPressure におしつぶされてきたのか、はたまた人目が気になりだしたのか最近つっぱしらなくなってしまっている。それが良い事か悪い事か……それはわからないが、元気のないこいつはちょっと張り合いがないなあ、と思う。

真 鍋 い づ み (薬品・薬学部)

自分を追いつめて生きていきたいけど、追いつめられるのはいや。やりたいことやって生きてみたいけど何がやりたいのかわからない。先の自分にとつもない不安を感じていてもどうすればいいかわからない。もうそろそろ、わがままするのやめなくちゃね。

☆ ☆ ☆

姉はこわかった。

入部した時、私はこわくて近付けなかった。姉のそばにいと、私はへびににらまれたカエルになった。

今、姉のそばにいと、私は何故かくつろいでしまう。姉にまわりついて遊んでもらっている。

姉は気嫌の悪い時と普段の差がはげしい。たぶん、私がみた時気嫌が悪かったのであろう。

本当に普段は、よく笑う、気さくな姉で、一見すると、一般人のようにもみえるが、真の姿はやっぱり根性のある馬術部員なのではないでしょうか。

☆1年目

佐藤美幸 (部報・理Ⅲ系)

拝啓、大好きなお馬さんたちへ ——

あなた方とつきあいはじめて、はや半年が過ぎました。

初めて触れさせてもらった時は、おっかなびっくり。

でも、どこまでも優しい眼をしたあなた達に、私はすっかり夢中になってしまったのです。

いつも、低い位置からしか世界を眺められなかった私にとって、あなた方の背中の上は、少し不安定だけどとても気持ちのいい場所でした。

……ただ、ひとつだけ、お願いをきいていただけないでしょうか？

“しゃがんで、乗せてくださいな。馬さん！”

☆

☆

☆

「うーん、うーん、胃が痛いよー」と彼女の声が後ろから聞こえて振り向いても姿は見えない。そのまま視線を下げると、そこにはお腹をさすっている彼女が立っている。慢性的な胃痛にもめげず、毎日その小さな体で飛び乗りと悪戦苦闘しているが、夕当後、木馬で黙々と練習している努力家である。そんな彼女を僕は尊敬しているけど、山の手線の中でKちゃんと声を張り上げて喧嘩するのはとてもはずかしいので止めてください。

佐藤留美子 (馬具備品・医短)

夢は遠くなってしまった。

でも諦めてしまうことができなかった。まだ希望はあると思いたくて。

中途半端はイヤだと思いつつ、なんてハンパな毎日なんだ！

優柔不断で、他力本願な自分ですが、なにとぞ末長く見守ってやって下さいね。

※注：道産子だからって私は寒さに強いわけではナイ。とても寒がりです。念のため。

☆

☆

☆

けなげで、やさしい女の子。

「さとる」と呼べば、どんぐりまなこをくりくりさせて、上から見下ろしている。

つらいこと、人知れず、いっぱいかかえこんでいるのに、

みんなの前では、悲しい顔、しません。

彼女は、精一杯の笑みで、みんなに働きかけます。「がんばろう」って。

彼女は「メイ」と呼ばれていました。

「なぜ」と聞いても「エヘヘ」って、また笑うんです。答えてくれません。

しかたなく僕は彼女のことを「さとる」と呼びます。

「さとる、がんばれ」

清水 礼子 (レシート・理Ⅲ系)

Que sera, sera.

Whatever will be, will be …

やっぱり、人生、楽しまなくっちゃ。

☆

☆

☆

一般名 世渡 馬子。

由来はその名の示す通り、世渡りがウマいからである。そのウマさで彼女の右に出る者はいない。

が、左に出る者が影にいるというウワサである。もう弟子を育てているのだろうか。

それはさておき、彼女には、さすがアメリカ留学、東京のCity・Girlと思わせられる何かがある。それは何かというと…… 見てればわかるって！

高梨 恵美 (文化・理Ⅱ系)

今まで、後悔だらけの人生だった。

4年後、後悔だけはしたくない。

☆

☆

☆

なし といえば、

①顔色が悪い。②ためいきをよくつく。③変な時に、変に元気になる。

よくわからん子やおと思うけど、なんかかわいいけど、もっと色つやがよくなってくれないと、きたえてやろと思ってもでけへん。この子はきっとあんまりおいしい物食ってないんですよ。故郷のお母さん、なんとかゆってやってもらえまへんか？馬術部ゆーもんは、体力が勝負やで！他はいらんけどね。

高村 理香 (部報・歯進)

入部したばかりの頃 馬がみんな同じにみえた。

でも、みんなちがう。人間みたいにそれぞれ個性がある。

馬って こんなにかわいいなんて知らなかった。

☆

☆

☆

春。四月。「私、入部します！」かわいい女の子が私の目の前に現れた。彼女は今の若いモンには珍しく、底抜けに明るくて素直な働き者。入部当初、自信なげに馬に乗せられていた彼女、いつのまにか、たくましく成長していたのだった。とうとう、四年間この馬術部に尽くすことに決めたのか、はたまた部報の鬼となる事を決意したのかわからないけど、あの女らしく結んだ髪のをパッサリ切ってしまった。そーいえば、去年の部報のねーちゃんだった、あの、K姉の“清楚・可憐”というイメージが

見事にぬりかえられてしまったのもこの時期だったっけ。本当に恐い役職だ。部報って……。

これからもっと大変になると思うけど、持ち前の根性と明るさで、ともすると縛られがちなのこの馬術部の中で、のびのびとやってほしい。馬に乗れる歯医者さんって、すごいと思うな☆ がんばれ！リカちゃん!!

田村 亮 一 (作業・水産系)

人は俺の事をガキだというが、そういわれるのは決して嫌いではない。夢を見失い、ずるさだけを身に付けた大人になんかなりたくないし、そんな大人になるぐらいならガキのままの方がましだ。せめて、自分の考えぐらいはいつまでも持ち続けていたい。

☆ ☆ ☆

個性派北水三羽鳥の一人。本当は、よく気も効いて、行動力もあり、まじめなものにもかかわらず、そのルックスがじゃまをして、損な役まわりを演じてしまう星の元に生まれついた彼は、馬術部にいながらにして彼女をつくる方法について、今日もひたすら明るく悩んでいるのでありましょう。

外山 敬子 (馬具備品・理Ⅲ系)

北大へ来て1日目教養へ向う途中で見た。馬を。
道路側のパドックにいた黒いうま。ドン。

ああ、馬だ。馬がいる。ものすごく遠い存在だった。

でも今は。ここが私のいる所。馬が私の心の友達。
馬がかわいい。大好きだ。かわいいとしか思えない。

いつかつらくなる日がくると、よくいわれるけれど、それまでは、
許されるまでは、かわいがっていたい。

☆ ☆ ☆

誰かが何か仕事をしているとき、「手伝おうか。」と言って何かしらいつも働いている敬ちゃんです。「朝当の人がさ、練習後に寝わらをひっくり返している時なんか、暇な人が手伝ってあげれば早く終わるし、それにそういうことを通じてみんな仲良くなれるじゃんねー。だから、もっとみんなで協力体制っていうかそういうもん作っていった方がいいと思う。」と彼女は言っていた。言うだけなら誰にでもできるけど、彼女は決して口だけではない。まさに有言実行の人です。(こんな事を書くと、「何てこと書くのー!」と照れ屋の敬ちゃんに叱られそう…) Butとても頼りがいのある敬ちゃんにも唯一弱点があったのです。それは感字、あー違った、漢字です。「時間厳取を守る」「新しい役職の豊富(抱負のつもりらしい)」など数々のヒット作を出してみんなを笑わせてくれます。まったく敬ちゃんったら…。時々、何も無いのに「へへっ」と笑いだす。「どうしたの?」と聞くと、「へへっ、何でも無い。」と笑顔で答える。とてもしっかりしているんだけど、どこか抜けているみんなの人気者の敬ちゃんです。



野田 英文 (コンパ・理I系)

大きな白い壁が。小さな自分の前に。鏡の向こう側に住みたくなることがある。虹の向こう側は楽しいかなあ。でも、なぜ？

月の暗い部分に。シド・バレットの姿が。

狂気の笑みをたたえて。でも、なぜ？

大きな白い壁が。小さな自分の前に。

でも、

なぜ？

☆

☆

☆

中野兄、根井兄にひけも劣らぬ、いはゆる「ドラキ子」の彼は、プロ野球のシーズン中はいつも、試合結果が気になります。コンパ委員の彼は、コンパの席においてドラゴンズの応援歌を歌いまくりドラゴンズファンのみならず、皆を盛り上げてくれます。ふだん彼はよく、ぼ～っとしているように見えますが、一度SSに支配されれば変わります。そうです、メガホンを振り回し静かに飲んでいる人々に襲いかかってきます。そして次の日にはケロッとして、何も憶えていません。そんなところですから、皆さん彼を許してあげてね。と言っても彼の場合、個人攻撃だから大丈夫。

それから、忘れてはならないことがあります。彼はピンク・フロイドのファンでもあり、既に彼らの宗教的な音楽によって彼の神経は破壊されつつあるようです。そして、その信仰宗教を我々に広めようと、CDを気軽に貸してくれます。

へへっやらし！

橋本 新 (飼料・水産系)

1	なんにもない うまれた 星	なんにもない うまれた がひとつ	このせかいに なにがうまれた くらいうちゅうに	うまれーた
---	---------------------	------------------------	-------------------------------	-------

2.	まっくらけの みえたよ 星	まっくらけの みえたよ が高く	僕の心で なにかみえたの？ はるかむこうに	みえたーよ
----	---------------------	-----------------------	-----------------------------	-------

☆

☆

☆

水産三人衆の中の1人。酔うと説教じみた話が好きで、理論だてて話す。けっこう堅い奴かと思ったりもするが、普段は、歩いている時も馬に乗っている時も、何だかフワフワしている雲のようにソフトな印象を受ける。ひよっとすると、身も心もデリケートなのかもしれない。

ともあれ、1年後には、函館の東山へ行かねばならないはずである。ソフトな面に、ハードな面をプラスして、札幌から巣立って行って欲しいものである。数少ない関西人の底力を、皆に見せてやれ。

平山潤子 (衛生・理Ⅲ系)

高校時代まではとてもスマートだった私。「大学に入ったら、みんなやせるんだって。」と聞いて、これ以上やせたらどうしようと内心心配していた私。ところが、北海道に来て馬術部に入った私は、知らない間にとてもたくましくなっていた。「力仕事なら任せて。」と言える様になっていた。でも、体よりもむしろ心の方が強くなって欲しいと願っている私です。

☆ ☆ ☆

“ぼーっとしてる”これが彼女の形容詞。

No.2と呼ばれる“ちょもちゃん”は、キャシャな体で大喰らい。

「ねエ。たけちゃんのすき焼定食、食べにいかない？」

「う～ん。えっでも下宿の食事は？」

「うん。でも足りないから…。」

へえー。そうなんだあ。しらなかつたあ。すごいねえ。



堀川環樹 (施設備品・理Ⅲ系)

馬術講習会で部室に入った時、あまりの汚さに息をするのにも抵抗を感じた。

新歓合宿の時、SSの染み込んだ布団に寝ることに何も感じなくなった。

今、部の匂いの染み込んだジャージで体育の授業に出ている。

このままではいけない！卒部するまでに何とか正常な感覚を取り戻さなければ！！

☆ ☆ ☆

— コンパでよくある光景 —

「ま、まずい、首を振り出したぞ。みんな気をつけろ！」……心なしか彼から遠ざかろうとする人がいるような気がします。

いよいよ首の揺れが激しくなってきました。……「オレ、酔ってねえよー。」

「で、でたー。逃げろー。」……パシッ、ドスッ、「イテー。」……「ふざけんじゃねえよー。」……

これは大部分冗談ですが、彼が酔うとこわくなるのは本当です。来年入ってくる後輩に、どれほどの被害がでるか不安に思う人は少なくないはずです。

でも、普段の彼は、「えっ、オレッ？」と、とぼけることもあります。とても頼れる人柄で、男子の、いや一年目全体の中心的存在といえるのではないのでしょうか。父親から受け継いだ北大馬術部の血をみなぎらせて頑張る「環ちゃん」です。

松島健滋 (施設備品・水産系)

北大合格通知を受け取って数日後、北大体育会から送られてきた「北溟」の中でまっ先に剣道部の頁

に目を通し、俺にはやはりこれしかない！と意気揚々と剣道具一式を全て愛知から持って来たのに、何処でどう間違ってしまったのか自分はココにいたりする。まさに“運命のいたずら”としか言いようがない。何故、いつ馬術部に入部したのかは自分でもわからない。新歓馬術講習会後のコンパで、悪魔的な味と香りが評判?!のSSによって自分の意識と思考力を奪われてしまい、いつのまにか、この世界に引き込まれてしまったのだ！それ以来、そのSSからは逃れることはできなくなってしまっている今日この頃である。でも最近SSに魂を奪われることも少なくなり、コンパでも最後まで生き残れるようになったのよ♥ん〜っ、渋い！さて、もうここまで来てしまっは仕方がない。一度きりの自分の人生、ここで一発「大なる賭け」でもしてみましようか。先輩方、それに特にドンパの皆さん、遊び人の僕をよろしくね♥ Friends will be friends right till the end!

☆ ☆ ☆

「おいっ、おまえ。ぼんしゅを飲め、ぼんしゅ。やっばいいべ、ぼんしゅはよお。おまえ、中野さんと泊まりだとすごいぞ毎回。先ずビールをちょろっとやるだろ。それからSS。SSをゴーっとのんで、最後にゴードーの4羽。もう、きたきたきた、まじで。んで次の日競馬場で、『おばちゃん、水ください。冷たいやつね。』だって、あれはまじでつらかったぞ。おい、おまえも中野さんと泊まりのとき来い。やっば泊まりはああでなくちゃあ。あのすげな話をするのがいいんだよ、これがまた。〇やしさんとかやらしいんだぞ実は。中野さんは中野さんですげえからなあ。今度おれ、中野さんに連れていってもらうからな。おまえも頼んどいてやるぞ。」と、いつも言っている馬術部No.1の酒豪、松くんです。

望月真美 (記録・理Ⅲ系)

趣味：ピアノ テニス 乗馬

なんて書いたらカッコイイ。でもウソじゃないもんね。

一見すればお嬢様みたいでしょ。んー、“乗馬”が実は馬術部だということがバレたらおわってしまう。

この早寝早起きの生活。大学生の生活とは程遠い時間帯で活動してるなー、とつくづく感じる今日このごろ。私が出かける時、帰ってくる人々に会うと悲しくなってしまう。でもこの部に入ってしまった以上、仕方のないことです…。

だからといってクヨクヨ考えてるよりは寝た方がいい。

とにかくやれるとこまでやってみよう！これがいつも行きつく結論 なのです。

☆ ☆ ☆

口の暴力No.1といえば、このもちこ！雪崩のようにおしよせてくる口の暴力には、だれもかなうものがない。もうみんなたじたじ！‘記録’を一瞬にして、こわくて近寄れない役職にしてしまったのは何をかくそうこのもちこである。しかし、話題が豊富で皆の笑いを絶やさないもちこを尊敬しているのは私だけではないだろう。このもちこがいる限り部室が静かにならないのはいうまでもない。

横山 勉 (文化・理Ⅱ系)

ちゃらちゃらとした、平凡な大学生生活を送ろうと思っていた僕に、友人から魔の誘いがかかり、だまされたように入部してしまった。言いだしっぺの友人は、あっさりとやめてしまった。

「コノヤロー、無責任なことするんじゃないねー！おまえさえいなければこんなことにはならなかったんだぞー。」馬術部がつまらなくて、バイトばかりでただ辛いだけだったらこうも言いたくなるだろうが、馬術部にはそれ以上のものがある気がする。そう考えると、彼には感謝しなければならない。でも、僕はまず第一に学生である。今、現実とはかけ離れてしまっているが、理想はしっかり持って行きたい。

ところで断っておきますが、僕は好きで部室にこもっているわけではありません。その証拠に、この部報が発行される頃には、僕は近くに引っ越して、部室ではほとんど見かけなくなっているはずですよ。たぶん、いないと思います。いないんじゃないかな。ま、ちょっとはこもってもいいか。

☆ ☆ ☆

「チッチッチツ、ドカーン！」……彼はつーくん。お返しコンパで華々しくデビューを飾り、見事にスターダムにのしあがった。変わり者しかいない1年目の中でもとりわけ強烈な後光を放つ彼は、最近某No.1の女子に弟子入りし「目の暴力」を自由自在に使いこなし我々を恐怖のどん底に落し入れる。なんたって彼は、チアフルと一緒に速歩をし、跳ね回るのが大好きなのだから怖いものなどあろうはずがない。……しかし優しいところもあり、日高合宿のマラソンでは、N兄の上級生としての体面を慮ってわざとゆっくり走り、兄に花をもたせたことは周知の事実である。(何も知らないN兄は、4年目の先輩方に「僕が一番速いんですよ！僕が!!」と自慢していた)

また、オリンピック以来T兄、I₁兄、I₂兄らの後継者となるべく部室に棲んでいる。家財道具一式がやってくる日ももう間近であろう。……最後につーくんへ。「もう一度、白いスカートひるがえしてシンデレラになって、長屋さんに迫ってみてくれない？」 — あなたのファンより —



カシワクレバー号とノースファイター号

編集後記

例年どおり、4月発行を目標に頑張ってきましたが、力及ばず、大幅に発行が遅れてしまいました。部報責任者として反省し、お詫び申し上げます。

今回の部報では経費削減のため、すべてワープロ化いたしました。そのため、ややみにくい点がございます。また、校正に校正を重ね、誤字・脱字のないように心がけましたが、目の行き届かなかったところもございます。御了承ください。内容的には、全日学特集、ドンホッパー特集と豊富ですので、よみごたえがあると自負しております。

「ドンホッパー号の離厩報告」を昨年、騎乗していた仲村兄に依頼しておりましたが、御本人の意向により割愛することになりました。ドンホッパーは、北大馬術部において永遠に不滅であります。部員の心に深く刻みこまれることでしょう。

最後に、斎藤先生、岡田監督、半澤先生、長屋さんをはじめとする原稿をお寄せくださった方々、また、広告主の方々、そして、私たちを励ましてくださった皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

編集責任者 佐藤美幸 高村理香

音信 幸段 第34号

平成元年9月 発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

TEL(011)716-2111(内線5597)

TEL(011)737-1626(直通)

編集者 1年目

印刷所 北大生協 北大印刷

表紙 高村理香



★荷主さんの心を運ぶ赤帽

全国赤帽軽自動車運送協同組合連合会加盟

赤帽北海道軽自動車運送協同組合

札幌市東区北26条東14丁目

本部 配車センター ☎(代)011)711-6711 FAX(011)741-2718

旭川支部 0166-22-1500 釧路支部 0154-25-4730 苫小牧支部 0144-73-3266

函館支部 0138-45-1131 北見支部 0157-61-2982 名寄支部 01654-2-5304

帯広支部 0155-22-4203 室蘭支部 0143-44-2295

美容室 *objet*

北18条店

北区北17条西3丁目 ☎ 757-1166

パーマ受付/AM10:00~PM7:00

定休日/水曜日

ポロンガ、
こころが
アキラ
メ。

二輪+普通免許のセットコースがお得です。
※東京海上の低金利免許取得ローンもご利用いただけます。

北大生協指定校
技能試験免除の北海道公安委員会指定

A 麻生自動車学校
札幌市北区北36条西5丁目 ●地下鉄麻生駅・北34条駅下車徒歩5分

お問い合わせ・お申し込み ☎726-5251

金属板加工専門

株式会社

石川金属製作所

●全種コンピュータ加工

- 早い、安い、正確!
- 全種の金型（特殊金型含む）を取り揃えております。
〔金型料金当社負担〕
- 多少にかかわらず、ご相談に応じます。

札幌市西区発寒1086(第2鉄工団地)

☎(011) 663-1714(代)

内外産エンバク販売

株式会社

大谷哲也商店

大谷哲也

札幌市中央区南一条西二十八丁目

電話代表 (011)611-2531番

中央競馬・道営競馬 競走馬具一式販売

木村馬具商事

木村 武

札幌市白石区北郷3条9丁目4-33 TEL (011)875-2821



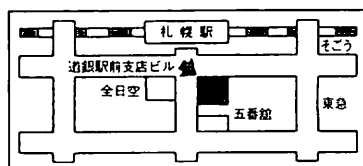
ボリューム満点 コンパ200人までOK!

やきとり 居酒屋 きよた

当日誕生日の方に粗品進呈 新歓コンパ 受付中!!
宴会・御商談にご利用下さい。
札幌市北区北17条西5丁目北向 電話 747-7000

◎札幌駅前CONTACT

- 受付時間 10:00AM~6:00PM
- 定休日 日曜・祝日
- 学生割引あります。健康保険証をご持参ください。



〒060 札幌市中央区北4条西3丁目 道銀駅前支店ビル7F ☎ (011)222-2122

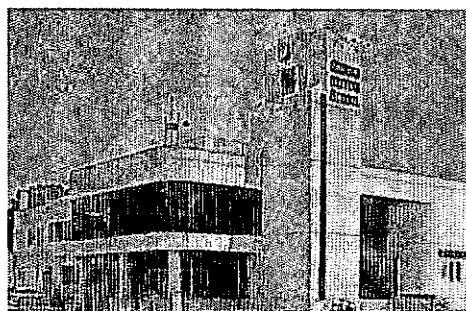
北海道知事認可・北海道公安委員会指定

札幌篠路自動車学校

札幌市北区篠路1条8丁目6番30号 ☎771-2224(代)

- 普通自動車
- 大型特殊
- 身障者科
- 自動二輪(中型・小型)

北海道大学専用スクールバスが運行しております。



今、確かな資格をめざして…

- 建築士
- 土木施工
- 衛生管理士
- 社労士
- 造園施工
- 調理師
- 行政書士
- 管工事施工
- 宅建取引

学生割引あり



●詳細パンフ無料進呈中!

初学者合格指導21年の経験と実績を誇る

HK 国家試験北海道研修センター

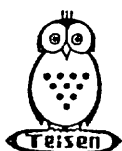
札幌校 / 〒064 札幌市中央区南19条西14丁目2の35 ☎(011)563-6251
旭川校 / 〒070 旭川市1条11丁目左1号協案ビル1F ☎(0166)25-1911
帯広校 / 〒080 帯広市公園東町1丁目3の18 ☎(0155)24-5551

皆様のボウリング場
イイ汗ながそう!!



オートマチック

スコアラー 34レーン



サッポロテイセンボウル

札幌市東区北7条東1丁目

☎742-2131



1F

自由人舎時館

N16W 4 ☎726-0158

たまりBAR

時館倶楽部

2F

N16W 4 ☎758-7660

医療法人 はまゆう会

サトウ歯科

愛媛県新居浜市土橋1-10-24

電話 0897-41-6551

●各種コンパ・宴会承ります 数名様から50名様まで
クラシックを聞きながらのめる

居酒屋 塩野屋

北区北18条西4丁目18条ハイツ地下 TEL 726-1759

普通車・自動2輪車の運転免許は
北海道大学に最も近く、生協指定の

教習時間8時～21時

★毎日入校できます★

桑園自動車学校

札幌市中央区北8条西14丁目 TEL 271-7511 (代表)

どうぞ!!

- 北海道公安委員会指定校で技能試験免除
- 補習料金は定額を実施中（格安取得で好評）
- 桑園駅や市営バスの停留所が近くにあり通学に極めて便利
- 当校の無料送迎バスが北区北大方面、西区琴似・西野・
山の手・発寒・八軒方面、東区苗穂方面に運行しています。
- 入校申込書は、北大生協店にあります。

産地直結、高級タオルのデパート

(株)  竹又タオル 札幌店

札幌市中央区南大通り西10石山通り西向

電話 241-7406・231-6009

7円コピー
Do·Copy

札幌市北区北18条西4丁目 ☎ 747-6876
十八条ハイツ1F

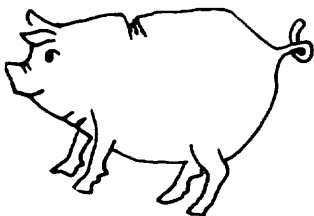
24:00
☎ 716-2575
食品、酒類、塩、たばこ
つちの



有限会社 東京稲毛屋

代表取締役 広山二郎
東京都渋谷区神宮前6-11-4
☎ 03-400-5929

ポリューム満点



味のとん子

とん子

北区北18条西5丁目 ☎ 747-5809

高血圧症に伴うどうき、息切れ、
手足のしびれに

牛黄清心元

東急薬局

札幌市中央区北4条西2丁目
さっぽろ東急百貨店1階
電話(011)212-2447番

ジンギスカン 焼鳥

の店

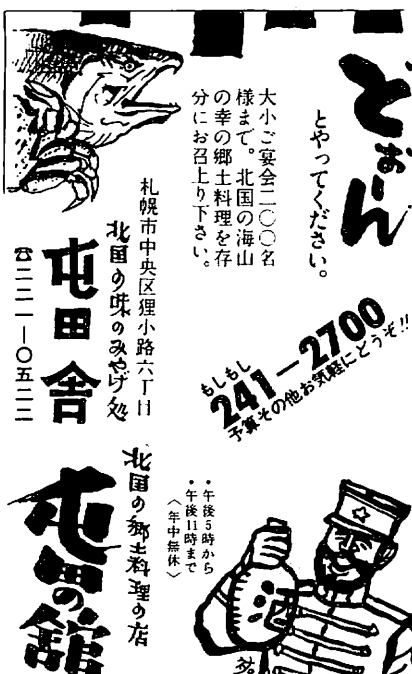
コンパお待ちしております

鳥やん北24条店

北24条西4 ☎709-5085

義経本店

北18条西5丁目 ☎726-2360



とまごん
とやっってください。

大小ご宴会三〇〇名
様まで。北国の海山
の幸の郷土料理を存
分にお召し下さい。

札幌市中央区狸小路六丁目
北国の味のみやげ処

屯田舎
☎三三三-〇五三三

屯田舎の館
北国の郷土料理の店

もしも
241-2700
予算その他お気軽にどうぞ!!

・午後5時から
午後1時まで
(年中無休)

ご予算は…?内容は…?

おまかせ下さい!!



味とまごころでご奉仕

仕出し料理



中一

札幌市北区北18条西4丁目(18条ハイツ地下)
事務所/北区北18条西5丁目

☎716-6751



土木・建築・設計施行
造園・塗装・設計施行

道協建設株式会社

代表取締役 美馬 久之

札幌市中央区北16条西16丁目
札幌競馬場中央通用門前

電話 716-6455
726-6756・6752

ナカジマ美容室

学生デー毎週金曜日

パーマ

¥ 4,800…… **¥4,500**

(シャンプーカット、ブロー付)

カット

¥ 2,880…… **¥1,500**

北区北20条西4丁目

☎747-7662

- 各ストーブメーカー
 - 家庭用品
 - プラスチック用品
 - カーペット
 - ファンシーグッズ
 - 厨房用品
- 各種とりそろえてあります。


株式会社 **平田金物店**

札幌市北区北18条西4丁目

TEL 716-7536

747-7616

市内無料配達致します。

お気軽にお電話下さい。  はしもとフLOWER

(地方配達も
受け承っております)

橋本秀弥

札幌市北区北21条西5丁目18番52号

TEL 709-7450番

大自然の価値ある休日

乗馬・テニス・ペンション

FRONTIER HOLIDAY RANCH

フロンティアホリデイランチ

〒061-33 北海道厚田村しっぷ165の3

TEL (0133)66-3858

大衆中華

札幌で
2番目に美味しい店



宝来

札幌市北区北24条西3丁目
TEL 758-5105

ラーメンなら

北龍

営業時間 / 午前11時〜午前2時

北18条西6丁目
☎ 747-11376

(有)北洋給食センター

給食弁当、仕出し、お寿し、オードブル
多少にかかわらず注文うけたまわります。

東区北22条東1丁目304番地
TEL 722-5665



北海道大学生生活協同組合

文集、論文、文献、サークル誌、機関誌、新聞、学会
抄録、学会講演集、記念誌、業績集、部・会報、テキ
スト、大会プログラム、はがき、名刺、コピー、
製本等

活版/オフセット/タイプオフセット
写真印刷

北大印刷

札幌市北8条西8丁目 T(学内)2084.3282 直通(747)8886

医 薬 品 卸
IBM コンピュータ販売



ホシ伊藤株式会社

代表取締役社長 伊藤 太郎

本社 札幌市中央区南 8 条西14丁目1397番地
電話 大代表<011>561-6111

支店 札幌中央・札幌北・札幌西・札幌東・帯
広・釧路・北見・函館・函館東・旭川・
旭川南・空知・室蘭・苫小牧・岩見沢・
小樽・千歳・江別・伊達・八雲・網走・
遠紋・留萌・名士・根室・後志・日高・
稚内・東京

よりよき生活と平和のために

北海道大学生生活協同組合

TEL 746-6215

行動派へのパスポート

(大学生協指定)

—普通免許・大型特殊免許—

■日曜日、祭日も教習できます。
■教習時間 / AM9:00~PM9:50

北海道公安委員会指定・技能試験免除

北海道中央自動車学校

札幌市東区北25条東1丁目(創成川沿い) TEL 711-3344

(社)日本ベストコントロール協会 (社)日本しろあり対策協会 会員

建築物ねずみこん虫等防除業 北海道知事登録

株式会社

北海道防除サービス



ネズミ・害虫など有害生物の防除、殺菌消毒・除草の施工・管理請負

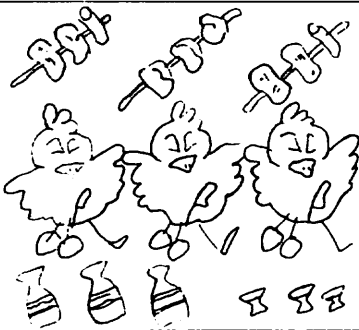
本社 札幌市北区新琴似6条11丁目9-20 札幌営業所 ☎ 001 ☎ (011) 761-2658
苫小牧営業所 苫小牧市日新町1丁目3-8 ☎ 053 ☎ (0144) 73-3970

学生さんにはネタもシャリもジャンボ
とにかくジャンボ ネタンは同じ

舌鼓 鮭の正本

コンパは30名様までと40名様まで 11:30~12:00 30

北16西4北向 ☎746-4231

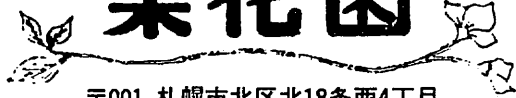


焼鳥 みねちゃん

札幌市北区北17条西4丁目
カネサビル1F TEL 746-0717

Flourist

葉花園



〒001 札幌市北区北18条西4丁目

TEL 737-6241

夜間 (011) 737-6724

四季おりおりの花を
美しいデザインで
お届けいたします。

慶弔用花籠・二段スタンド
ノーブル・アレンジメント
花束・ブーケ・コサージュ
手造りのアートフラワー
花材一式etc

食料品・雑貨

山本商店

札幌市北区北十九条西七丁目
TEL七四六―六二八五

医薬品、動物用医薬品、化粧品

山本保善堂薬局

〒060 札幌市中央区北4条西15丁目

TEL **611-4553**
641-4178

腕旗附カバトメタ手記記出
幕属ブッロダオ念世
章織品楯チイルル拭品章兜

各種製造販売元

山禮式国旗掲揚器発売元

株式会社



〒060 札幌市中央区南1条西7丁目

札幌(011)大代表241-1641番

受信略号「サツポロ」ヤマレイ

取引銀行 拓 銀 本 店

振替口座 小 樽 2 9 0 9 番

お客様とのふれあいを大切に...!
食卓に豊かさとお話をとおとどけ
します。

LIQUOR&FOODS
 **よこやま**
北22条

■営業時間■ あさ10:00～よる1:00

北22条西5丁目 ☎716-3593 年内無休

COFFEE & CAKE

LIINIZ

リンツ

大澤 竜子 (40年卒)

☎251-7757

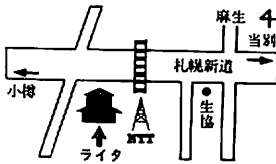
札幌市中央区南20西3 Kビル(北向) B 1



馬具 shop

REITER

ライター



札幌市北区北32条西9丁目
TEL 716-5779

〈広告主へ感謝のことば〉

このたび、昭和63年度北大馬術部部報発行に際し絶大なる御援助をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げるとともに諸社・諸店の御繁栄を礼り、ここに深く感謝致します。

(北大馬術部)

